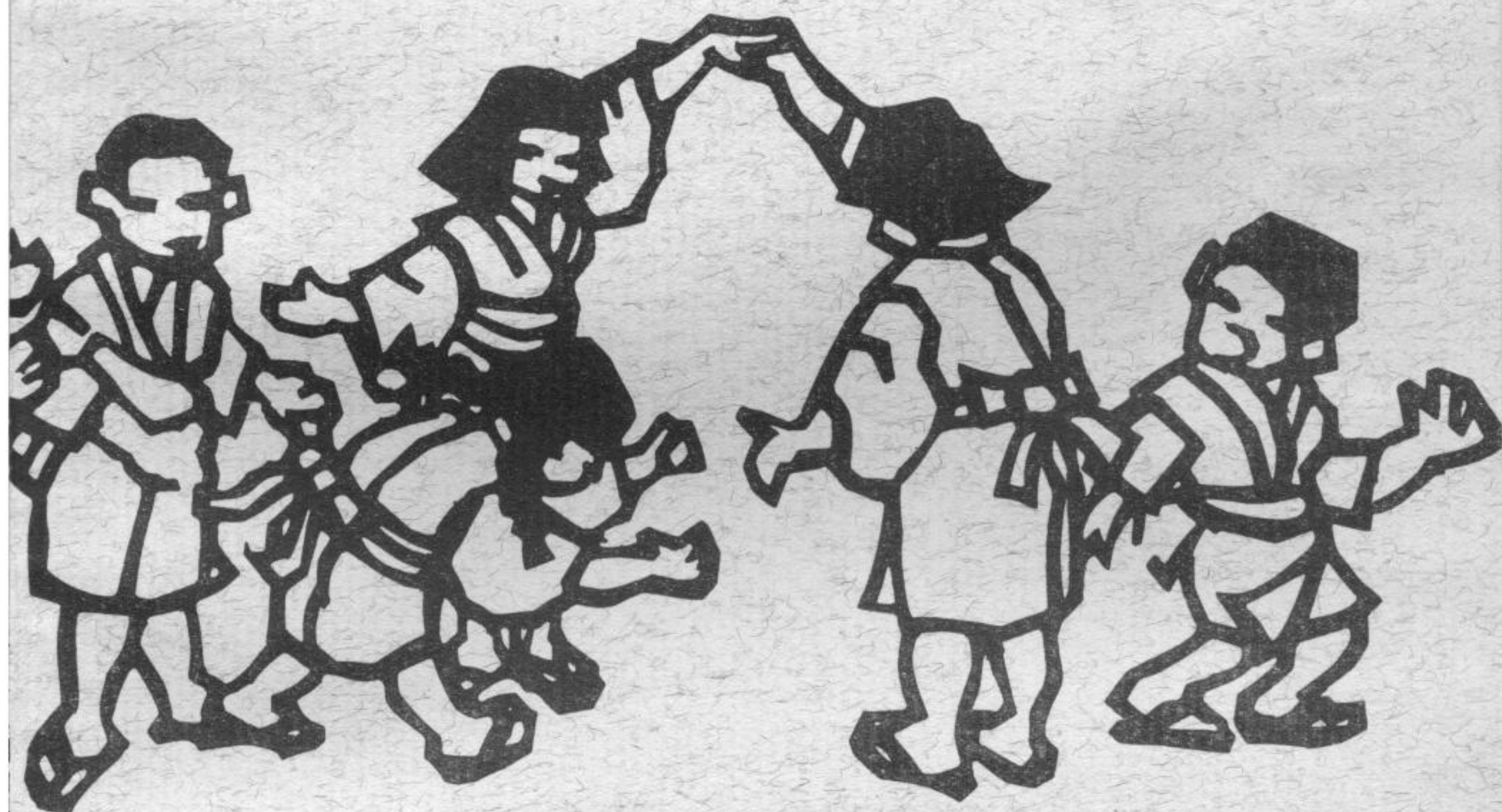


社団法人岡山県精神薄弱者育成会

創立 30 周年 記念

# 30 年 史 (地域の部)



昭和 63 年 8 月 28 日

社団法人岡山県精神薄弱者育成会



はじめに

## 30年史(地域の部)の発刊にあたって

岡山県精神薄弱者育成会発足20周年には、記念誌「20年の歩み」(B5・64ページ)が発刊されました。

これは、当時の本会副会長故小松原次郎先生が、県レベルの移り変わりを重点にしながらも、地域の動きもできるだけ書き加えてまとめられたもので、本会の苦しくも尊い歩みが、如実に現わされている名作と言えます。

あれから10年、人変わり世移り30周年を迎えました。この間、地域においては100に及ぶ育成会や親の会が漸次組織され、この子この人の育成に大きく貢献し今日に至りました。

先人の涙ぐましい足跡も、30周年の歳月を経ると、記録を見失ったり事実も誤り伝えられたりいたします。

今回は、地域の歩みを重点にして取りまとめ、前回の「20年の歩み」を補完させていただきます。

温故知新、地域におけるそれぞれの会の発展に役立てば幸いです。

昭和63年8月28日

代表 岡山県精神薄弱者育成会

# 目 次

はじめに	30年史（地域の部）の発刊にあたって	1頁
1	社団法人 岡山県精神薄弱者育成会30年史概説	5
	○ 年 表	8
2	地域・施設における育成会や親の会の歩み	
	○ 育成会・親の会設置年度一覧	13
	(1) 地 域 育 成 会	15
	(2) 地 域 親 の 会	31
	(3) 施 設 親 の 会	61
	(4) 養護学校 P T A	81
おわりに	編集を終えて	85

— 表紙の版面は岡山市立岡北中学校長  
藤田天一氏による —

1 社団法人岡山県精神薄弱者育成会30年史概説



# 1 概観 岡山県精神薄弱者育成会30年史概説

## ア 萌芽期（昭和30年～33年）

岡山精神薄弱児育成会が結成されたのは昭和30年9月30日であった。附属小学校特殊学級の親24人・鹿田小学校特殊学級の親15人・岡山市内小中学校長約30人・県内特殊教育学級研究会員約30人計約100人が附属小学校講堂に参集した。

当時、この子たちの教育に当たっていて、まず気がついたのは、たいていの親が悲しい思いに沈み、この子たちを世間から避けがちになっていることであったと言われている。

親たちの閉ざされた気持ちを開き、地域との交わりを深めることが、この子たちの教育にとって最初に取り組みねばならない課題と考え、まず親同士が遠慮なく話し合える機会が望まれ、これにこたえるものとして生まれたのが育成会であった。

## イ 若葉期（昭和34年～37年＝特殊学級期・地域育成会設立期）

育成会が結成されたころは、毎月1回川崎病院北隣りのリバティホールで、担任者の話しを聞いたり、近江学園・信楽学園などの様子を知らせてもらったりして、特殊教育のあり方を探っていた。

34年5月8日、岡山市を中心とした育成会活動が発展して岡山県精神薄弱児育成会が発足する。県下の代表120人が旭東小学校講堂に参集して発会式を挙行了した。

地域の育成会や親の会は、これまでに岡山市・笠岡市・玉野市に設けられており、34年から37年までには倉敷市・井原市・旭川学園・総社市・玉島地区・成羽町・熊山町などに設けられた。

特殊学級が普及し育成会が活発になるにつれて、親たちの自覚が高まり、この子たちの生涯にわたる福祉や中・重度の子どものそれが課題となってきた。この動きは、特殊学級の教育を核として地域民へ発展した育成会とは別に、親たちだけの会を作ることも必要となり、36年倉敷市に「手をつなぐ親の会」が結成され、漸次各地域へ波及する。

35年、この子この人の理解を社会に求める運動として「愛の10円」募金を始めた。この募金は、各方面の支援を得て県下小中学校児童生徒及び高等学校生徒で行われ、県育成会の精神的経済的支

柱となっている。

## ウ 伸長期（昭和38年～45年＝中央児童相談所期・養護学校設置期）

これまで事務局は県教委指導課にあって特殊教育担当指導主事が事務に当たっていたが、事務が急増したために38年5月小松原次郎氏が事務局長に専任され、事務所を中央児童相談所の一室に開設する。

38年度の特特殊学級は、小学校159・中学校63に達した。こうした中で「重い障害児に教育を、中学校特殊学級卒業生に教育を」という親の願望が熟して養護学校設置運動へと伸展した。

県育成会は、教育事務所単位に県立養護学校を設置していただくように関係当局に要望することにした。

39年度に倉敷市立倉敷養護学校、40年度に岡大附属養護学校が設置され、46年度に県立誕生寺養護学校が開設される運びになった。

地域育成会幹部研修会・精神薄弱問題懇談会を開始し、関係者が交流によって精神薄弱者の理解を一層深められることを願った。

また、43年には精神薄弱者相談員94人（国40人・県54人）が全市町村に配置された。

45年には心身障害者対策基本法が制定され、発生子防・医療・保護・雇用・施設・年金等にわたる総合的推進が図られることになった。

この年には、「親なきあとの保障」のため岡山県心身障害児扶養共済制度が発足している。

在宅重度児療育の要望にこたえるため、療育指導の会を開始したのもこの年であった。

## エ 充実期（昭和46年～57年＝総合福祉会館期・療育充実期）

46年、専務理事・事務局長に坂本賢氏が就任し、事務局を岡山市福祉文化会館へ移した。

48年、精神薄弱者の原因調査を実施し、全国調査に協力した。本県（200人抽出）の調査結果は次の通りであった。

難産	23.0%
熱病	17.5

未熟児	5.0%
脳障害	5.0
母体病虚弱	3.5
その他	36.5
不明	9.5

県委託事業として48年から相談員研修(年3回)、52年から療育相談コーナー(毎週水曜)を開始した。療育相談コーナーには年約100人が来談していた。

49年1月療育手帳を1,626人(A970人・B654人)に初交付した。

51年に県総合福祉会館が設立されると同時に事務局をここへ移す。

55年に岡山市精神薄弱者育成会昭和町作業所が創立され、これは未就労者の自立促進に対応する民間作業所の第1号である。

56年は国際障害者年第1年であり「社会参加と平等」を旨とした長期行動計画が立てられた。

#### オ 開 花 期 (昭和58年～現在=法人整備期・作業所設置期)

58年4月社団法人に認可される。精神薄弱者の福祉充実にかけかわる社会的責任にこたえて、事業の多様性・普遍性・永続性並びに経理の安定性などを一層配慮することになった。

事業を大別すると、啓発普及・相談活動・奨励表彰弔慰・社会参加授産育成・関係団体育成の5領域とし、23を超える事業が実施されるようになった。

62年度の予算は2,700万円を超えており、これまでの推移の概要は次のとおりである。会員・助成金・愛の募金等の増加が予算額を増大させた。

年度	予算額(概数)	摘 要
34	40,000円	県育成会結成 指導誌5,000冊奨励費
35	540,000	愛の募金実施
38	1,440,000	愛の募金135万円
41	2,310,000	施設学校負担金増額 1000円→1500円
44	3,330,000	ピンチホルダー頒布
47	6,300,000	相談員研修県事業委託・ 福祉事業団補助
50	10,380,000	療育指導の会県事業委託
53	10,380,000	通所援護事業助成

57	21,600,000	負担金増
58	22,830,000	社団法人化 会員会費270万円
62	27,110,000	通所援護事業助成増

会員構成の現状は下表のとおりである。

種 別	団体数	構成員数	摘 要 (50年度団体数)
地 域 育 成 会	22	103,064人	31(統合)
地 域 親 の 会	41	1,973	26
施 設 親 の 会	25	1,390	17(700人)
養護学校PTA	6	552	3
関 係 団 体	3	490	3 特設 135人 養護 3 相談員 125
個 人 会 員	—	72	0
賛 助 会 員	—	27	0
計	97	107,568人	—

— 62.8現在 —

#### カ 符 来

岡山県における精神薄弱者数は約7,000人と推計でき、その年令段階に対応する現在の措置及び今後の施策は次表の「精神薄弱者の現状の課題」(案)を参照されれば幸いである。



精神薄弱者の現状と課題(案)

62. 9. 18

年 令	岡山県人口	精神薄弱者割合	精神薄弱者数	内 訳 (軽度)(中度)(重度)	措 置	当 面 の 施 策 等
0 ~ 5	142,000人	$\frac{2}{1,000}$	300人	(50%) (30%) (20%) 150人 90人 60人	入所施設 9人 通園施設 定 45 通園事業 定 60 障害保育 国 49 県 118 〈281〉	障害者保育 + 20人
6 ~ 11	172,000	$\frac{8}{1,000}$	1,400	700 420 280	小 特 1,114 養 小 323 〈1,437〉	養 小 部 + 45 (6学級) 入所施設の人数を含む
12 ~ 14	96,000	$\frac{8}{1,000}$	800	400 240 160	中 特 571 養 中 311 〈882〉	養 小 部 + 20 (3学級) 入所施設の人数を含む
15 ~ 17	89,000	$\frac{7}{1,000}$	600	(30%) (40%) (30%) 180 240 180	入所施設 298 養 高 定 270 〈568〉	養 高 + 30 (3学級) 職 訓 + 20 小 規 作 + 30
18 ~ 64 (内40~64)	1,161,000 (内609,000)	$\frac{3}{1,000}$ $(\frac{2}{1,000})$	3,500 (内1,200)	(25%) (40%) (35%) 875 1,400 1,225	小規作 198 更生 定 940 授 産 定 478 就業(×0.3) 1,155 〈2,771〉	小規作 + 50 更 生 + 100 授 産 + 150 就業(×0.45)+400 (3,500×0.45-1,155)
65 ~	250,000	$\frac{2}{1,000}$	500	125 200 175		高令者棟 175 生活ホーム 200 在 宅 125
計	1,910,000	$\frac{3.6}{1,000}$	7,100	(35%) (35) (30) 2,500 2,500 2,000		

割合は厚生省実態調査(46.10)を参考にする。

## ○ 社団法人 岡山県精神薄弱者育成会30年史年表

- 昭和30. 9. 5 : 岡山精神薄弱児育成会発会  
 ・岡山大学附属小学校に99人が参  
 会して発会(附属小学校関係24,  
 鹿田小学校関係15,岡山市内小  
 中学校30,特殊教育会員30)  
 ・会 長 川崎祐宣  
 副会長 内倉素子 小松原次郎  
 ・地域育成会の結成促進を議決  
 ・事務局は附属小学校特殊学級内
- 11.22 : 笠岡市特殊教育育成会発足  
 岡山に次ぐ県内2番目の地域親の  
 会
31. 4 : 指導誌「手をつなぐ親たち」購読  
 開始
31. 7.14 : 山下清展開催  
 (天満屋)10万人入場  
 純益15万円を育成会活動資金にあ  
 てる
32. 5 : 旭川荘旭川学園(精神薄弱児施設)  
 開設  
 小松原次郎副会長は終始設立に多  
 大な協力をする
34. 5. 8 : 岡山県精神薄弱児育成会発会  
 ・旭東小学校に郡市代表120人が  
 参会して全県組織を作る  
 ・会 長 川崎祐宣  
 副会長 児玉俊夫 小松原次郎  
 事務局は県教委指導課内
- 6 : 第1回特殊学級児童生徒作品展  
 年1回(38年まで継続)
- 8 : 笠岡学園(精神薄弱通園施設)開  
 設  
 県内最初の通園施設
- 8 : 特殊学級担任者研修会  
 2泊3日の研修(63年まで継続)
10. 8 : 県育成会報「会報」第1号発刊  
 (63.4.30 第67号)
- 12 : 第1回特殊学級卒業生就職懇談会  
 年1回(昭和38年まで継続)
35. 4 : 「愛の10円募金」開始  
 県内小中高の全児童生徒を対象
- 募金額49万円(85年度は1千万円  
 をこえる)
- 8 : 県立備前荘(更生施設)開所  
 全国で最初の成人更生施設 定員  
 70人
- 36.10.20 : 第1回精神薄弱育成会中国大会  
 (岡山大会)  
 岡山市葦川会館 390人参加
- 37.10 : 岡山市福祉年金制度を精神薄弱者  
 に適用  
 20才未満重度年7千円,中度年6  
 千円
38. 5 : 県育成会事務局を県教委指導課内  
 から中央児童相談所内へ移す  
 : 岡山県精神薄弱児育成会を岡山県  
 精神薄弱者育成会と改める  
 育成会の活動範囲が児から者へ広  
 がった
39. 5 : 倉敷市立倉敷養護学校開校  
 県育成会は特殊学級が200学級を  
 こえ,養護学校の設置を要望して  
 いた
40. 4. 1 : 岡山大学教育学部附属養護学校設  
 立  
 5 : 児玉俊夫氏 会長就任
- 41.10. 7 : 第6回精神薄弱者育成会中国大会  
 (岡山大会)  
 岡山市民会館 803人参加
43. 4 : 精神薄弱者相談員制度発足  
 全市町村に配置できるように要望  
 し,94人を依頼(62年度は125人)
43. 9.29 : 精神薄弱者相談員連絡協議会結成  
 会 長 藤原律太
44. 4 : ピンチホルダー配布  
 小作業所で製作したピンチホルダ  
 ーを町内会や婦人会の協力によっ  
 て配布,4年ごと
45. 4 : 岡山県心身障害者扶養共済保険制  
 度発足  
 (岡山市は42年9月1日から発足)
- 8.27 : 第1回在宅重度障害児療育指導の  
 ~28



会開催

湯郷温泉みまさか荘 2泊3日  
親子24組

- 昭和46. 4. 1 : 県育成会施設保護者部会発足  
県立誕生寺養護学校開校
- 8. 1 : 育成会事務局を中央児童相談所から岡山市福祉文化会館へ移す
- 10.15 : 第11回精神薄弱者育成会中国大会  
～16 (津山大会)  
津山文化センター 961人参加
- 47. 3 : 岡山市作業訓練クラブ発足  
岡山市福祉文化会館内に特殊学級卒業生3人で発足(岡山仲よし作業所の前身)
- 9 : 岡山県障害者雇用促進協議会発足
- 48. 7.26 : 第1回精神薄弱者相談員研修会開  
～27 催  
県北・県南の2回  
(現在は県北・県南・全体の3回)
- 49. 1 : 療育手帳交付  
1,624人 - A 970人 B 654人  
(60年度は4,878人 - A 2,370人  
B 2,508人)
- 51. 1 : 県育成会事務局を岡山市福祉文化  
会館から岡山県総合福祉会館へ移  
す
- 9.24 : 第16回精神薄弱者育成会中国大会  
～25 (倉敷大会)  
倉敷市民会館 1,590人参加  
第1回多動児療育指導研修会開催
- 52. 2. 1 記念誌「20年の歩み」発刊
- 4 : 在宅精神薄弱児療育相談コーナー  
開設  
毎週水曜日 13.00～ 岡山県総合福  
祉会館  
1回3人(昭和61年度末10年間累  
計960人)
- 6.26 : 昭和52年度精神薄弱者育成会親の  
岡山県大会(総社大会)第1回  
総社市消防会館 400人参加  
講演 高松市訪問講師 細谷晴子  
信楽青年寮長 池田太郎
- 53. 7. 1 : 藤本剛平氏 会長就任  
5月20日児玉俊夫会長死去により

更迭

- 53. 9.10 : 昭和53年度手をつなぐ親の岡山県  
大会(瀬戸大会)第2回  
瀬戸町総合福祉会館 580人参加  
講演 旭川児童院長 江草安彦
- 54. 8. 5 : 昭和54年度親の岡山県大会  
(新見大会)第3回  
新見市民会館 400人参加  
講演 愛知コロニーこぼと園長  
岡田喜篤
- 55. 8.10 : 昭和55年度育成会親の岡山県大会  
(笠岡大会)第4回  
笠岡市民会館 700人参加  
講演 日本短波ディレクター  
大野智也  
精神薄弱者小規模作業所として、  
岡山市精神薄弱者「昭和町仲よし  
作業所」が開所し、85年度末まで  
に8小規模作業所が設けられた
- 56.10.16 : 第21回精神薄弱者育成会中国大会  
～17 (岡山大会)  
岡山市市民会館 1,462人参加
- 57. 9. 5 : 昭和57年度育成会親の岡山県大会  
(備前大会)第5回  
備前市民センター 700人参加  
講演 全日本育成会理事  
仲野好雄
- 58. 4. 1 : 社団法人岡山県精神薄弱者育成会  
となる  
会 長 藤本剛平  
副会長 篠原清彦 山脇輝雄  
専務理事 坂本 賢
- 9. 4 : 昭和58年度育成会親の岡山県大会  
(玉野大会)第6回  
玉野市総合体育館 700人参加  
講演 NHKチーフディレクター  
野原政雄
- 59. 9. 2 : 昭和59年度育成会親の岡山県大会  
(津山大会)第7回  
津山文化センター 900人参加  
実践報告 倉敷市親の会副会長  
牧野和美  
新見阿哲親の会会長  
床登喜男

- 昭和59.10.21 : 県育成会顧問 小松原次郎氏死去
60. 4. 1 : 心身障害者地域福祉作業所事業開始  
3作業所(玉野市同舟の園, 牛窓町すみれ会協同学習所, 里庄町心身障害者福祉作業所)
4. 1 : 岡山県精神薄弱者相談員協議会規約制定  
会 長 山脇輝雄  
副会長 難波武志 床登喜男  
          菱川 豪
- 9.11 : 岡山県三木記念助成金受賞  
社会部門
- 9.19 : 第25回精神薄弱者育成会中国大会  
~20 (岡山大会)  
岡山市民会館 1,306人参加
61. 7.31 : 精神薄弱者小規模作業所交流相談会開始  
昭和町仲よし作業所・県総合福祉会館  
14作業所 15人参加  
(年3回実施 第2回10・16  
第3回2・19)
- 8.18 : 精神薄弱者の職業と社会参加に関するセミナー  
~19 (津山市・会員参加者76人)
- 8.30 : 昭和61年度精神薄弱者育成会岡山県大会  
(倉敷大会) 第8回  
倉敷市民会館ほか 900人参加  
講演 前倉敷市教育長 三島一夫
62. 4. 1 : 役員改選  
顧 問 藤 本 剛 平  
      " 篠 原 清 彦  
会 長 山 脇 輝 雄  
副会長 小 若 和 子  
      " 金 重 博 之
- 8.30 : 昭和62年度精神薄弱者育成会岡山県大会(井原大会) 第9回  
井原市民会館ほか 800人参加  
講演 元井原市教育長 矢吹隼太



## 2 地域・施設における育成会や親の会の歩み



○ 育成会・親の会設置年度一覧

(岡山県内・昭和62年度現在)

	30 ~ 39 年度	40 ~ 49 年度	50 ~ 59 年度	60 ~	計(育・親・施・P)
1 岡山	③⑩岡山市育 旭川学園保	④①西大寺後児童院保 ④②あかしや園保 ④⑤あかしや園付養P ④③興除父母もその保 ④④あおげ園保 ④⑦あおげ園保 ④⑧あおげ園保 ④⑨あおげ園保 ④⑥藤田親弘徳学園 ④⑧わかくさ園保 ④⑨みどり学園保	⑤⑤三幡親 わかば保 ⑤④西養P 安育寮保 みどり授産保		19(0, 5, 12, 2)
2 備前			⑤①備前市親 ⑤⑥備前市育	⑥⑥東備養P	3(1, 1, 0, 1)
3 御津				⑥⑥建部町親 ⑥⑥御津町親	4(0, 3, 1, 0)
4 赤磐	③⑦熊山町育	④②赤坂町育 ④⑥瀬戸町育 ④⑦山陽町育	⑤③熊山町親 ⑤⑤山陽町親	⑤⑤吉備里保	6(3, 3, 0, 0)
5 和気		④⑦和気町育		⑥②関谷学園保	2(1, 0, 1, 0)
6 邑久	③⑨邑久郡育	④②邑久町親	⑤④牛窓町親 ⑤⑥長船町親		4(1, 3, 0, 0)
7 倉敷	③④倉敷市育 ③⑥倉敷市親 ③⑦玉島育 ③⑨倉敷(再)育 ③⑩倉敷(再)育	④⑨ふじ園保	⑤①児島親 ⑤②特殊学級親 ⑤③倉敷学園父母保 ⑤④瀬戸内学園保 ⑤⑤在宅部保 ⑤⑥つくしの会 ⑤⑦わかえの園母 ⑤⑧同舟の園保 ⑤⑨玉授産所保	⑥⑥小さくら園保 ⑥⑦倉敷市(再)親連	13(2, 10, 1, 0)
8 玉野	③③玉野市育	④⑥玉野市親			5(1, 1, 3, 0)
9 笠岡	③⑩笠岡市親 ③⑨笠岡市桃	④①笠岡学園愛		⑤⑥ときわ学園保 ⑤⑦西備養P	5(1, 1, 2, 1)
10 井原	③④井原市親		⑤①こだま園保 ⑤③井原市心身育 ⑤⑥井原市OB		4(1, 2, 1, 0)
11 総社	③⑥総社市育 ③⑧総社市親	④④総社学園P			3(1, 1, 1, 0)
12 児島		④⑨瀬崎町親			1(0, 1, 0, 0)
13 都窪			⑤⑤早島町親		1(0, 1, 0, 0)
14 浅口		④⑤浅口郡育 ④⑨みどり会親	⑤①のぞみ会親 ⑤②船穂町親 ⑤③しらなみ会親 ⑤④むつみ会親	⑥①ほほえみ授産保	7(1, 5, 1, 0)
15 小田		④④矢掛町育	⑤⑤矢掛町親		2(1, 1, 0, 0)
17 吉備					0
18 高梁		④①高梁市育	⑤⑩高梁市親		4(1, 1, 0, 0)
19 新見		④①新見阿哲育	⑤②新見阿哲親		2(1, 1, 0, 0)
20 上房			⑤⑨北房町親		1(0, 1, 0, 0)
21 川上	③⑥成羽町育				1(1, 0, 0, 0)
22 阿哲		※ ④①新見阿哲育(再)	※ ⑤②新見阿哲親(再)	⑥①神郷の園保	1(0, 0, 1, 0)
23 津山	③⑤津山市育 ③⑧津山みのり学園父	④③津山ひかり学園親	⑤③津山ひまわり会親		4(1, 1, 2, 0)
24 真庭			⑤⑩湯原町愛		1(1, 0, 0, 0)
25 苫田	③⑨鏡野町育	④⑤阿波村親 ④⑨めぐみの会親			3(1, 2, 0, 0)
26 勝田			⑤⑨勝央町親		1(0, 1, 0, 0)
27 英田		④②美作町育	⑤⑦美作町親		2(1, 1, 0, 0)
28 久米		④③柁原町育 ④⑦あすなろ会親 ④⑥誕養P	⑤⑤旭町親	⑥②久米南町親	5(1, 3, 0, 1)
計	18(育・親・施・P) 11・5・2・0	34(育・親・施・P) 9・12・11・2	42(育・親・施・P) 2・28・10・2	8(育・親・施・P) 0・4・3・1	102(育・親・施・P) 22・49・26・5

注：□地域育成会 ○地域親の会 ●施設親の会 □養護学校PTA



## (1) 地域育成会

(62年度末現在)

年度	会 員	〒	所 在 地	電 話	代 表 者	構 成 員	設 置 年 度
1	赤坂町 精神薄弱者育成会	701-22	赤磐郡赤坂町町刈田425-1 赤坂中内	08695-7-3014	羽原 章	616	42
2	熊山町 "	709-07	" 熊山町松木569 豊田小内	08695-5-0015	浦上 忠之	990	37
3	和気町 "	709-04	和気郡和気町727-2 石生小内	08699-3-0357	平 剛蔵	3,128	47
4	倉敷市玉島地区 "	713	倉敷市玉島柏島1548 玉島西中内	08652-6-3456	内藤 良一	8,000	36
5	井原市手をつなぐ 親たちの会	715	井原市井原町311-1 市教委内	08666-2-6111	茂原 栄一	2,500	34
6	総社市 精神薄弱者育成会	719-11	総社市中央町1-1-1 市教委内	08669-2-1111	浅沼 力	4,000	36
7	玉野市 "	706	玉野市玉6-20-22 玉小内	0863-32-4701	松本 武次	4,970	33
8	笠岡市桃十字会	714	笠岡市笠岡1870 笠岡小内	08656-2-5271	岡本 重文	5,000	39
9	矢掛町 精神薄弱者育成会	714-12	小田郡矢掛町矢掛3000-1 矢掛小内	08668-2-0042	田中 弘	3,896	44
10	高梁市 "	716	高梁市松原通り2043 市教委内	08662-2-2180	東 周平	5,000	41
11	鏡野町 "	708-03	苫田郡鏡野町竹田660 町教委内	0868-54-2111	石川 慧	36	39
12	邑久郡 "	701-42	邑久郡尾張465-1 町社教内	08692-2-3506	重康 政勝	50	39
13	備前市心身障害者 (児)連合育成会	705	備前市三石3215 三石小内	0869-62-0028	青木 克洋	2,165	56
14	柵原町 心身障害児育成会	708-15	久米郡柵原町下谷388-2 柵原中内	08686-2-0882	杉山 宏夫	800	43
15	新見阿哲 精神薄弱者育成会	718	新見市新見310-3 市教委内	08677-2-0661	大塚 卓	8,000	41
16	津山市 "	708	津山市山北520 市教委内	08682-3-2111	影山 太郎	5,000	35
17	山陽町 "	709-08	赤磐郡山陽町山陽団地3-1 山陽西小内	08695-5-2002	生本 純一	4,832	47
18	倉敷市 "	710	倉敷市西中新田640 市教委内	0864-26-3831	藤原 律太	28,237	34
19	浅口郡 "	719-02	浅口郡鴨方町鴨方780 鴨方中内	086544-3135	堀 完一	13,015	45
20	成羽町 "	716-01	川上郡成羽町下原1086 成羽小内	0866-42-3034	西岡 進	1,500	36
21	湯原町 手をつなぐ愛の会	714-04	真庭郡湯原町禾318 町教委内	0867-62-2688	西田満寿男	30	50
22	美作町 障害児教育育成会	707	英田郡美作町榎原中60 美作北小内	08687-2-0179	武藤 利男	3,000	42

1. 赤坂町精神薄弱者育成会

〒701-22 赤磐郡赤坂町町苅田425-1  
赤坂中内 08695-7-3014

1. 発足当時の状況

発足 昭和42年3月10日

会員 759人

会長 歳森真吾

2. 昭和62年度の状況

構成員 616人

会長 友次秋吉

副会長 藤原修一・光川利勝・森 茂昌

事業 ・特殊学級教育の振興

・精神薄弱児教育の調査研究

予算 197,188円(会費1世帯年100円)

2. 熊山町精神薄弱者育成会

〒709-07 赤磐郡熊山町松木569  
豊田小内 08699-5-0015  
(町教委内 08699-5-1211)

1. 発足当時の状況

発足 昭和37年

会長 津田 保

2. 昭和62年度の状況

構成員 990人

会長 松田友喜

事業 熊山町親の会と共催で次の事業を行う。

・大会参加

・クリスマス会

・研修視察

・講演会

予算総額345,839円(熊山町親の会と合わせたもの)

3. 和気町精神薄弱者育成会

〒709-04 和気郡和気町727-2  
石生小内 08699-3-0357

1. 発足当時の状況

発足当時が記録的には不明であるが昭和47年4月1日から発足したと思われ、会長は平病院長平剛蔵氏である。

2. 経過

学区の方々の温かい支援を得て、様々な補助金が配布できたり事業が実施できているこ

とは誠に有難いことである。直接指導に当る教員が誠意をもって指導される結果、子ども達は伸び伸びと明るく成長し、保護者も喜んでくださっている。

3. 昭和62年度の状況

会長 平 剛蔵

副会長 青木幸平・藤原勝美

理事 12人(PTA会長・校長)

監事 2人

会員数 3,128人

予算 収入 579,129円

支出 579,129円

事業

・会員募集

・指導誌配布

・育成会総会

・各校へ補助配布(研究費・設備等の補助)

・親子1日遠足

・障害児学級担当者研修会

・研究会等参加(全国中国県等)

・その他(不定期の交流会)

4. 倉敷市玉島地区精神薄弱者育成会

〒713 倉敷市玉島柏島1548  
玉島西中内 08652-6-3456

1. 発足当時の状況

発足 昭和36年6月26日

会員 60人

会長 安原 功

2. 経過

42年に玉島地区が倉敷市に合併したため、玉島浅口精神薄弱者育成会を倉敷市玉島地区精神薄弱者育成会と名称変更をする。

3. 昭和62年度の状況

構成員 8,000人

会長 内藤良一

副会長 葛間紘一・国富 尚・虫明英彦  
小野幸一

事業 ・地区特殊教育活動へ助成

・精神薄弱者施設へ助成

・特殊学級担任へ補助

・その他

予算 2,400,000円(会費年200円)



## 5. 井原市手をつなぐ親たちの会

〒715 井原市井原町311-1  
市教委内 08666-2-0332

### 1. 発足当時の状況

発起人代表 上野謙吉

発 足 昭和34年5月28日

構 成 員 421人

事 業

- ・井原市手をつなぐ親たちの会結成総会
- ・医学検診
- ・特殊教育座談会
- ・特殊教育講演会
- ・特殊教育推進協議会

経 費 703,000円

### 2. 経 過

- 35年度 会報発行を始める。  
36 " 施設視察を始める。  
37 " 特殊学級父母の会発足  
38 " 特殊学級連合レクリエーション大会を始める。  
39 " 特殊学級へ研究誌の提供を始める。  
40 " 特殊学級担任者研修視察を始める。  
(近江学園)  
特殊学級連合運動会・学習発表会を始める。  
41 " 特殊学級卒業生同窓会を始める。  
42 " 授産施設設立資金特別会計を設ける。  
43 " 特殊学級連合社会見学  
44 " こだま学園(特殊学級宿泊施設)完成  
45 " 特殊学級連合宿泊訓練  
48 " 授産施設「こだま園」設立発起人会発足  
特殊学級卒業生の会「八起会」結成  
50 " 授産施設「こだま園」開園  
53 " 幼児通園施設「あゆみ園」開設  
松山善三映画と講演の夕べ  
映画「泣きながら笑う日」  
56 " 水上勉講演会  
映画鑑賞「典子は今」  
60 " 福山北養護学校・ミニ授産場「せんだんの家」視察

61年度 ゼノやまびこ学園長村田一男講演会「この子たちをみつめて」  
育成会岡山県大会(井原大会)の開催準備

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 2,600人

役員 会長 茂原栄一

副会長 佐藤道夫・鳥越一恵  
高橋尚之・高木浩朗  
岡田琢三郎

事 業

- ・育成会岡山県大会(井原大会)の開催
- ・講演会・研究視察の実施
- ・研究誌・指導誌の提供
- ・特殊学級設置校協議会の各種行事への援助
- ・就学指導・就学相談への援助
- ・会報の発行
- ・ミニ授産場設立準備

予 算 1,460,000円(会費年300円)

## 6. 総社市精神薄弱者育成会

〒719-11 総社市中央町1-1-1  
市教委内 08669-2-1111

### 1. 発足当時の状況

発足当時の詳細な記録が少なく、くわしいことは不明であるが35年度末の決算が63,110円となっている。36年3月6日育成会発起者準備会がもたれ、4月14日育成会発会式が行われ市長が会長に就任している。

正式発足までの取り組みについて当時会発足の中心的役割を果たしていた村木愛子氏(当時総社西中特殊学級担任)の話では次のようである。

育成会をつくる運動が起きたのが32年3月であるが、先に総社西中特殊学級のPTAをつくることから始まったと思う。

現在県の育成会長をなさっている山脇氏を中心に藤田勇・同千鶴子・仁熊鉄太郎の諸氏が熱心に運動を進めた。市民は今ほど理解はなく資金もない。不利な条件のなかで、市長・市議会をはじめ各方面にたびたびお願いにいったものだ。

大変苦しかったけれど背水の陣でぶつかっ

ていった。それはそれは迫力のあるものだった。一丸となって燃えて進んだという感じで今思い出しても胸が熱くなるほどである。

## 2. 経 過

育成会ができて曲がりなりに手探りで進んでいったが、他市町村から視察に来られたり、山脇さんに講演依頼があったりしたほどだった。

山脇さんは情熱だけでなく企画力・計画性・政治的手腕に優れ、目標に向かって問題を一つずつ慎重に解決していった。

特に印象深いのは通園施設「総社学園」の実現へむけての取り組みで要求貫徹の座わり込みを計画したことである。市民に訴えるピラをはり、たすきを作り、栄養剤をたくさん買いこみ、医者の手配も整えて、いよいよ明日から座わりこみ決して後にはひけないぞと決意を固めた日の深夜市長交渉が成功という劇的な展開があった。

板野緑さん・赤木美佐恵さん・岩田美代子さんたちが熱心に運動された。設置が決まっても実現までには4・5年はあったので運動の中心になった方々の子弟は18才を越えてしまった。予算はないに等しい状態でラーメンや蚊取り線香を売ったりして資金を集めた。

また政治家・華道茶道の家元・芸能人・スポーツ選手などの有名人に色紙を書いてもらってチャリティーもした。

寄付を募って歩くこともした。現在のような理解はなく偏見に満ちていて思うように集まらなかったがよくあんなに頑張れたものだと思う。

一途に「子供たちのために」そのことだけを念じながら頑張った。苦しくても充実した毎日だった。実に感慨無量である。

## 3. 昭和62年度の状況

構成員 8,869人

役員 会長 浅沼 力 (総社市教育委員会教育長)

副会長 高塚真一 (総社小学校長)

〃 山脇輝雄 (手をつなぐ親の会長)

〃 橋本久美子 (PTA連合協議会長)

理事22人 監事2人 書記2人

事業

- ・愛の募金活動
- ・指導誌「手をつなぐ親たち」購読
- ・特殊学級社会見学助成
- ・会員募集
- ・特殊学級合同宿泊訓練助成
- ・精神薄弱者育成会全国大会参加
- ・特殊学級合同運動会
- ・特殊学級合同写生会
- ・特殊学級・総社学園・親の会等助成
- ・就学指導委員会助成
- ・作文集「こだま」発行助成

予 算 1,907,508円 (会費年100円)

## 7. 玉野市精神薄弱者育成会

〒706 玉野市玉6-20-22

玉小内 0863-32-4710

### 1. 発足当時の状況

(1) 昭和27年10月宇野小学校に(山本多三校長)に特殊学級が開設された。

当時県下には、教育研究のための遅進児学級が岡大附属小学校に、長欠児童特別指導の学級が倉敷市下津井小学校に、また勉強が遅れがちな生徒の学級が笠岡市金浦中学校に計3学級しかなかった。

宇野小学校の開設には、当時の行政を推進された方々の英知と英断があったように思われる。

当時の関係者は、井元教育長・海本納務課長・森安学校教育課長・水谷・溝口指導主事、三宅主事等であった。また議会人として長尾・檜地両氏には特にこの教育に深い理解と強い援助をいただいた。(開設のための市費は16万円)

こうして、橋本茂樹教諭の指導で14人の児童が学習を始めた。

(2) 33年7月14日、特殊学級育成会発足  
会長 長尾敏郎 副会長 檜地富士鶴  
会員 1,500人 決算 171,400円

(3) 33年11月、日比中学校(四宮喜太郎校長)に特殊学級が新設された。(中学校では金浦中学校に次いで県下で2番目、市内では玉小学校に次いで3番目)



担任には宇野小学校から橋本教諭が移り、市内全域15人の生徒で発足した。

(4) 35年3月、機関紙「青い鳥」第1号を発刊した。(機関紙は、以後毎年1回以上発行されている。)

(5) 主な事業

- ・各校特殊学級への助成(備品の購入)
- ・特殊学級交歓学習発表会・合同遠足・運動会
- ・機関紙「青い鳥」の発行などであった。

## 2. 経過

(1) 40年・50年代は、会長 檜地富士鶴・副会長 山田義美両氏のもとに、理事長として春名源六・千原成一・斉藤和重・原謹一・板崎誠人・信原定治各校長が活動を展開した。

(2) この間に、市内15小学校中14校に、7中学校中3校に特殊学級が開設され、玉小学校には言語障害学級及び情緒障害学級が開設された。

(3) 43年、「青い鳥」が新聞版になった。

(4) 44年2月20日、玉野市特学親の会が結成された。

(5) 45年、玉野市制30周年記念式において表彰された。

(6) 46年10月、育成会中国大会(津山大会)で表彰された。

(7) 52年2月、第1回市内特学児童生徒作品展が文化センターを会場に催された。

(8) 53年3月、市育成会結成20周年記念特集号「青い鳥」が発行された。

(9) 53年6月、山田次郎氏が3代会長に就任した。

(10) 54年6月、特学親の会主催「特学卒業生の就職を考える会」が開催された。

(11) 58年9月、育成会岡山大会(玉野大会)が総合体育館を会場に開催された。県内各地から700余人の参加をいただき①就学前部会 ②学齢部会 ③成人部会の3部会に分かれ活発な発表と協議がなされた。

## 3. 昭和62年度の状況

会長 山田次郎

副会長 井上 清(市教委学校教育課長)

小畑皓一郎(市特殊教育研究部長)

山岡宏行(親の代表)

理事長 松本武次(玉小学校長)

事務局 玉小学校内

会員 4,070人

事業

- ・機関紙「青い鳥」の発行
- ・功労者・善行児童生徒の表彰
- ・特学合同遠足(春の潮干狩り・秋の遠足)
- ・特学児童生徒作品展
- ・研究会研修会の援助
- ・就学指導のための養護学校視察
- ・進路指導のための施設見学
- ・親の会の助成

予算 2,483,129円(会費年平均500円)

## 8. 笠岡市桃十字の会

〒714 笠岡市笠岡 1870

笠岡小内 08656-2-5271

### 1. 発足当時の状況

昭和39年に笠岡市内の精神薄弱児や肢体不自由児に対する障害児教育を援助するため、笠岡市連合PTA会長・笠岡市教委教育長・笠岡市小中学校長会長・笠岡市特殊教育研究会長・笠岡市社会福祉協議会長・笠岡学園長等有志の方々が発起人となり笠岡市桃十字の会が発足した。

当初会員はわずかで、寄付金により特殊学級への助成金を配布したり合同旅行を実施したりしていた。

### 2. 経過

43年度 笠岡市桃十字の会会則を作成。

連合PTAが会員や会費を募る仕事を兼ねることになる。

特殊学級設置校・笠岡学園へ助成金を交付。

特殊学級合同旅行・合宿などの経費を援助。

44 " 会費集金にPTAの保護者が活動の中心になりがちとなり、障害をかかえている保護者の活動が反映しにくいのでこの会の一分野として「手をつなぐ親の会」を組織し、経費は本会から助成。

45 " 笠岡市特殊教育研究会へ経費補助。

47 " 言語障害児のための「ことばの教室」が笠岡小学校に開設されたので毎年助成金交付。

51 " 秋に市内特殊学級児童生徒と笠岡学園児童生徒合同の第1回親睦のつどいを

実施し、経費援助。

52年度 難聴児のための「きこえの教室」が笠岡小学校に開設され毎年助成金交付。

52～56 県立西備養護学校設立準備の諸費を援助。

56 “ 秋の親睦のつどいに西備養護学校の児童生徒を招待（毎年招待）。

57 “ 情緒障害児学級を中央小学校に設置し、毎年助成金交付。  
仲よし発表会を始める。

### 3. 昭和62年度の状況

会 長 岡本重文（連合PTA会長兼務）

人 員 5,000人

予 算 約200万円（会費年200円）

事 業

- ・ 会員募集。
- ・ 特殊学級設置校・言障学級・難聴学級・情緒障害学級並びに手をつなぐ親の会・笠岡学園・教育相談室へ助成金交付。
- ・ 特殊学級児童生徒合同「山の学習」「仲よし運動会」「仲よし発表会」開催。
- ・ 会報発行。

## 9. 矢掛町精神薄弱者育成会

〒714-12 小田郡矢掛町矢掛3000-1  
矢掛小内 08668-2-0042

### 1. 発足当時の状況

昭和43年、美川小学校長（現教育長）田尻保男精神薄弱者相談員岡田章が中心になって町内7小学校中5小学校に特殊学級が開設されたが、町民に精神薄弱児や特殊教育についての理解をより深め、精神薄弱児の教育施設・福祉施設を拡充することを願って昭和44年2月24日結成された。

会費は年額100円、会員1,418人、預金利息を負めて142,494円の決算。

主な事業

- ・ 町内小中学校10校へ、特殊学級助成金80,900円を配分し施設の充実。
- ・ 中学校特殊学級卒業生を励ますため職業訓練所や工場見学を実施。
- ・ 特殊学級担任者研修会3回、他校視察、全国精神薄弱教育研究大会（岡山大会）参加。
- ・ 特殊学級入級候補者相談会3回開催。

- ・ 総会には講演会を開き研修する。

### 2. 経 過

46年2月、特殊学級児童生徒詩集「手をつなぐ子」を発行し以来毎年発行。

55年2月、矢掛町手をつなぐ親の会を結成し活動を始める。

59年度以降手をつなぐ親の会と共催で県下の授産場を視察する。

59年12月24日、町当局へ次の3項目について陳情書を提出する。

- ・ 精神薄弱児者ホーホヘルパーの設置
- ・ 岡山県心身障害者扶養共済の保護者負担金の軽減。
- ・ 町内にミニ授産場の設置。

60年5月、町に精神薄弱児者ホームヘルパー1人を置く。

61年2月6日、倉敷教育事務所管内特殊学級設置学校協議会・矢掛町精神薄弱者育成会等主催の障害児教育研究発表会を開催。

井原振興局の指導を受けながら、手をつなぐ親の会と協力して作業所開設に向けて準備を進める。

62年8月25日、県へ作業所開設の申請書を提出する。

### 3. 昭和62年度の状況

会 長 田中 弘

副会長 岡田 章・三宅一正

会 員 3,896人

予 算 1,417,052円

会 費 1,170,052円（300円×3,900人）

町補助金 150,000円

繰越金 64,052円 その他

事 業

印刷費 100,000円

相談事業 40,000

児童生徒を励ます会 35,000

担任者研修補助 50,000

特殊学級助成 580,700

親の会助成 200,000

啓発費 120,000

重症児者見舞金 120,000

旅費・会議費 110,000

- ・ 本年度はミニ作業所開設予定なので親の会と協力して運営にあたる計画である。



- ・ミニ作業所の運営に退職教職員15人がボランティアを申し出られ頼もしく思う。

## 10. 高梁市精神薄弱者育成会

〒716 高梁市松原通り2043  
市教委内 08662-2-2180

### 1. 発足当時の状況

発起人 松村正己・内田仁志・西井 剛  
発 足 昭和41年12月8日

初代会長 松田芳郎

昭和40年頃から「知恵遅れの子にゆきとどいた教育を」の声が大きくなり、市内の学校に特殊学級が急増した。

こうした中で県からの指導も受け、精神薄弱者への助成や育成をはかるよう全市的な組織結成の気運が高まった。

数回の準備委員会の後育成会が発足し、精神薄弱者や特殊学級に対する偏見をなくして正しい理解を促すことを課題とした。

市内全戸を対象に全員募集を行う一方、機関紙による啓発、心身障害者の理解と教育に関する講演会なども行われた。

経費は会員の会費(1戸100円)と福祉関係などの団体からの助成金などがあてられた。

### 2. 経 過

昭和43年の秋、県主催の特殊教育研究大会が本市で開かれた。

この大会を機に育成会事務局のとりまとめにより「高梁市特殊教育白書」が作成された。

この大会と白書作成等により、心身障害児教育に対する意識は徐々に高まり特殊学級の経営も定着した。

このころから特殊学級児の社会見学(親と子と先生の参加)が盛んになり補助をしている。

48年に第2代会長として、東 周平現会長が選任された。

昭和50年の秋「手をつなぐ親の会(高梁支会)」が発足した。

初代会長に則井雪子会長が選任され、学校や関係機関との連携のもと諸行事が実施された。

小中別の母の会・合同母の会・学習発表・親と子と先生の会食会・小中合同もちつき大会等を行うなかで、親同志の交流もはかられた。

56年、親の会会長に現市公民館長の笹田糸之

助氏が就任され今に至っている。

この頃、備北の地に養護学校を設立するよう、市育成会は他の関係機関と連携して強力に支援した。

また、昭和55年の新見市での県大会を機に授産施設誘致の気運が高まっていた。

この授産施設誘致は、旭川荘の格別な配慮により昭和60年4月に「たかはし授産センター」が開設された。

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 会員 本会の趣旨に賛同する市民  
(本年約7,000人)

会 長 東 爵平

副会長 岡本信雄・小林美津子

事 業

- ・会員募集
- ・教育講演会の開催
- ・養護学校・施設等の見学
- ・研究大会への派遣
- ・「育成会だより」の発行
- ・特殊学級への助成
- ・養護施設への助成・その他

予 算 総額 1,594,000円(会費年200円)

## 11. 鏡野町精神薄弱者育成会

〒708-03 苫田郡鏡野町竹田660  
町教委内 0868-54-2111

### 1. 発足当時の状況

発 足 昭和39年8月20日

会 員 不明

会 長 後藤基之

### 2. 昭和62年度の状況

構成員 43人

会 長 石川 慧

副会長 長石安四郎・時澤通孝

- 事 業
- ・会員の研修
  - ・特殊学級教育費の助成
  - ・心身障害児の教育相談

予 算 540,000円

12. 邑久郡精神薄弱者育成会

〒701-42 邑久郡邑久町尾張 465-1  
社協内 08692-2-3506

1. 発足当時の状況

発 足 昭和39年8月11日  
構 成 員 68人  
会 長 竹内行成  
事務担当 山崎孝志（県特研支部長）  
予 算 58,000円（育成会報参照）

2. 経 過

46年2月に5校8特殊学級が裳掛小学校で合同発表会を行う。

54年10月1日には会則を定め、その概要は次のとおりである。

構成員 郡内3町における精神薄弱児者の教育福祉に関係する者

- 目 的
- (1) 精神薄弱児の教育・福祉施設の拡充
  - (2) 精神薄弱者の生活・職業指導・生活保護の推進
  - (3) 会員の研修・親睦

会 費 年500円

3. 昭和62年度の状況

構成員 41人  
会 長 重康政勝  
副会長 山本倫生・日笠博之  
事 業 ・ふれあい事業

- 1日旅行
- ・自立育成事業
- 作業所見学
- ・啓蒙勉強会事業
- 愛の募金活動実施
- 担当教員の研修会

予算総額 (286,000円)	収入	会 費	20,000円
		愛の募金	60,000
		補助金	120,000
		繰越金	85,000
		雑収入	1,000
	支出	事業費	2,000円
		会議費	20,000
		社会見学費	130,000
		研修視察費	90,000
		報償費	35,000
		予備費	9,000

13. 備前市心身障害者(児)連合育成会

〒705 備前市三石 3215  
三石小内 0869-62-0028

1. 発足当時の状況

昭和31年（伊里地区・三石地区）に特殊学級が設置され、翌年それぞれに障害児教育育成会が設置された。

51年片上小学校情緒障害児学級の設置に伴い同校PTAに育成部が結成され、同年備前市「手をつなぐ親の会」も結成された。

54年5月備前市連合PTA総会において育成会結成について審議した。翌年4月育成会未結成地区にPTA育成部を結成し、10月橋本忠夫教育長を発起人として育成会準備会を持つ。

56年7月27日会則を整え連合PTA会長吉村武司氏を会長として備前市心身障害者(児)連合育成会が発足した。

会員は会の趣旨に賛同する事業所・法人・商店・個人等67人40万円の寄付をもって大会参加・機関紙発行・手をつなぐ親の会援助等の事業を行った。

2. 経 過

56年度

- ・手をつなぐ親の会「授業参観と担任との話し合い」援助
- ・親子海水浴の援助活動
- ・チャリティーコンサート開催
- ・養護学校の誘置、養護施設の設置について県知事並びに県教育長あてに要望書を提出

57年度

- ・9月5日岡山県大会（備前大会）を備前市市民センターで開催
- ・全国大会に代表参加
- ・広報紙「たんぼぼ」第1号を発行

58年度

- ・養護学校設立促進の陳情
- ・育成会趣意書を備前市内に配布、全市から1口50円で賛助金を募る。
- ・備前市障害児学級合同遠足（みかん狩り・いもほり）援助
- ・障害児作品展覧会（市民センター）
- ・全国大会参加
- ・「手をつなぐ親の会」牛窓海水浴援助
- ・広報紙発行



59年度

- ・岡山西養護学校・旭川荘みどり授産センター研修視察
- ・県大会（津山市）代表参加
- ・中国大会（宇部市）代表参加
- ・広報紙発行

60・61年度

- ・中国大会（岡山市）参加
- ・県大会（倉敷市）参加
- ・東備養護学校・ひだすき授産場研修（守時校長の講話と土ひねり）
- ・障害児学級助成
- ・障害児教育研究校助成
- ・親の会援助・広報紙発行

### 3. 昭和62年度の状況

会 長 青木克洋（市連合P T A会長）  
副会長 嶋 幸博（伊里小P T A会長）  
鯉江暁美（手をつなぐ親の会長）  
日下利彦（障害児教育部長）

監査 2 人 理事 15 人 書記会計 2 人

会 員 2,165 人

予 算 450,000 円（会費年 1 口 50 円）

#### 事 業

- ・育成会員募集趣意書配布
- ・井原大会参加
- ・社会福祉センター授産場研修視察
- ・映画鑑賞
- ・福祉講話 60人参加
- 講師 東備養護会長 平松温子  
福祉事務所長 沖 昌幸
- ・障害児学級 7 校へ助成
- ・交流教育研究校へ助成
- ・「手をつなぐ親の会」援助
- ・広報紙「たんぽぽ」発行

## 14. 柵原町心身障害児育成会

〒708-15 久米郡柵原町下谷 388-2

柵原中内 08686-2-0882

### 1. 発足当時の状況

心身障害児の育成援護と理解啓発を目的として昭和43年12月1日に発足した。

次の事項が計画された。

- ・町内の心身障害児に対する調査研究
- ・関係団体との連絡提携、会員相互の研修

- ・特殊学級・養護学校の設備促進
- ・心身障害児の福祉厚生推進  
構成員は会員制で2年に1回会員募集を行い会費を徴集する。初年度の会員は約1,000人であった。

経費には町からの助成金と会費をあてる。当初の経費等については資料に乏しく不明である。

会 長 角南文雄（教育長）

副会長 石戸陽三（町長）

### 2. 経 過

発足以来特に著しい成果等はないが現在まで続けられている事業を列挙すると次のとおりである。

- ・年度始めに各校該当児へ教材補助
- ・夏期休暇中に合同の野外活動実施
- ・クリスマスに学用品贈呈
- ・町外の施設入所者の慰問
- ・年度末に卒業祝・進級祝贈呈
- ・保護者の集まり実施（中途から中止）
- ・会報発行（中途から中止）
- ・「手をつなぐ親たち」配布
- ・特殊学級担任者先進校視察補助
- ・検査器具用紙補助

本町育成会の対象は就学時から高等学校卒業時（その他は17才）までで、その前後は社会福祉が担当する。

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 約 8,000 人

顧 問 鳥越 明（柵原町長）

林田繁雄（議会議長）

会 長 杉山宏夫（教育長）

副会長 梶子義美（議会副議長）

妹尾哲治（柵原西小学校長）

理 事 各種団体代表 20 人

監 事 2 人

事務局長 須江 昇（柵原中教諭）

事 業 ・野外活動実施

・小中学校へ補助金交付

・クリスマスプレゼント

・卒業祝・進級祝を贈る

・「手をつなぐ親たち」配布

・特殊学級担任者先進校視察

予 算 443,866 円（年 1 世帯 1,000 円）

## 15. 新見阿哲精神薄弱者育成会

〒718 新見市新見 310-3  
市教委内 08677-2-0661

### 1. 発足当時の状況

県の育成会からの強い働きかけにより昭和41年10月故太田隆先生や特殊学級関係者らを発起人として育成会が発足した。

その会則の第3条に「この会は精神薄弱者の福祉の増進を図ることを目的とする」第4条に「教育施設と福祉施設の拡充の推進，生活指導と職業指導の推進，その他この会の目的を達成するための事業」とある。

9,000人の会員をめざし愛の募金・賛助会員・市町の補助金等で約100万円の予算を組み事業を始めた。

主な事業は次のとおりであった。

- ・総会及び研修会(46年5月24日新見一中で「はまひろがおの小さな海」美術指導参観)
- ・特殊学級入級判別委員会(当初は思誠小・野馳小・矢神小を会場)
- ・手をつなぐ子らの遠足(笠岡市大島)
- ・研究会参加・指導誌代金の補助
- ・特殊学級教育費補助

### 2. 経 過

- ・54年8月5日岡山県大会を新見市を会場に開催した。

育成会・特殊学級設置校・親の会が中心に「この子らの自立を求めて」を合言葉に新見市民会館・温故館を会場に開いた。この年は国においても養護学校義務化の年でもある。

- ・学級の年間カリキュラムを作成した。
- ・入級については54年4月1日から市就学指導委員会を設置し，各校の就学指導委員会と連絡をとり適切な就学指導を目ざした。
- ・重複障害児のために51年に言語障害児学級(思誠小)57年に情緒障害児学級(同)が開設され新見・阿哲障害児教育の推進となった。
- ・会員の入会については関係者だけの時もあったが，関係者の努力により45年頃には約3500人，53年には8,000人に増えている。
- ・55年7月31日太田会長が死去され56年から現在の大塚会長となる。
- ・交換会として潮干がり・ナシがり・リンゴがりなど年1回ずつ実施している。

### 3. 昭和62年度の状況

会員数 8,000人  
会 長 大塚 卓  
副会長 佐藤喜久夫・西村久美・別所鉄夫  
予 算 150万円(会費年200円)  
事 業

- ・愛の募金運動・賛助会員の募集(約12,000枚配布)
- ・手をつなぐ子ら交換会—瀬戸大橋見学とミカンがり(11月上旬予定)
- ・研修会参加の助成
- ・親の会への援助
- ・参考図書の配布(「手をつなぐ親たち」その他)

今後の課題としては，養護学校の設置促進，特殊学級への就職指導などがある。

## 16. 津山市精神薄弱者育成会

〒708 津山市山北 520  
市教委内 08682-3-2111

### 1. 発足当時の状況

昭和35年7月，下山練教育長を代表者として津山市・教育・医療・福祉・ライオンズクラブ・PTAなど各界の代表による25人の発起者によって津山市精神薄弱者育成会発起者会を組織した。

津山市においては，小中学校に特殊学級3学級を設置し，この方面の糸口をつけた。

この子たちの将来のためには教育施設の拡充・社会の啓発・指導の強化・就職のあっせん等まだまだ多くの問題が残されている。このような状態のとき社会全体が手をつないでよい理解者となりよい援助者となる運動が全国的に高まった。

津山市にもぜひこのような組織をつくりこの不幸な子どもたちの灯になりたいと思う，との趣意に約1,000人の賛同を得られた。

35年10月7日結成総会を開催し，会長には川端克己氏(津山ライオンズクラブ会長)が選出された。

総予算額は118,070円で特殊教育啓発に関する講演・会報の発行・精薄児作品展の開催・就職促進・精薄児相談会の開催・特殊学級への助成等を事業計画にあげた。以来特に教育施設の



拡充・社会の啓発に重点を置いた活動を行った。

## 2. 経 過

36年6月「会報」第1号の発行、38年には津山市精神薄弱者父母の会の自主的な結成があった。

この会と共に重度精神薄弱者終身入所施設建設の計画が推進され40年6月「津山みのり学園」が開設された。

この年育成会が音頭をとって美作地区に県立養護学校を誘致する運動をすすめ設立期成会がつくられた。

45年久米南町誕生寺地区に開設が決定され翌46年4月県立誕生寺養護学校が開校された。

また同じ年に第11回中国大会が津山市で1,300人を集めて盛大に開催されたことも、こうした活動が市民の間に浸透してきたことを物語るものであった。

47年6月会長に影山太郎氏が就任。会員数約5,000人、総予算額856,954円であった。

この年の4月には言語障害児学級が西小学校に「ことばの教室」として開級され同時に「ことばの教室」親の会が結成された。

48年には、みのり・ひかりの両学園と誕生寺養護学校の父母が津山市育成会に統合した。

自閉的障害のある子の親からの要望により55年4月には西小学校に情緒教室の開級をみた。

59年4月には県下で3番目の弱視学級を東小学校に開設された。

59年には岡山県大会を、さらに61年8月には「精神薄弱者の職業と社会参加に関するセミナー」を開催する。

## 3. 昭和62年度の状況

会員数は5,164人、理事は小中学校・施設の教職員、PTAの代表、福祉関係者など51人、会長は影山太郎氏、副会長には菱川豪氏他9人が就任している。

総予算額は3,877,494円、大会や研究会への研修参加・障害児学級助成・父母の会への助成・障害児学級の合同作品展や交流会等の事業を行っている。(会費年1口200円)

本年度は、施設における老人棟を含めた高齢化問題の調査研究、ミニ授産所建設に関する調査検討に取り組んでいる。

## 17. 山陽町育成会

〒709-08 赤磐郡山陽町山陽団地

山陽西小内 08695-5-2002

### 1. 発足当時の状況

高陽小学校に特殊学級が設置され、PTAは町と協力して育成につとめた。当時は高月学区や赤坂町の障害児も入級していた。

昭和47年4月町内3校の統合時に組織され、発起人は相談員故藤原時雄氏・PTA役員・校長等であった。

会則を定め経費は町民からの募金。PTA役員が手わけで全町各地帯に趣意書を配り大方の賛同を得た。1口100円(平均1世帯2口加入)

55年7月20日手をつなぐ親の会が結成され、規約をつくり会費年間500円とし、不足分は育成会・町の補助金で補う。

事業は親子の話し合い・水泳教室・ミカンがり・クリスマス会等である。

### 2. 経 過

育成会結成当初から世帯数の80%以上が会員として入会していることは本町の大きな誇りである。

育成会が先にでき手親会が後からできたことは、町民の啓発がすすみ経費の協力も得やすかった。

二つの会は常時一体となって運営されているが、実践の主軸は手親会である。

春の桜見物・夏の水泳・文化祭でのチャリティー・冬のスキー・料理教室・作業場作りへの準備・講師を招いての講演会・隣町や東備地区での話し合い等であった。

60年4月の東備養護学校設置や61年4月の更生施設閑谷学園開設には、山陽町育成会・手親会として終始協力を続けた。

手親会の組織には問題がなかったのであるが、育成会長は1年ごとに改選となる町連P会長が兼務するため会長の仕事に慣れぬ間に次の会長へ移ることになるので、62年度から選出することにした。

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 6,137人

会 長 生本純一(みのる産業副社長)

副会長 友実弘典(手親会会長)

友実一政(町福祉協副会長)

他に町議とPTAから4人  
相談員 安藤義雄  
顧問 町長・助役・教育長・議長  
県育成会理事  
事業 ・月1回程度の同志懇談会  
・年1回大講演会  
・町手をつなぐ親の会への助成  
予算 約1,000,000余円

## 18. 倉敷市精神薄弱者育成会

〒710 倉敷市西中新田640  
市教委内 0864-26-3831

### 1. 発足当時の状況

倉敷市精神薄弱者育成会は昭和34年赤木元蔵氏・山下貞一氏をはじめ多くの方々の尽力により結成された。

発足当初の会員は約3,000人で会費は1人あたり100円で現在も引きつがれている。

特殊学級は昭和35年度末小学校2中学校1であったが、年次計画で設置されることになり親たちの活動は活発になった。

### 2. 経過

倉敷市精神薄弱者育成会が後援して昭和36年倉敷市手をつなぐ親の会が発足した。

37年教育の機会均等を図るため養護学校の設置を親の会との連名で請願書を市議会に提出した。39年4月1日倉敷市立倉敷養護学校が開校している。

当時育成会会員は1万人を越えており、昭和42年に福祉都市の宣言がなされ一般社会の啓発が進んだ。

43年には職場の開拓を図るために職親の会が発足し子供たちの社会復帰の道が開かれた。

43年度から50年度までの間には、ことばの教室・きこえの教室・情緒の教室も設置され、50年5月には倉敷養護学校に高等部が設置された。

この間に会員は2万人を越え当初の目的である精神薄弱児の健全な育成と特殊教育の向上に尽くしてきた。

### 3. 昭和62年度の状況

会員数は28,000人を越え、予算総額347万円で事業を計画している。(会費年100円)

会長は藤原律夫副会長は仁熊 實・梶谷歌子の両名である。

事業の主たるものは次のとおりである。

- ・特殊学級担任の県外先進校・県外研修会視察参加の補助
- ・講演会の開催
- ・教材・教具費の補助
- ・校外訓練費(交歓会・合宿・運動会等)の補助
- ・修学旅行費の補助
- ・作品展費の支給
- ・卒業記念品の贈呈
- ・育成会だよりの刊行
- ・親の会への助成
- ・特殊学級担任者会への補助
- ・その他

## 19. 浅口郡精神薄弱者育成会

〒719-02 浅口郡鴨方町鴨方708  
鴨方中内 086544-3135

### 1. 発足当時の状況

発 足 昭和45年4月末

会 員 約10,000人

会 長 吉川忠雄

### 2. 昭和62年度の状況

構成員 13,015人

会 長 堀 完一

副会長 森山英夫・萩原克英・中原義晴

- 事業
- ・特殊教育研修会参加
  - ・関係団体への助成金・激励費配布
  - ・育成会役員の研修・視察
  - ・育成会だより発行

予 算 2,558,472円

## 20. 成羽町精神薄弱者育成会

〒716-01 川上郡成羽町原1086  
成羽小内 0866-42-3034

### 1. 発足当時の状況

一人ひとりの子供の能力に応じた教育の充実を図る一環として、成羽小学校では昭和33年度から精神薄弱児のために「こぼと学級」を開設した。

昭和36年には地域全体の人たちの理解と協力を深めるために成羽小学校精神薄弱児育成会を結成した。

この年の入級児童は3年・4年・5年の児童



計7人、育成会員約700人、会費年額1口100円であった。

主な事業は次のとおりである。

講演会・施設見学・特殊教育研究会参加・遠足・先進校視察・学級用図書及び備品の整備等

## 2. 経過

45年度から成羽中学校に障害学級が開設され、小学校育成会を拡充させる動きが起った。

46年2月当時の育成会長斉藤玉一氏を発起人代表とする成羽町精神薄弱児育成会の準備委員会が設置された。

46年11月12日成羽小学校において成羽町精神薄弱児育成会結成総会が開催された。

県育成会事務局長坂本賢氏の記念講演に引き続いて会則・予算審議並びに役員改選が行われ新体制が整った。

会長斉藤玉一氏、育成会員1,050人。

11) 成羽町精神薄弱児育成会 育成会だより 昭和47年2月15日 第1号



特別の成羽町精神薄弱児育成会は、町内多数の方々のご理解と協力によるもので、12日結成をみました。本会が結成されたのは、11月12日です。この日を記念として、本会だよりを創刊いたします。

成羽町精神薄弱児育成会  
結成される



第1号  
成羽町精神薄弱児育成会

昭和55年中途で斉藤会長が急逝され、この年から現会長の西岡進氏となる。

西岡会長は開業医という立場から指導助言に取り組まれ、会員の意識の高揚に尽力されている。

## 3. 昭和62年度の状況

構成員 1,500人

会長 西岡進 (成羽中学校校医)

副会長 松本有平 (成羽中学校PTA会長)

宮本博行 (成羽小学校PTA会長)

三宅裕 (成羽中学校長)

荒木清彦 (成羽小学校長)

予算 359,500円

事業

研修会(講演会)・会報「育成会だより」発行・教育相談・学級用備品購入・学級運営助成・研究会参加等

## 21. 湯原町手をつなぐ愛の会

〒714-04 真庭郡湯原町豊栄1515

教育委員会内 08676-2-2688

### 1. 発足当時の状況

発足 昭和50年6月5日

役員 38人(次の機関の代表者)

教育委員・学校長・PTA会長・民生委員・婦人会・青年団・人権擁護委員・社会福祉協会・区会長・身体障害者会・保護者会・特級担任

### 2. 経過

発会直後は在宅児訪問・特殊学級図書館整備援助・海の学習(鳥取県北浦海岸)が主な事業であったが、漸次発展し今日を迎えている。

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 30人

会長 西田満寿男

副会長 武村茂・金盛弘充

事業  
・親の会の充実  
・障害児入級の対策  
・障害児教育の推進援助  
・在宅者の激励  
・障害児者に関する調査

## 22. 美作町障害児教育育成会

〒707 英田郡美作町檜原中60

美作北小内 08687-2-0179

### 1. 発足当時の状況

昭和32年4月1日林野小学校(現美作第一小学校)に作北で2番目の特殊学級が開設され、町内6小学校から通学した。

小学校卒業後の進路を考慮し35年4月1日林野中学校(現美作中学校)に特殊学級を開設した。

これらの学校における教育を積極的に後援する組織として育成会が望まれており、42年2月17日に発足し会則も定められた。

この会は障害のある幼児・児童・生徒の教育を普及振興することを目的としている。

### 2. 経過

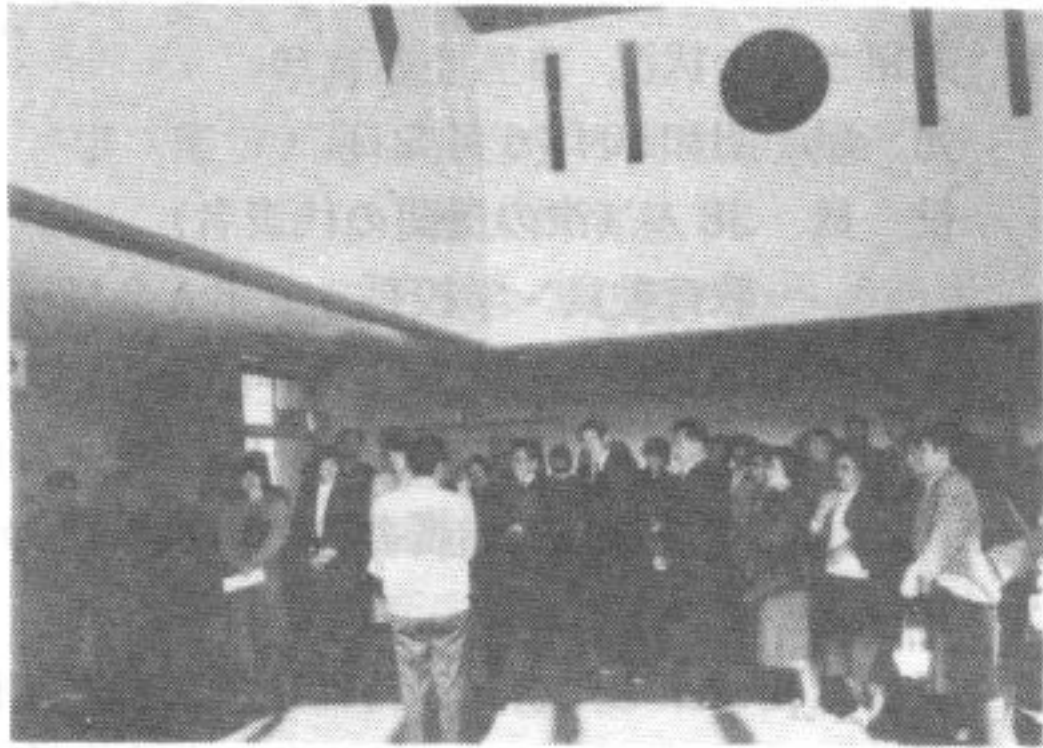
・障害児教育の発展事業

県内各養護学校の視察を毎年続けるとともに、その学校との交流を行う。

・障害児教育の経費補助

障害児学級における遊具購入補助

親子社会見学への旅費等補助



—東備養護学校の視察—

・経 費

美作町内世帯の希望加入とする。(年1世帯200円)

最初は婦人協議会役員が世話をされていたが現在は小学校PTA役員がされている。

3. 昭和62年度の状況

会 員 約 3,000 人

役 員 会 長 武藤利男

副 会 長 中山睦男

理事代表 方川 淳

事 務 局 美作北小学校 難波康江

- 事 業
- ・障害児学級補助
  - ・手親の会補助  
(療育キャンプ・クリスマス)
  - ・会員研修視察
  - ・担任者研修
  - ・講演会





## (2) 地域親の会

(62年度末現在)

番号	会 員	〒	所 在 地	電 話	代 表 者	構 成 員	設 置 年 度
1	岡山市 精神薄弱者育成会	703	岡山市小橋町1-1-30 市福祉文化会館内	0862-72-9694	小若 和子	300	30
2	西大寺心身障害者 教育後援会	704	〃 西大寺上1-19-21 西大寺小内	08694-2-2155	栗原 正	16	41
3	岡山市藤田地区 手をつなぐ親の会	701-02	〃 藤田都256	0862-96-2129	真野 鈴子	10	46
4	岡山市 三幡地区親の会	702	〃 江並130-1 角南和子宅	0862-77-9697	角南 和子	11	55
5	備前市 手をつなぐ親の会	705	備前市東片上126 市教委内	0869-64-3301	鯉江 暁美	46	51
6	瀬戸町 精神薄弱者育成会	709-08	赤磐郡瀬戸町瀬戸54-1 町社協内	08695-2-4441	土井日出夫	55	46
7	山陽町 手をつなぐ親の会	709-08	〃 山陽町上市337 町教委内	08695-5-0069	友実 弘典	25	55
8	邑久町心身障害児(者)の 親たちが手をつなぐ会	701-42	邑久郡邑久町尾張465-1 町教委内	08692-2-3506	宇津木弘之	10	42
9	長船町 野菊の会	701-42	〃 長船町土師291 町社協内	086926- 2001	重康希代子	9	56
10	倉敷市 手をつなぐ親の会	710	倉敷市有城710 倉敷市ふじ園内	0864-29-1711	原 聖子	628	36
10-1	ひまわりの園 保護者会	712	〃 福田町福田 2122-1	0864-55-8585	香西 昂太	内(140)	56
10-2	瀬戸内学園 〃	712	〃 連島町矢柄6092	0864-48-1811	吉沢 利男	〃 (80)	54
10-3	倉敷学園 〃	701-03	都窪郡早島町早島313-2	0864-82-2170	柳原志津代	〃 (30)	53
10-4	小ざくら園 〃	712	倉敷市水島北幸町2-3	0864-46-2021	中田 朋子	〃 (11)	60
10-5	倉敷市特殊学級 〃	710	〃 笹沖457-17	0864-26-8002	安藤 和子	〃 (170)	52
10-6	倉敷市ふじ園 〃	710	〃 有城710 倉敷市ふじ園内	0864-29-1711	小川 瑞江	〃 (25)	49
10-7	倉敷市在宅部 〃	710	〃 〃	0864-29-1711	小川 国恵	〃 (35)	55
10-8	倉敷養護学校 父母と教師の会	710	〃 粒浦388-1	0864-25-4611	藤井 敬子	〃 (140)	39
11	児 島 親 の 会	711	〃 児島小川7-8-31 三宅隆志宅	0864-72-7729	三宅 隆志	35	51
(11-0)	倉敷市手をつなぐ 親の会連合会	710	〃 有城710 倉敷市ふじ園内	0864-29-1711	原 聖子	(698) 再掲	57
12	玉野市 手をつなぐ親の会	706-03	玉野市胸上38-8	0863-41-2662	神迫 明	94	46
13	笠岡市 〃	714	笠岡市吉浜1830-2 金浦中内	08656-6-0831	埴和 花恵	110	30
14	総社市 〃	719-11	総社市総社1-4-5 山脇輝雄宅	08669-2-0354	山脇 輝雄	70	38
15	井原市心身障害者 育成会OBの会	715	井原市井原町957-3 藤井忠夫宅	08666-2-4841	藤井 忠夫	10	56



番号	会 員	〒	所 在 地	電 話	代 表 者	構 成 員	設 置 年 度
16	鴨方町のぞみの会	719-02	浅口郡鴨方町深田803 亀岡初士宅	086544- 4448	亀岡 初士	27	51
17	矢掛町 手をつなぐ親の会	714-12	小田郡矢掛町矢掛3000-1 矢掛小内	08668-2-0042	青江 初子	20	55
18	里庄町 若草むつみ会	719-02	浅口郡里庄町里見1107-2 町役場内	086564- 3111	高田 峯子	19	50
19	新見阿哲 手をつなぐ親の会	718	新見市高尾576 美和哲也宅	08677-2-3346	床 登喜男	17	52
20	阿波村 "	709-39	苫田郡阿波村1238 村役場住民課内	086846- 2011	戸井 泰	6	45
21	美作町 "	707	英田郡美作町林野上町 71-6 高田政子宅	08687-2-2064	高田 政子	13	57
22	岡山市興除地区重度 障害者父母の会 (興除つばみ会)	701-02	岡山市内尾625 小野太一宅	0862-82-1662	小野 太一	24	43
23	加茂川町 親の会	709-25	御津郡加茂川町井原1-1	08673-5-0001	前田 忠義	10	56
24	熊山町 手をつなぐ親の会	709-07	赤磐郡熊山町松木569 豊田小内	08699-5-0015	万代 邦子	10	53
25	牛窓町 " (すみれ会)	701-43	邑久郡牛窓町牛窓4911 町住民課内	086934- 3431	山本 倫生	8	54
26	金光町 みどり会	719-01	浅口郡金光町占見新田 751 町住民課内	086542- 3121	原田 種夫	22	49
27	高梁市 手をつなぐ親の会	716	高梁市松原通2043 市福祉事務所内	08662-2-7243	笹田糸之助	12	50
28	加茂町めぐみの会	709-39	苫田郡加茂町河井32 石原聡子宅	0868-42-2591	石原 聡子	15	49
29	旭町 手をつなぐ親の会	709-34	久米郡旭町江与味1348 藤井達三郎宅	086727- 2136	藤井達三郎	20	55
30	津山ひまわり会	709-31	苫田郡鏡野町円宗寺 1406	0868-54-1198	小倉 照美	32	53
31	北房町 手をつなぐ親の会	716-14	北房郡北房町下皆部225 町福祉課内	0866-52-2111	大恵 昭一	16	59
32	寄島町しらなみ会	714-01	浅口郡寄島町安倉3982 田中勝彦宅	086544- 2315	田中 勝彦	23	52
33	井原市心身障害者 (児)育成会	715	井原市高屋町199-12 川合千恵子宅	08666-7-1612	山木 豊	82	53
34	勝央町 手をつなぐ親の会	709-44	勝田郡勝央町黒坂725-2 芦木早苗宅	086838- 3482	芦木 早苗	5	59
35	船穂町 "	710-02	浅口郡船穂町沖 中原義晴宅	086552- 2134	中原 義晴	16	52
36	御津町 親の会	709-21	御津郡御津町伊田1334 井上 崇宅	08672-4-1209	井上 崇	8	60
37	建部町心身障害者 (児)親の会	709-31	御津郡建部町福渡804-3	08672-2-0309	卯野善四郎	15	60
38	灘崎町 手をつなぐ親の会	709-12	児島郡灘崎町片岡207 町住民課内	08636-2-3140	守田 トキ	20	49
39	早島ことばを 育てる親の会	701-03	都窪郡早島町片岡207 早島小内	0864-82-0063	外賀 尚武	10	55
40	久米町あすなろ会	709-46	久米郡久米町南方中 久米町役場住民課	0868-57-3111	藤木 洋子	18	47
41	久米南町 手をつなぐ親の会	709-36	久米郡久米南町北庄140 磯山芳彰宅	08672-8- 3493	磯山 芳彰	7	62



## 1. 岡山市精神薄弱者育成会

〒703 岡山市小橋町1-1-30  
市福祉文化会館内 0862-72-9694

### 1. 発足当時の状況

昭和39年9月5日岡山精神薄弱児育成会を結成する。

会 長 川崎祐宣  
副会長 内倉素子（親代表）  
小松原次郎（校長代表）  
庶務会計 安芸康江（附属小担任）  
会 費 年額600円  
事務局 附属小学校

岡山市を中心に親の団結を図りそれをだんだん県下に拡げていきたいと考えて、名称を岡山市とも岡山県ともしないでただ“岡山”とぼかした。

附属小学校特殊学級の親たち24人鹿田小学校15人岡山市内小中学校長30人など計100人が参加して附属小学校で発会式を行う。

特殊学級の親たちを正会員その他を賛助会員とする。

### 2. 経 過

31年7月 山下清展の開催

36年10月20日～21日 第1回中国大会の開催  
場所 天満屋葦川会館 参加人数390人

40年8月 県立養護学校設立期成会を結成  
岡山市内に養護学校を設置するため街頭募金を行う。しかし、岡山市に養護学校を設立しないとの知事の方針が出たため期成会は解散された。

募金額300万円は県立西養護学校が設立された時全額寄付した。

42年6月 岡山市精神薄弱者育成会と発展した。34年に岡山県精神薄弱児育成会が岡山精神薄弱児育成会から分離独立している。

会 長 小若和子  
副会長 宮西華子・虫明稔・那須栄  
会 費 年額1,200円

事務所 児童相談所の一室

43年8月 会報第1号発行

44年9月6日 西大寺親の会との合併

46年8月 福祉文化会館に事務局を移転

手をつなぐ幼児クラブを開設

手をつなぐ女子青年学級の開設

家庭教育学級の開設（現在も継続）

47年3月 手をつなぐ作業訓練クラブの開設  
（後の仲よし作業所）

54年10月 チャリティバザーの開催

55年4月 備前焼チャリティーバザーの開催  
8月30日 仲よし作業所開所（昭和町6-26）

56年11月 総合福祉会館建設のためにあき缶に硬貨一杯運動を始める（継続中）

57年4月 福祉文化会館仲よし作業所開所  
（小橋町1-1-30）

60年5月 清輝橋仲よし作業所開所  
（清輝橋3-8-20）

9月 西大寺仲よし作業所開所（西大寺1-2-3）

### 3. 昭和62年度の状況

会員数 700人

会 長 小若和子

副会長 岡本真理子・角南和子・小野太一・  
槇野博子・今中智子・太田ミドリ・  
田中敏子

予算額 407万円（会費1人年1,200円）

#### 事 業

##### ・研修事業

岡山県大会・中国大会・全国大会への参加

部会の開催（幼児・学校・施設・成人）

家庭教育学級開催

あじさいの会（青年期の子をもつ保護者を対象）

施設の見学

倉敷市親の会との交流会

##### ・育成事業

仲よし作業所の運営・青年学級・合同

ソフトボール大会・合同運動会・合同

宿泊訓練

##### ・広報活動

会報の発行・賛助会員の募集

##### ・その他

岡山市主催の各種行事への参加（体育大会・激励慰安会・福祉の船・花火大会・国際障害者年記念福祉大会等）

## 2. 西大寺心身障害者教育後援会

〒704 岡山市西大寺上1-19-21  
西大寺小内 08694-2-2155

### 1. 発足当時の状況

本会は昭和41年2月1日西大寺市精神薄弱者育成会として発足した。

育成会役員は顧問14人会長1人(栗原 正)副会長3人理事20人監事5人計43人である。

育成会発足にあたり会報「育成」創刊号が発行された。

事業計画として合同遠足・児童作品展示会・講演会・保護者研修会・担任者研修会などが実践されてきている。

予算は発足当時は1,597口分15,970円である。支出項目は事務費・会議費・研修費・助成費などが載せられている。

### 2. 経 過

#### (1) 西大寺地区障害児学級の事業

4月—監事会・理事会 5月—総会 6月—会費募集・中学校球技大会 7月—小学校宿泊学習・親の会助成 8月—担任者研修会 9月—会報発行・担任者会 10月—合同運動会・合同遠足 11月—視察研修 12月—中学校宿泊学習 2～3月—就学指導連絡会

#### (2) 仲良し作業所の設立と親の会

西大寺地区に障害児を中心とした通所授産所を作りたいという願いから、岡山市に対して陳情をしたところ場所や予算の関係から実現が困難であった。

そこで、西大寺地区に住む保護者が通所授産所の早期設立を望み親の会を組織した。

その後親の会が努力を積み重ねて60年9月に「西大寺仲良し作業所」を開設した。

本会においては58年度から作業所建設のために積立金をしてきており、大きな事業に役立てたいと考えている。

#### (3) 研究物

51年1月栗原正会長を中心とした「岡山市西大寺地区心身障害児調査報告書」が発行された。

これは53年1月31日現在岡山市西大寺地区に居住する15才未満の就学児及び4・5才児を対象とした医学的調査である。

### 3. 昭和62年度の状況

会 長 栗原 正 (小児科・精神科医師代表)

副会長 歳森康正・矢部直美・山本美都城  
河本真佐夫・赤堀文彦

### 事 業

5月21日 担任者会  
6・1～30 学級助成  
6月 中学校球技大会  
6月16日 中学校球技大会(奥市グラウンド)  
7・28～29 小学校宿泊学習  
7月 親の会助成  
8月 担任者研修会  
9月1日 会報発行  
9月 担任者会  
10月9日 合同運動会  
10月 合同遠足  
11月 視察研修  
12月 中学校宿泊学習  
2～3月 就学指導連絡会

予 算 1,939,693円

### 3. 岡山市藤田地区手をつなぐ親の会

〒701-02 岡山市藤田都256  
0862-96-2129

発 足 昭和46年11月

構成員 10人

会 長 森藤悦子

副会長 竹好春男

経 費 会費 年1,000円

地区からの補助 20,000円

事 業 会員の話し合いを密にすることを中心にし、年1回の親子親睦旅行をする。

### 2. 昭和62年度の状況

構成員 10人

役 員 会 長 真野鈴子

副会長 長瀬輝代

事 業 療育相談(8月・2月)

視設見学(10月)

大会参加(8月・9月)

予 算 約180,000円(会費1人年1,000円)



#### 4. 岡山市三幡地区親の会

〒702 岡山市江並130-1  
角南和子宅 0862-77-9697

##### 1. 発足当時の状況

県育成会事務局長坂本賢氏から、江並に少人数でよいから親の会をつくってみよう言われた。

その矢先、当時の町内会長池内徹馬氏が三幡社会福祉協議会から障害者の方へプレゼントを贈ることを提案され、「障害者の中には働きながら年金をもらっている人もいるが、働けない人に少しでも援助するのが本当の福祉ではないだろうか。それには窓口となる団体とか組織が必要だ。」と言われた。

保護者3人に呼びかけたり三幡婦人会長さんの協力も得て障害者のいる家庭との連絡をとっていただいた。同じ悩みをもつ親同士が趣旨を話し合い発足に向けて準備をすすめてきた。その中で「自分の殻に閉じこもって一人が不幸だと悩んでいたが、互いに話しているうちに長い間の胸のかたまりがとれたよう。」と晴れ晴れとした様子で語ってくれた人もいた。

8人の保護者の同意があり昭和55年9月25日三幡地区親の会が発足した。坂本先生・岡山市障害者福祉課長・岡山市育成会小若会長・三幡社会福祉協議会長・池内町内会長・木南相談員と5人の母親が出席して角南宅で発会式を行うことができた。

##### 2. 経過

その後、懇談会・親子遠足・クリスマス会等の事業しか行っていないが、地域に作業所をつくる願望をもっているため今後地元の方々と手を取り合って実現したいと思う。

##### 3. 昭和62年度の状況

構成員 11人

会 長 角南和子

副会長 河井幸枝

他の役員 2人

事 業 懇談会・親子遠足・クリスマス会

予 算 41,000円(会費1人年1,000円・助成金30,000円)

#### 5. 備前市手をつなぐ親の会

〒705 備前市東片上126  
市教委内 08696-4-3301

##### 1. 発足当時の状況

備前市教育委員会の呼びかけもあって保護者が相はかり昭和51年2月29日に会結成の運びになった。

51年度事業等

構成員 会員69人(市内障害児学級保護者)

予 算 138,490円(会費・補助金)

事 業

4月 総会準備会

6 総会、石井小学校・香登小学校見学

7 伊部小学校見学

8 山陽小学校親の会との交歓会

9 中国大会(倉敷)

10 県障害者教育研究会に参加

11 みかん狩り(先生・生徒・保護者)

12 備前中学校見学

1 三石中学校見学・文集相談

2 障害児学級担任教師と親の会話し合い

3 文集「ひまわり」創刊号発行・反省会

##### 2. 経過

53・10 神坂市長と横山県議をかこむ懇談会で養護学校に通学している子供の実情を報告し親の要望を述べる

・東備に養護学校を設置する。

・学校卒業後の進路を確保する。(家から通勤できる授産場・作業所の設置)

54・1 市長との懇談(養護学校・授産場)

12 心身障害児実態調査(教育委員会)に協力。

55・10 旭東地区心身障害児(者)教育福祉懇談会(東備に養護学校設置について)

10 「東備地区に県立養護学校の設置」要望書を県に提出(1年10町市町長)

56・2 旭東地区心身障害児(者)教育福祉振興懇談会

7 備前市連合育成会結成総会

7 障害児(者)保護者の授産場・作業所等についての要望を調査。市長と民生部長へ調査結果を報告

8 邑久町・牛窓町育成会と施設等の話し合い

- 56・9 日生町・長船町育成会と施設等の話し合い
- 9 市政懇談会へ養護学校・授産場設置を要望
- 10 中国大会(岡山大会)において養護学校開設に対する親の要望を提案
- 10 備前市福祉大会(療育体験発表2人)
- 57・2 旭東地区心身障害児(者)教育福祉振興懇談会
- 9 親の岡山県大会(備前大会)
- 10 市政懇談会(養護学校・授産場)
- 11 県立養護学校に高等部設置の署名とカンパ(県議会は高等部設置を採択)
- 58・10 市政懇談会(養護学校・授産場)
- 59・6 福祉事務所・市議会議員とミニ作業所の話し合い
- 11 ミニ作業所の件話し合い
- 12 ミニ作業所の件話し合い
- 60・1 ミニ作業所開所
- 4 東備養護学校開校
- 61・4 ミニ作業所認定
- 62・4 東備養護学校に高等部設置

### 3. 昭和62年度の状況

会員47人 会長 鯉江暁美 副会長 亀川まさみ・藤原由美子。

会員は障害児学級・養護学校・卒業生の親達で構成している。年々会員数が減少ぎみである。

年間行事は5月役員会・6月総会・8月1泊キャンプ・8月育成会県大会・9月育成会全国大会・10月障害児学級見学・11月施設見学・2月文集「ひまわり」12号発行・3月役員会・反省会。

予算は485,000で収入は繰越金・会費・補助金(社会福祉協議会・障害児部会・連合育成会)山陽新聞ふれあい基金助成会, 支出は会議費・旅費・県大会・中国大会参加費・文集・研修費・事務費・育成会負担金・慶弔費・キャンプ費用等

## 6. 瀬戸町精神薄弱者育成会

〒709-08 赤磐郡瀬戸町瀬戸5A-1  
町社協内 08695-2

### 1. 発足当時の状況

昭和46年12月27日江西小学校・千種小学校・

瀬戸中学校特殊学級児童生徒の保護者20人が発起人となり江西小学校長金重博之氏の指導を得て発足した。

会の名前は「瀬戸町手をつなぐ親の会」とし初代会長に青地倍子氏の下会員の親睦と福祉向上をはかることとした。

経費は実費自己負担として話し合いや共同作業を行った。翌年47年に会費を年額300円と決め一層の充実を図ったが、その後町および社会福祉協議会の助成を受けるようになり、義務教育終了者も対象とした。

昭和53年6月1日「瀬戸町精神薄弱者育成会」と改称して現在に至る。

### 2. 経過

53年には県大会を当地町福祉センターで開催、県下から約600人が参加し、盛大りに終了した。

県大会を機に組織強化と充実のため、年度ごとに重点目標をきめ定例の理事会に図り行動を起こすようになった。

53年度・手帳所持率の向上・扶養共済加入促進・養護学校の東備地域設置運動

54 ・特殊学級の適正運営要請(対教委)

・県育成会への積極的な事業協力

55 ・保護者研修の充実と町年金の増額要請・町社協の助成金増額要請

・サマーキャンプ・Xマス会開催

・手帳保持者の医療費を重中軽度まで全員受給

56 ・雇用対策(職業相談)開始

58 ・賛助会員制度発足

60 ・会の財政の確立を重点

・指導誌の購読促進

61 ・自立促進と高令化対策を重点的に検討

・他町育成会との交換会開催(当町)

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 正会員48人・賛助会員28人

顧問 町長以下7人

参与 福祉課長・校長等7人

会長 土井日出夫

副会長 横山 甫・常尾 清

専務理事 金子扶自男

理事 藤原治子・北山光子・中村益雄・

額田光子・丸尾清実・斉藤広美



監事 青地幹夫・寺尾弘道

事業・個別学級連絡会 6月3日

・個別学級春の行事 6月11日

・サマーキャンプ 7月29・30日

(町福祉)

・個別学級秋の行事・障害児激励旅行

(社協)

・個別学級お別れ会

予算 60万円

## 7. 山陽町手をつなぐ親の会

〒709-08 赤磐郡山陽町下市337

町教委内 08695-5-0069

### 1. 発足当時の状況

昭和47年4月に、町民で育成会を結成して諸活動が実施されていたが、保護者の会を作る必要が生じて55年7月20日手をつなぐ親の会を発足させた。

### 2. 経過

重要な活動は町育成会と共催しているのので、その経過の項を参照。

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 25人

会長 友実弘典

副会長 菊地弘美・藤井隆子・楠原知子

顧問 県育成会理事

事業 ・体力づくりボーリング大会(5月)

・仲よし会(6~12月)

・料理教室親睦会(6月)

・水泳教室(8月)

・夏季合宿(8月)

・県大会参加(8月)

・全国大会兼中国大会参加(9月)

・レクリエーション(10月)

・バザー(11月)

・もちつき大会(12月)

・町長を囲む会

・料理教室(1月)

・役員研修会(2月)

・スキー教室(2月)

予算 70,906円

## 8. 邑久町心身障害児(者)の親達が手をつなぐ会

〒701-42 邑久郡邑久町尾張465-1

社会福祉協議会内 08692-2-3506

### 1. 発足当時の状況

昭和41年3月邑久町民協・社協合同委員会の席上重度心身障害者問題が大河原稔助役(現在故人)から提示された。4月民生委員の総会に提案され万場一致で採択、直ちに調査にのりだしたが容易でなく担当の大森課長補佐(現在町民協総務)が4か月かかって結果をまとめた。17人が対象となった。

42年4月5日「邑久町心身障害児(者)の親達が手をつなぐ会」を結成、通称「ひまわり会」として以後町社協が主体となって定期的に会を開いた。

### 2. 経過

国際障害者年を契機に56年1月再結成した。構成員数は33人。

56・1・24 再結成

4・19 総会を開き会則決定

4・24 障害者年町推進協議会参加

5・23 車椅子専用自動車命名式参加

7・21 町障害者年記念集会参加

7・22 邑久郡育成会総会参加

8・11 会員研修親睦旅行

8・27 備前市親の会と懇談会(養護学校設立運動)

57・2・20 旭東地区障害者教育振興懇談会(養護学校設置問題)

3・13 障害者年記念植樹

58・1・24 町福祉関係者研修会

4・14 町民生委員老人障害者部会と懇談会

6・22 講演会(江草安彦氏)

59・3・3 福祉講演会

11・8 牛窓すみれ作業所見学

60・7・4 在学児の親部会研修会

10・30 在学児の親部会研修会

11・22 町社協福祉団体並びに協力団体連絡会

61・3・19 内山工業で作業内容説明会

4・15 在宅で内山工業の作業開始

9・17 会員懇談会(これからの取り組み)

10・29 神郷の園視察

62・1・7 町社社団並びに協力団体合同研修会

3. 昭和62年度の状況

構成員 46人

役員 8人

会長 宇津木弘之

副会長 中尾 昌典

事業

・ふれあい事業

会員相互の親睦を目的に年1回1日旅行実施

・自立育成事業

県内更生施設見学

・啓蒙事業

講師を依頼し民生委員を始め地域の協力者団体と懇和会形式で親交を深める

予算 369,000円

内訳 収入 支出

会費 90,000円 総会費 26,000円

助成金 160,000 研修費 190,000

繰越金 118,000 大会参加費 100,000

雑収入 1,000 その他 53,000

9. 長船町心身障害児(者)の親達が手をつなぐ会(野菊の会)

〒701-42 邑久郡長船町土師291

町社協内 086926-2001

1. 発足当時の状況

同じ悩みをもつ親達4人で昭和56年2月1日に結成し、57年度には8人58年度には11人と会員が漸増し、59年度には作業所を開設し週1回通所して軽作業を行うことができるようになった。

2. 経過

61年4月に相談員の自宅を借用しミニ作業所(たんぼほの会福祉作業所)を開設し月火水金の4日を作業日とした。手芸品の作成で1日200円の賃金を出している。

3. 昭和62年度の状況

作業所を本会事業の中心にして活動をすすめていく方針である。

62年度は会員9人で顧問として町長・議長・住民課長・精神薄弱者相談員をお願いし事務局は社協に置く。予算は465,000円である。

10. 倉敷市手をつなぐ親の会

〒710 倉敷市有城710

倉敷市ふじ園内 0864-29-1711

1. 発足当時の状況

昭和31年4月、特殊学級親の会発足

36年9月、倉敷市手をつなぐ親の会発足  
倉敷市内の特殊学級(小3・中1)の中で昭和34年頃から障害の重い者には養護学校検討の段階に入っていた。

36年10月、第1回の中国大会が岡山天満屋の葦川会館で開催されて障害児の教育の機会均等の問題が討議せられるのを機に倉敷に養護学校を設置すべく相談活動を始める。

37年2月、次の問題を市議会に請願し採択される。

・倉敷市に精神薄弱児の養護学校を設置する。

・倉敷市に精神薄弱者の更生施設を設置する。

2. 経過

37~38年 国会議員・県議員・市議員等36人・三木知事へ倉敷養護学校設置を要望する。

38・11・2 倉敷市教育委員会で学校設置が決定された。

39・3・25 岡山県教育委員会で設置認可が決定された。

4・1 倉敷市加須山353-1に学校が設置された。

5・1 旧帯江中校舎で授業開始

8・25 新校舎へ移転した。

10・15 開校記念式。

50・3・31 倉敷市粒浦388-1に新校舎第1期工事完成。

5・1 高等部開設、第1学年入学式

51・5 第11回中国大会(倉敷大会)開催

54・1 ひまわりの会結成

54~55年 ひまわりの会の援護事業を会員達が協力しささえた。

60・1・11 児島福祉作業所開所式

2・7 玉島福祉作業所開所式

61・4・1 水島福祉作業所開所式

心身障害者(重度・最重度)を対象に倉敷市に更生施設を設置する活動を続けている。

さらに旧倉敷地区にも福祉作業所の設置を早期に実現すること、また既設の作業所を発展充



実させることを目指している。

### 3. 昭和62年度の状況

- 構成員 628人  
会 長 原 聖子  
副会長 小川国恵・藤井敬子  
事 業
- 5月 総会（倉敷市民会館）
  - 8 理事会研修
  - 第9回県大会（井原）参加
  - 9 第27回中国大会・第36回全国大会参加
  - 10 第6回倉敷市心身障害者スポーツ大会後援参加
  - 11 倉敷市「障害者の日」記念心身障害者(児)作品展後援
  - 12 連合会福祉展とチャリティーバザー
  - 2 ふれあい新聞発行
- 予 算 2,918,000円

#### 10-1 ひまわりの園保護者会

〒712 倉敷市福田町福田 2122-1  
0864-55-8585

##### 1. 発足当時の状況

ひまわりの園保護者会は授産施設ひまわりの園開園の翌月昭和56年5月17日37人で結成された。

社会福祉法人ひまわりの会は、親達が心身に障害をもつ子達の幸せを願って設立したもので保護者活動が極めて活発である。

主な事業は、毎月第4日曜日の保護者奉仕日に全員参加して奉仕活動を行うことや職員との親子遠足である。

会費は1か月1人2,000円とし、役員は会長板谷和・副会長三宅茂の各氏であった。

##### 2. 経 過

全員参加の奉仕活動が開園以来永々と続いている。この保護者奉仕日は毎月95%以上の出席率であり、しかも父母だけでなく兄弟姉妹はもとより親戚の者まで参加、園内のあちこちで交歓する姿が見られる。

この日は、午前中環境整備や園生との共同作業に参加、男性は水島臨海鉄道から枕木をいただき、トラックで園に運び丸のこで切断、風呂炊きのまきづくりに汗を流す。園生達は

毎日温かいお風呂に入ることができる。

午後は昼食と園内の喫茶「古城」でコーヒーやジュースを飲みながら、園生・保護者・職員が共にだんらんし、園生活の様子や指導点を話し合う。その後保護者による会議・講演会・研修・親睦の場がもたれる。

- ・ 58年4月には更生施設のオープンに伴い保護者会員は100人になる。
- ・ 保護者会は58年4月1日園生福祉共済制度を発足させた。

これは園生の不慮の事故や一身上の重大な変化に備えると共に、園生処遇の向上と福祉の充実を図ることを目的として全保護者が加入し、保護者会とは別に「ひまわりの会園生福祉共済会」を作り保護者によって運営されている。事業の内容は、(1)園生の事故や一身上の重大な変化に備える積立 (2)園生の処遇向上に必要な支出 (3)将来の施設整備をはかるための基金 (4)その他目的達成に必要なことがらとなっている。

このため1か月1人3,000円を積み立てている。

- ・ 60年には社会復帰の促進のために通勤寮を開設、定員増により会員は135人となった。

##### 3. 昭和62年度の状況

62年度の会員は140人である。役員は会長香西昂太・副会長 小野晶子・若林千枝子の各氏。また役員の前門部会を設け事業部・親睦研修部・広報部・会計部がある。

事業は、毎月1回の奉仕活動・地藏盆まつりの奉仕・親子旅行・チャリティーバザー協力・育成会への参加協力・運動会参加・クリスマス会援助・お茶葉販売・廃品回収などである。

予算は4,095,694円である。



—保護者奉仕（まきづくり）—



## 10-2 瀬戸内学園保護者会

〒712 倉敷市連島町矢柄6092

0864-48-1811

### 1. 発足当時の状況

昭和54年8月1日倉敷市矢柄6092番地に精神薄弱者更生施設「瀬戸内学園」が入園生17人で開園。入所定員50人(重度30人・中度20人)

54年8月20日瀬戸内学園保護者会結成(代表世話人 大熊精一・吉玉愛子・大谷正子) 会員17人で発足。

- 目的
- ・園生の厚生福利・施設の充実
  - ・会員の研修会・親睦会(保護者会)
  - ・その他本会の目的を達成するために必要な事業(育成会入会)

経費 会費(月額1,000円, 57年度から月額2,500円に改正)

寄付金・物品販売利益

### 2. 経過

55. 3 会員37人となる

4 第1回総会開催

会長 宇野宮子 副会長 永瀬良平

「親なきあとの子のために」呼びかけた。

56. 4 第2回総会開催, 会員47人,

会長 吉沢利男, 副会長 永瀬良平・青本セツ

7 渋川海岸で合宿訓練40人参加

11 第30回全国大会東京大会保護者4人参加

57. 6 福山六方学園見学保護者17人参加

7 中四国地区精神薄弱者施設職員研究協議会(徳山市) 保護者3人参加

10 育成会中国大会(育島市) 4人参加

11 育成会全国大会(熱海市) 4人参加

58. 6 保護者研修10人参加(名古屋市メイ  
トウ・ワークス視察見学)

8 中四国施設職員研究協議会(山口市)  
保護者3人参加

9 岡山大会 青本セツ氏受彰

10 育成会中国大会(松江市) 10人参加

11 育成会全国大会(松山市) 5人参加

59. 4 園生に対する法外援護資金施設整備  
・拡充援助資金積立を決定(年額3万円目  
標額1人100万円) 実施中

育成会・愛護協・市心身協・市手親会等の  
行事を保護者研修の場として参加

60.10 重度棟30人増築, 備品費として400  
万円を寄付

61. 4 重度棟完成 30人入園(計77人)

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 77人

役員 12人

会長 吉沢利男

副会長 青本セツ・永瀬良平

面会日-第1日曜日, 保護者会-第3土曜日  
保護者会総会-月1回(作業奉仕・役員会開催)

5月 県育成会総会・市手親会総会・学園行  
事(運動会・学園祭)

7 中四国職員等研修大会(松山市) 2人  
学園宿泊訓練(小豆島) 保護者63人参加

8 県育成会岡山県大会(井原市) 参加

9 育成会全国大会・中国大会(米子市)  
参加者20人

12 倉敷市心身協主催「施設紹介・作品展  
示即売会」・クリスマス会共催・他施設見学  
予算 370万円

収入 繰越金・会費・その他

支出 負担金(育成会・その他)・会議費・  
大会参加費・研修費等

積立 特別会費(約565万円)

## 10-3 倉敷学園父母の会

〒712 倉敷市連島町8ノ割5-2

0864-48-1144

### 1. 発足当時の状況

昭和51年当時養護学校は義務化になっておらず, 就学年令に達した子供が入学できないので近所の幼稚園へ親付添いで通園するケースもあった。

そこで昭和53年倉敷市内に精神薄弱児通園施設倉敷学園が定員45人実員26人でスタートした。

早速倉敷学園父母の会を発足させ, 障害を持った子供のよりよい発達を目指し活動を始めた。

予算は会費1,000円で約89万円であり, 会の仕事は地域の理解を得て子供達の生活範囲を拡げることとした。

### 2. 経過

- ・毎春5月末に友愛セールを行っている。父母の手作りの品や不用品, 特別安価にしてもらった家庭用品などを, 園庭や園内などで販



売し地域のふれ合いを深める努力を続けている。父親の連帯を強めるために、砂場の陽をさえぎるよう鉄パイプの柱の上にヨシズを張ったり、園庭の清掃作業を行ったりしている。

- 毎年11月3日の文化の日には、在宅障害児の方を招いて、小ざくら園と共同で「小ざくらの集い」を開催し、悩みを同じくする者同士が語り合っている。
- 昭和54年からは倉敷になかった成人の入所施設作りを考え、化粧品を販売して資金を作り念願の「ひまわり園」の発足をみた。
- 昭和55年からは通園バス1台を中央競馬会から寄付を受け、運用経費一切は父母の会で負担した。2台のバスの送迎により、療育時間の延長と、長時間乗車の負担を軽減することができた。
- それまで1,000円の会費を3,000円と決め現在に至っている。

### 3. 昭和62年度の状況

父母の会も今年で10年目を迎え、現在会員は40人である。そのうち役員は9人で会長1人副会長1人、教養部（会計・書記を含む）4人事業部3人である。

本年度予算は190万円で、会費（1人月3,000円を含む）・友愛セール福祉展の収益・寄付金・お茶販売廃品回収の収益などである。

主な行事は次のとおりである。

宿泊キャンプ・お別れ会・施設見学・福祉展・父母の会ボーリング大会・手作り講習会・清掃奉仕・友愛セールなど

## 10-4 小ざくら園保護者会

〒712 倉敷市水島北幸町2-3

0864-46-2021

### 1. 発足当時の状況

昭和60年8月4日に市内のダウン症児を持つ親の会「ドレミの会」が、社会福祉法人光明会の浅田弘義氏らの援助により発足することができた。同会は、お互いに悩みを話し合い学び合いながらわが子と生き生きと生活しようと結成された。

発会式には、ダウン症児をかかえた保護者40人をはじめ施設職員・来賓を含め約60人の出席があり、会長に平井喜美さんを選び、大阪市立

大学の藤田弘子先生（赤ちゃん体操等の著者）や辻野増枝先生（障害乳児研究会）らの協力が得られた。

事業は施設見学・講習会・親睦会・研修会等とし意欲的に取り組んできた。

会費は会員年間1,200円 賛助会員1,000円としている。

### 2. 経過

- 発足して間のないドレミの会だが昭和60年度には次のような事業を実施した。

60. 9 精神薄弱者授産施設「ひまわりの園」見学

10 座談会「子育ての経験談」

11 秋の親睦旅行

12 親睦会

61. 1 講演会（笠岡小学校片山円先生）  
「ことばの発達」

2 雪あそび（広島県比波郡高尾原高原スキー場）

毎月第1火曜日を定例会とし、小ざくら園のプレイルームを借りて、今後の活動・親同士の親睦・施設の先生方の療育についての指導助言などの活動をしてきた。

- 61年度には、次のような事業を進めてきた。

61. 8 ドレミの会総会・機関誌の発行（定期的に発行 お母さん方・子供たちの記事をのせる）

9 施設見学（瀬戸内学園、将来の子供たちの施設生活を考える上で勉強となる）

11 座談会・秋の親睦旅行

12 親睦会

1 講演会

2 雪あそび

3 研修会

5 施設見学（くれたけ荘）

毎月第3土曜日を集団療育日として小ざくら園の「おもちゃの広場」へ参加させていただき、親子いっしょに遊んだり先生方と話をしたりすることを続けている。また幼児には大阪市立大学の藤田弘子先生の指導による「赤ちゃん体操」を療育の中に取り組んできた。

### 3. 昭和62年度の状況

会員数約20人でスタートした。賛助会員は施設の先生方の協力により現状を保っている。会

員の年齢層にも幅ができ取り組みの再検討も必要になってきている。

会長には前会長のバトンを受け鮫島さん副会長には岡本さん・神田さんと新しい顔ぶれをまじえて張りきっている。前会長の平井さんは理事として残りアドバイザーとしての役割りを果たしてもらう。

#### 事業計画

#### 62. 8 総会・施設見学・実習

10 秋の親睦旅行

11 座談会・ミカンがり

12 親睦会

#### 63. 1 講演会

2 雪あそび

3 研修会

(4) スポーツ大会

予 算 寄付金を含めて 228,000 円

### 10-5 倉敷市特殊学級親の会

〒710 倉敷市笹沖457-17

0864-26-8002

#### 1. 発足当時の状況

「特殊学級入級児の親の会がほしい」という声が聞かれはじめたのは昭和50年頃であった。51年9月24日に開かれた「育成会中国大会倉敷大会」がきっかけとなり、西崎康子さんを中心に共鳴する親達数人が各学校を訪問してまわり、校長先生はじめ担任の先生・父母を説得した。52年6月に倉敷市特殊学級親の会が発足した。

当初は小学校だけのスタートであったが、中学校も加入することとなった。発足当時の会員は約100人。52年度は学習マットの販売をした。

#### 2. 経 過

・53年度にはいり年2回の会報を発行した。年1回発行している文集「あるく」もこの年に始まった。

お茶の販売やなかよし運動会弁当販売等を行い経費に当てられている。

・54年度にはいり各学校の特殊学級には「あゆみ文庫」が開設され、子供向き・大人向きの本が入れられた。

お茶の販売は当初年1回であったが、現在では6月と12月の2回に定着してきた。

・文集「あるく」も53年度と54年度は役員によ

る手書きであったが、55年度から印刷されるようになった。子供達の作品も加えられるようになり年々充実した。毎年12月中旬に発行され、会員・学校・教育委員会・その他親の会がお世話になっている人達等にも配布されている。

・研修会・親睦会・研修旅行も定着している。

#### 3. 昭和62年度の状況

・会員177人で構成され、会長安藤和子・副会長片山初美・氏本千枝子を中心になって運営にあっている。

・事業としては、例年通りお茶の販売・親睦会・研修会・研修旅行・なかよし運動会弁当販売・文集「あるく」発行・各大会への参加等が計画されている。

・今年度は理事研修を行い、奈良の県立養護高等学校の見学をするとともに中学校の親と担任の懇談会を行う。

特に研修費に多くの予算をつけ、より一層会員の向上を計ることにしている。

### 10-6 倉敷市ふじ園保護者会

〒710 倉敷市有城710

倉敷市ふじ園内 0864-29-1711

#### 1. 発足当時の状況

倉敷市ふじ園は昭和47年6月1日定員20人入所者2人で開設された。

昭和49年入所者数も増加し保護者会結成の気運が高まり、4月16日保護者の代表4人により保護者会設立準備委員会を開き会則案作成・総会の準備について検討する。

同年4月24日会員15人で総会を開催、会則を制定し会長三宅茂・副会長板谷和・代議員青本広二・渡辺博治・石井攻・守田正臣・会計大野作衛・会計監査三宅辰夫を選出し事業計画の審議した。会費1人月額300円。

49年度の主たる事業は職場訪問・潮干狩り・野外生活指導大会・クリスマス大会・生活指導発表大会・施設見学研修等であった。

#### 2. 経 過

50年25人定員となる。

51年10月30日~31日洪川青年の家において初めて合宿訓練が行われ保護者10人が参加以後毎年夏実施している。

52年12月から新田にある私有地を借り受け倉



敷市心身障害者園芸クラブを発足させる。以後継続発展され現在ではふじ園の農園として運営されている。

53年4月会の要望により定員30人に増員

56年4月倉敷鶴形ライオンズクラブの協力により新幹線に乗ったことがない園生のために期末旅行（京都方面）が実現し、以来毎年ライオンズクラブの方との親睦を深め会からも保護者も多数参加している。

盆踊り大会・秋季恒例のふじ園祭・クリスマス会等は3回目を終え住民の参加を推進して来た。

役員会は毎月開催し予算の執行・会の運営・園の行事について審議検討を重ねている。

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 26人

会長 小川瑞江

副会長 牧野和美

その他役員 7人

事業計画

4月 定期総会

5 倉敷市手をつなぐ親の会総会

7 宿泊訓練参加（牛窓）

8 盆踊り参加・育成会県大会参加（井原）

9 育成会各大会参加（米子）

ふじ園祭参加

10 倉敷市心身障害者スポーツ大会参加

11 定期総会

12 倉敷市手をつなぐ親の会連合会福祉展・チャリティーバザー参加・クリスマス会参加

1 施設見学

3 期末旅行参加

予 算 2,090千円

### 10-7 倉敷市手をつなぐ親の会在宅部会

〒710 倉敷市有城 710

倉敷市ふじ園内 0864-29-1711

#### 1. 発足当時の状況

昭和55年には倉敷市手をつなぐ親の会が藤原律太前会長から土倉義一会長に受け継がれるし、会の充実発展をめざして8部会制となり、在宅部会も発足した。

在宅部は、特殊学級・養護学校・重度や最重

度の家庭にいる子供たちの状況と学校卒業後の実態を把握するので、幅が広すぎることもあって諸会合の出席状況についても大へんきびしいものであった。

#### 2. 経 過

昭和56年国際障害者年頃から、就職の叶わぬ子ども達の通所作業所を設けて欲しいという親の願いが高まり、連合会で陳情を行う。

県・市当局のお計らいで通所福祉作業所が、昭和60年児島・玉島61年水島の三地区に設置され、子供たちが作業を通して仲間とふれ合いながら楽しい毎日を送っている。

今後はこの作業所を軸に保護者間の交流を計り在宅部会の充実に努力したいと思っている。

#### 3. 昭和62年度の状況

会 員 60世帯

役 員 親の会理事3人を選出

事 業 各大会へ参加

機関紙「ふれあい」の発送

### 10-8 倉敷養護学校父母と教師の会

〒710 倉敷市粒浦 388-1

0864-25-4611

#### 1. 発足当時の状況

昭和36年10月第1回中国大会が岡山市で開催されたのを機に藤原律太氏（前、倉敷市手をつなぐ親の会連合会長・倉敷市手をつなぐ親の会長・現在倉敷市手をつなぐ親の会顧問）を中心に9人の保護者が倉敷市への養護学校設置運動を展開した。

昭和38年11月倉敷市教育委員会で設置決定、39年3月岡山県教育委員会で設置認可があり、同年4月1日倉敷市加須山353-1に倉敷市立の養護学校が創立された。

5月1日から旧帯江中学校の校舎で授業が開始されました。8月25日新校舎へ移転し10月15日開校記念式が盛大に催された。

50年3月31日倉敷市粒浦388-1に新校舎が完成、同年5月1日高等部開設、53年1月屋内体育館の落成・校舎の増築があり内容・設備共に充実した。

会は養護学校と共に歩んだと言えます。

#### 2. 経 過

50年高等部が設置され、現在小学部・中学部・

高等部合計147人が通学している。

多くの先輩方から受け継いだPTAは、年と共に実を結び年間の事業もふえている。

小中高一緒のPTA活動は、子供の年齢差があり年齢と共に父兄の考え方が異なるので、連帯を強めることも目指してクラブ活動を始めている。

### 3. 昭和62年度の状況

役員 会長 藤井敬子  
副会長 竹内和子・大石美重子  
板澤恵子

書記 2人

監査 2人

事業 4月 新旧執行部会・総会

6 研修旅行

7 夏休みプール開放

8 “  
「夏の集い」

9 友愛セール

11 校内秋祭り

その他 1か月に1回クラブ活動  
(籐手芸・七宝焼・陶芸・運動・料理等)

予算 637,355円

### 2. 経過

・51年会発足以来海の集い・ミカンがり・クリスマス会を年中行事として実施

・58年4月1日倉敷・児島・玉島3地区が連合し倉敷市手をつなぐ親の会連合会結成。

・60年11月11日倉敷市児島福祉作業所が設立。

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 42人

役員 会長 三宅隆志  
副会長 佐々木喜代子・豊田道子

行事 総会(年2回)役員会(年3回)

月例会(毎月)その他行事(随時)

予算

収入 支出

前期繰越金 189,646円 会議費 50,000円

会費 42,000 通信費 30,000

助成・寄付 285,250 行事費 430,000

賛助会員 20,000 諸会費 10,500

販売手数料 40,000 交際費 20,000

バザー収入 50,000 通所保護費 40,000

貯金利子他 8,000 事務費 5,000

研修費 20,000

予備費 25,000

雑費 4,396

計 634,896円 計 634,896円

## 11. 児島親の会

〒711 小島小川7-8-31

三宅隆志宅 0864-72-7729

### 1. 発足当時の状況

手をつなぐ親の会を作りたいという声が上がリ、精神薄弱者相談員の3人の方が中心となって、同じ悩みを持つ親同士が心を開くことの大切について、家庭を訪問し賛同を求めたところ多くの同意が得られ会をつくることになった。必要最少限の会則が話し合われ、会が発足した。

発起人 岡山県精神薄弱者相談員 3人

発足年月日 昭和51年4月1日

構成員 45人

目的 障害者及び家族の積極的社会参加と通所施設の設立。

経費 会費 月1人100円

助成金 社会福祉協議会

寄付金 篤志家の寄付

その他 チャリティーバザー等の利益金

## 11-0 倉敷市手をつなぐ親の会連合会

〒710 倉敷市有城710

倉敷市ふじ園内 0864-29-1711

### 1. 発足当時の状況

倉敷市手をつなぐ親の会連合会は昭和57年9月1日に結成された。

地域が広範囲に及ぶため倉敷市手をつなぐ親の会・児島手をつなぐ親の会・玉島心身障害児(者)手をつなぐ親の会が3地区でそれぞれ活動をしていたが、合併を要望する気運が高まり結成に至った。

事務局を倉敷市ふじ園におき会長三宅茂(倉敷)、副会長池田光男(玉島)・三宅隆志(児島)、会計監査青本セツ(倉敷)・宇野宮本(玉島)、評議員9人からなっていた。

### 2. 経過

・福祉展とチャリティーバザー

昭和59年度までは倉敷シティプラザ西ビル2



階展示場において、昭和60年度以降は倉敷市総合福祉会館駐車場に場所を移して行った。

パネル展示により活動の状況・組織の仕組み等をわかりやすく説明し、日用品・食料品等を持ち寄って廉価で販売し活動資金とした。

・倉敷市福祉作業所の運営管理

60年1月11日倉敷市児島福祉作業所、60年2月7日倉敷市玉島福祉作業所、61年4月1日倉敷市水島福祉作業所を開設し、それぞれ所長・指導員・補助指導員を置き養護学校や特殊学級の卒業生について社会自立を図っている。

・陳情

個々の親・部会・地域のもつ実情や要望を統合し、精神薄弱者の福祉向上のために関係当局に対する陳情を行い数々の成果を得た。

倉敷市の関係大会の後援・協賛を行い積極的に参加するとともに、他団体との交流を深めている。

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 670人

会長 原 聖子

副会長 三宅隆志(児島)・池田光男(玉島)

事業 ・福祉展及びチャリティーバザー  
・在宅福祉の充実と広報啓発活動  
・福祉作業所管理運営  
・心身障害者スポーツ大会への参加  
・陳情

・その他本会活動に必要な事業

予算 1,530,000円

## 12. 玉野市手をつなぐ親の会

〒706 玉野市宇野1-27-1

0863-31-1111

### 1. 発足当時の状況

発会 昭和46年4月

東児町身体障害者相談員尾崎保志・同町精神薄弱者相談員合田恭子が発起人となり東児町精神薄弱者育成会を結成する。

初代会長に尾崎保志就任、東児町役場内に事務局を設置する。

事業 総会・ピワがり・クリスマス会等を行い、会員相互の交流と親睦を深めた。

施設を参観し奉仕と研修を行った。

### 2. 経過

・会名変更

東児町は49年4月1日玉野市と合併する。

49年11月東児町精神薄弱者育成会は玉野市精神薄弱者親の会「のぞみ会」として継承される。

・会員 70人

・役員 会長 尾崎保志

副会長 加藤達朗・井上建吾

理事 20人

監事 2人

・事業 精神薄弱者の福祉向上させる諸活動  
会員相互の交流親睦を深める諸活動  
一般社会の理解を深める諸活動

・経費 738,000円(会費・寄付金等による)

・改組

60年5月「玉野市手をつなぐ親の会」と名称を変更し、特殊学級親の会・養護学校保護者会・わかえの園保護者会等を併わせて組織する。

玉野市内に精神薄弱者更生施設を建設するため陳情・資金募金・用地選定等の諸活動を開始する。

### 3. 昭和62年度の状況

会員 99人(62.9.1現在)

役員 会長 神迫 明

副会長 大森伸二・松岡 洵

山岡宏行

事業 ・精神薄弱者更生施設建設資金募金

・同上資金づくりバザー

・同上資金づくり物品販売

・会員研修

(映画・録音テープ・研修会等)

・会報「手をつなぐ」の発行

・県育成会・全日本育成会の諸活動に参加

・運動会・レクリエーション

・交流親睦会(クリスマス会・新年宴会)

予算 886,000円(会費・助成金・事業収益等)

### 13. 笠岡市手をつなぐ親の会

〒714 笠岡市吉浜1830-2  
金浦中内 08656-6-0831

#### 1. 発足当時の状況

金浦中学校長毛利章一氏を中心に秋田・畑本・  
埴和・藤本・仁科・真砂など12人の活躍があっ  
て昭和30年11月22日に開設された。

会長にはPTA会長秋田覚氏が推された。

毎月親子で会食して楽しく遊んだ。

47年まではこの調子で必要経費は全て親の負  
担であったが、47年11月に再発足し教育委員会  
に事務局を置いた。



— 会員研修（広島大会） —

#### 2. 経 過

- 47.11 在宅訪問教師・言語治療教室の特設・  
授産施設の設置を市長・教育長・そ  
の他関係者へ陳情
- 48. 1 養護学校設置要望
- 〃 3 就職者懇談会
- 49. 1 作品展
- 〃 4 在宅訪問教育開催・ことばの治療教  
室開設
- 〃 10 第1回職場訪問
- 50. 3 養護学校設立請願
- 55. 8 県大会実施
- 56. 4 西備養護学校入学式
- 〃 5 厚生施設ときわ園開園
- 57.10 情緒障害学級開設
- 〃 12 高等部設置運動を始める
- 62. 4 (西備養護学校高等部設置)

### 3. 昭和62年度の状況

会員 110人

役員 会 長 埴和花恵

副会長 山本智恵子・菅本 健

- 事業
- ・会報発行(年3回・B5・4ページ)
  - ・県大会・中国大会・全国大会へ参加
  - ・養護学校・養護学校の作品展
  - ・文化祭へ参加
  - ・会員研修旅行(年1回)
  - ・笠岡市福祉対策審議会へ授産施設の  
拡充・更生施設の設置に関して要望  
書を提出

予算 495,928円

### 14. 総社市手をつなぐ親の会

〒719-11 総社市総社1-4-5  
山脇輝雄宅 08669-2-0354

#### 1. 発足当時の状況

昭和30年ごろから総社市育成会発足の動きが  
あり32年には親達の強い要望もあって、市内校  
長会の協力により総社市に特殊学級が設置され  
た。

34年に特殊学級PTAが発足した。この時会  
員は7人であった。今後親として何をなすべき  
かをしばしば学校に集まり話し合いを重ねた。  
少ない会員では無力であることを知らされ、市  
内在住の同じ立場にある方々に協力を要請し会  
員数は30人となった。

34年3月早春のひえびえとした西中学校の教  
室で1人の教師を囲んで3人の障害児のお母さ  
んが弱々しい声で話し合っていた。これが総社  
市手親会結成の原動力となったと言えよう。

37年に手親会結成準備会が設置された。

38年に手をつなぐ親の会が結成された。会長  
山脇輝雄、会員35人。今後手親会として通園施  
設建設に取り組むことになった。

#### 2. 経 過

40年、施設建設のために手親会役員1日10円  
の献金を申し合わせる。

41年総社市及び周辺の町村を一体として施設  
建設期成会を発足させた。全国各界名士の協力  
を得てチャリティーバザーを開催。期成会とし  
て県知事に施設の陳情を行う。

42年、各市町村の負担金問題で期成会は機能



を失った。総社市の単独事業となったため岡山市金山で臨時総会を開き、会員70名が参加してハンスト決行を決議する。スト突入前日に市長と面談施設建設が決定した。

44年4月、数多くのドラマを残して総社学園が開園した。

45年、総社市単働の相談員制度が制定された。

47年、総社学園に特殊学級が併設された。

48年、手親会10周年記念大会を開催、仲野好雄氏・小松原次郎氏が列席。学園出身者就職先を激励慰問。

50年、職親・教員・父兄の三者会談を開いた。市社協内に社会奉仕活動センター発足。

52年、県大会を総社市内で開催した。

54年、総社市に地方心身障害者対策協議会が制定された。

56年、市長・福祉事務所長・民生部長を招き障害者年記念事業・授産施設問題について会談した。

57年、精薄者厚生相談室が設置された。

58年、手親会結成20周年記念大会を市社協福祉大会を合同で開催した。市社協を中心に福祉センター建設が計画されこの中に授産施設を設けることになった。

60年、福祉センター建設と授産施設設置が決定。作業所設置推進委員会を結成。

61年9月1日、作業所開所式。市の委託により手親会が運営に当る。

総社市手親会の信条である信念・努力・忍耐・協調・信頼をもって会の運営に当たっている。平和を福祉の原点としているのが会の特徴である。

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 約70人

会長 山脇輝雄

副会長 板野 緑・三上 毅・栢野 淑

事業 福祉展

特殊学級合同運動会

施設見学

研修会

移動相談所

予算 約63万円(会費1人年1,700円)

### 15. 井原市心身障害者育成会OBの会

〒715 井原市井原町957-3

藤井忠夫宅 08666-2-4841

#### 1. 発足当時の状況

発 足 昭和56年4月末

会 員 11人

会 長 藤井忠夫

#### 2. 経 過

井原市心身障害者育成会は在学児までが対象となるので、卒業生の育成や相談を目的に開設した。

#### 3. 昭和62年度の状況

構成員 10人

会 長 藤井忠夫

事 業 常時、青年や成人の相談に応じる。

予 算 必要によって会員から徴収。

### 16. 鴨方町のぞみの会

〒719-02 浅口郡鴨方町深田803

亀岡初士宅 086544-4448

#### 1. 発足当時の状況

昭和51年5月鴨方町のぞみ会とし、会員17人、初代会長を森原俊弘氏として発足した。

経費は会費年額1,000円・町福祉協議会補助3万円で運営する。

総会年1回・例会2か月に1回

#### 2. 経 過

51. 9 集会を重ねる内に県西部に厚生施設を望む声が高くなり浅口郡5町親の会に呼びかける。

12 5町役員会で請願書をつくり町長・町会議員に請願。

52. 9 例会と同時に5町親の会代表者会を開く。ももその学園を見学し施設づくりについていろいろと聞く。

53. 2 シーツ配布。

3 井原こだま園見学10人参加。

4 5町合同総会(金光町・講師坂本堅氏)

54. 陳情書を知事・議長・厚生大臣

7 合同親の会(里庄町)

11 言葉の教室、講師2人に指導を受ける。

55.10 のぞみ会として全国大会参加。

- 55.11 5町親の会（寄島町）
- 56. 4 ときわ園見学
  - .12 クリスマス会
    - ときわ園が開園されたので施設建設の運動は取りやめた。
- 57. 7 国際障害者年の記念行事として毛布配布。
- 58~59 例会の会合も出席が少なくなり常時6~7人。
- 60. 7 講演会「親の会のこれからの活動」（講師梶並角助氏）
  - 10 西備養護学校高等部設置を知事へ陳情（井笠圏内親の会）
- 61. 阿部山に集会場を借りる。（山の家）
  - 10 町民生委員全員が「山の家」を見学

### 3. 昭和62年度の状況

- 会 員 27人
- 役 員 会 長 亀岡初士
  - 副会長 森原俊弘・松田金蔵
  - 会 計 1人
  - 監 査 2人
- 事 業 集会所の設置
  - 養護学校を出て施設に入れない子の作業所，休暇で帰宅した子達が親子で自由に集まれる場所とする。
- 予 算 217,000円（町福祉協議会・郡育成会の補助金を含む）

## 17. 矢掛町手をつなぐ親の会

〒714-12 小田郡矢掛町矢掛3000-1  
矢掛小内 08668-2-0042

### 1. 発足当時の状況

昭和55年2月1日，発起人山辺千磨太・津野熊由美・青江初子と育成会役員が中心となって会員19人で発足した。

経費は年間1人500円の会費と町育成会から13万円町社会福祉協会から8万円合計22万円であった。

主な事業は次のとおりである。

#### ・総会・研修会（3回）

県育成会の坂本賢氏を講師に招き親の会活動の方向について指導を受けたり，特殊学級担任を講師に招いて，ちえ遅れの子の生活指導や指導上の留意点について指導を受けた。

互いの悩みやわが子の実態を出し合い親の自立に努めた。

- ・ 県精神薄弱者福祉振興大会参加
- ・ 親子のつどい

尾道市へ親子・育成会役員がミカンがりをし，子供の社会経験を広げ親睦を深める。

### 2. 経 過

- ・ 会員は20人前後で経過する。
- ・ 昭和59年度から育成会と共催の研究視察に県下の授産場の見学を取り上げる。
- ・ 59年12月24日町当局へ次の3項目について陳情書を提出する。
  - ・ ホームヘルパーの設置
  - ・ 扶養共済保護者負担金の軽減
  - ・ 町内ミニ授産場の設置
- ・ 昭和60年5月町に精神薄弱児者ホームヘルパー（1人）設置される。
- ・ 61年度からミニ授産場開設の気運が高まり井笠振興局の指導を受けながら育成会と協力し町当局とも話し合い授産場開設に向けて準備を進める。
- ・ 昭和62年8月25日に県へ授産場開設の申請書を提出する。

### 3. 昭和62年度の状況

- 会 員 20人
- 役 員 会 長 青江初子
  - 副会長 広石常雄・山部裕子
- 予 算 収入額 638,496円
  - 会 費 20,000（年1,000円）
  - 町育成会助成 200,000
  - 町福祉協会助成 80,000
  - 県 助 成 3,000
  - 繰 越 金 335,496
- 主な事業と予算
  - 会 議 費 50,000円（講師謝礼等）
  - 研修会研修視察 100,000（授産場視察等）
  - 育成会県大会 50,000
  - 親子のつどい 80,000
  - 指導員賃金 102,000（作業所運営費）
  - 事務局費 50,000
  - 積 立 金 200,000（作業所運営費）
  - 負担金・予備費 6,496

本年度はミニ授産場の開設が予定され，この



運営や関連の事業が増加するであろう。計画している事業の経費を節約して授産場充実の費用に当てたい。

ミニ授産場運営に退職教職員15人がボランティアとして協力することを申し出ていただいております。深く感謝する次第である。

## 18. 里庄町若草むつみ会

〒719-02 浅口郡里庄町里見1107-2  
町役場内 086578-3111

### 1. 発足当時の状況

発 足 昭和50年4月1日

構成員 15人

会 長 吉沢忠男

### 2. 経 過

60年10月1日本会は県・町の格別な助成により「心身障害者地域福祉作業所」を開設した。施設は町役場の隣地に165㎡の建物を町で改築していただく。

毎週水・金・日に所生5人が箸の加工作業を行っている。

所長は定岡千万枝である。

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 19人

役 員 会 長 高田 峯子

副会長 水田スミ子

事 業 5月 親子遠足

8 県大会参加

9 中国・全国大会参加

9 施設見学

12 クリスマス会

3 成人を祝う会

予 算 547,272円

## 19. 新見阿哲手をつなぐ親の会

〒718 新見市高尾576  
美和哲也宅 08677-2-3346

### 1. 発足当時の状況

昭和49年の夏、悩みを打ち明けられる仲間が欲しいと感じた会員の一人が、県育成会理事の吉良一郎さんを明新小学校に訪ねた。

2年後の51年10月2日教育会館に吉良一郎・床登喜男・難波義正・美和哲也の4人が集まり親の会作りの準備を始めた。

「障害者を持つ親たちが自分達で手をつないで対策を進めていこう。」と呼び掛け、「行政だけでは全てを解決できない。新見にも親の会を作って立ちおけている福祉の推進を進めて下さい。」との推薦書が福祉事務所から対象者に送られた。

52年5月17日に発起人会をもち、6月12日に新見市内を対象に第1回例会を開く。参加者9人。発足にあたり次が決まる。

会員 18人

会費 年100円

予算 19万円

会長 床登喜男 事務局 美和哲也

顧問 吉良一郎

事業 会報発行・親子遠足・例会・大会参加

### 2. 経 過

・ 新見阿哲精神薄弱者育成会(41年10月12日発足)の資金援助を受けながら活動を続けた。毎回の例会で赤裸々な親の本音が語られ、夏の親子遠足で連帯感が深まっていった。

・ 54年8月5日県育成会県大会(参加450人)を成功させた。

特殊学級担任35人会員35人の中20人が参加。市町村から助成金を受ける。県大会のおかげで地域や関係団体との協力が進み後の施設づくりに役立った。

・ 54年9月、北房町の山林1町7反を寄付するから施設を作るようにとの申し出があり津山みのり学園の分園として成人更生施設「備北更生寮」の準備をした。

2年後水利用のことで上記の話は打切り、自力で土地を探し始めた。57年秋神郷町から土地の提供があり58年4月現在地谷安に決まった。

・ 法人登録に必要な1千万円は副会長吉田延弘氏が担当、法人申請等の書類作りは会長が1年がかりで作り上げた。計画が潰れそうになり、わずか1週間で新見阿哲の保護者宅100軒を回って署名を集めたこともあった。入所者調査も地域内を数次にわたり希望をまとめた。350件200万円の募金が会員の手で集められたことは限りない喜びである。

この間35人の会員は50人に増え計画を支援し続けた。

- 60年4月5日更生施設「神郷の園」定員50人を開設。

会長が自ら住み込もうと意気込んだこと、数人が児童施設から成人施設へ移らなければならなかったこと、地元から快い土地の提供があったことなどが幸いして成功したと言えよう。

### 3. 昭和62年度の状況

会 員 57人

会 長 床登喜男

副会長 吉良一郎・難波義正

事 業 例会・会報発行・親子遠足・大会参加

当面の目標は養護学校を地域に設置することである。

予 算 38万円

## 20. 阿波村手をつなぐ親の会

〒709-39 苫田郡阿波村1238

村役場住民課内 086846-2011

### 1. 発足当時の状況

発 足 昭和45年7月13日

会 員 7人

会 長 歌房 毅

### 2. 経 過

毎年、懇談研修会を3回程度実施する。

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 6人

会 長 戸井 泰

副会長 刃金龍平

事 業 総会・研修会

予 算 120,000円

## 21. 美作町手をつなぐ親の会

〒707 英田郡美作町林野上町71

高田政子宅 08687-2-2064

### 1. 発足当時の状況

発起人 高田政子

発 足 57年12月

構成員 13人

賛助員 1人(特殊学級担任)

- 同じ悩みを持つ親達が「何等かの形で気軽に語り合える場が欲しい」と相談もしたが、話は進展せず月日は経過した。

- 昭和57年12月、教育委員会の世話で該当者親子のクリスマス会で初顔合わせをし、福祉課・福祉協議会・ことばの教室・美作ライオンズの力添えを得て和やかに語り合った。

- その後58年に会を結成し会則も定めてスタートした。初会合は全員参加、みんなの笑顔が見えたのは心のよりどころを得た安堵感であろう。

### 2. 経 過

58. 4 久米郡ゆうあいの丘へ一日バス旅行  
(親子親睦旅行)

8 英田郡こぶしの里へ一日バス旅行  
(親子親睦旅行)

12 クリスマス会・餅つき大会

59. 8 英田郡こぶしの里へ泊旅行  
(親子親睦旅行)

12 クリスマス会・餅つき大会

60. 8 鳥取県砂丘へ一日バス旅行  
(親子親睦旅行)

12 クリスマス会・餅つき大会

61. 4 お花見

8 日生方面へ

12 クリスマス会・一日バス旅行

62. 4 お花見

8 英田郡こぶしの里へ泊旅行  
魚のつかみ取り

12 クリスマス会

(会費は61年度から500円とする)

## 22. 岡山市興除地区重度障害者父母の会

〒703-02 岡山市内尾625

小野太一宅 0862-82-1662

### 1. 発足当時の状況

- 発起人小野太一が関係家庭を訪問して会結成を相談した。

- 昭和43年4月に発足

- 構成員数は21人

- 年に6回程度定例集会を開き福祉に対する説明と懇談。

施設の見学と慰問年間2回、温水プールの遊泳・クリスマス会。

- 経費年約25万円。

### 2. 経 過

- 44年度には会員増となる。



- 45年度には会員が希望をもって福祉を求めようになり、地区住民の理解と協力が得られるようになった。
- 61年度には地区内に授産場設置の準備を始める。

会員の慶弔規定を定める。

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 26人

役員 会長1人・副会長2人・会計1人  
書記1人

事業 例年通り、授産場設立準備。

予算 25万円

## 23. 加茂川町育成会親の会

〒709-25 御津郡加茂川町下加茂  
0867-4-1111

### 1. 発足当時の状況

発足 昭和56年5月2日

会員 20人

会長 前田忠義

発足以前から障害者をもつ保護者同士が呼びかけ合って発足した。

### 2. 経過

前田会長が町議に選出され、各方面の福祉について理解が広められた。

会員は年々減少したり高齢化したりして、保護者としての活動がしにくくなりがちになるのを課題としている。

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 会員10人

役員 会長 前田忠義 副会長 荒谷圭右  
事業

- ・入所先の施設に会員全員が訪問する。
- ・社協からボランティア奉仕の協力を求められ岡山市旭川荘へ年間3回訪問する。
- ・チャリティーバザーの協力を婦人会から得る。

予算 220,000円

(内) 会費 10,000円 (1,000×10人)

町補助金 50,000

寄付金 100,000

繰越金 60,000

## 24. 熊山町手をつなぐ親の会

〒709-07 赤磐郡熊山町松木569

豊田小内 08699-5-0015

( " " 623

町教委内 08699-5-1211)

### 1. 発足当時の状況

発足 昭和53年8月

会員 34人

会長 竹内博司

### 2. 昭和62年度の状況

構成員 10人

会長 万代邦子

事業 ・大会参加 (8・9・11月)

・クリスマス会 (12月)

・研修視察 (2月)

・講演会 (3月)

予算総額 345,839円

(事業・予算は熊山町育成会と共同である。)

## 25. 牛窓町手をつなぐ親の会 (牛窓町すみれ会)

〒701-43 邑久郡牛窓町牛窓4911

町住民課内 086934-3431

### 1. 発足当時の状況

昭和53年3月に母親中心の会ができ、54年4月1日から邑久郡精神薄弱者育成会の事業部として発足した。別名牛窓町手をつなぐ親の会 (すみれ会) 会員は8人・会費500円・郡・町から補助金6万円をいただけるようになった。

56年春から父親も参加する。当時の郡育成会長竹内行成を囲み作業所作りの話があって準備金を積立てるよう計画した。

年8回の例会・奉仕活動・授産施設・作業所見学・春休みの家族1泊研修旅行と活発になった。

58年11月に竹内会長の援助によって念願のミニ作業所 (すみれ会協同学習所) ができ、紙粘土の人形・箱作り・シルクスクリーン・皮のしおり・キーホルダーなどの製作に取り組んでいる。

### 2. 経過

53. 3 母親の会発足

54. 4. 1 牛窓町手をつなぐ親の会すみれ会と改名

54.4~55.3 例会5回

54. 4. 1 仲良し絵はがき販売
55. 10. 28 備前市陶芸会館にて懇談会
11. 5 難波先生・高坂先生と懇談会
56. 2 倉敷ひまわりの園へ研修
3. 31～親子研修旅行（高知市白ゆり授産所見学）
4. 1 例会5回・父親夜の会12回・奉仕活動（福祉センターの掃除）3回
57. 5. 28 土井よしえ先生と懇談会
6. 15 牛窓福祉センターで江草安彦先生の講話
8. 8～親子合宿（埼玉県から養護の先生9招待）
57. 3. 27～28親子研修旅行（香川県）
- 4～58. 3 例会7回・父親夜の会12回
8. 4～5 親子合宿（牛窓町）
58. 4～59. 3 例会3回・父親夜の会12回
- 11 すみれ会協同学習所設立
59. 3. 27～28親子研修旅行（山口県）
- 4～60. 3 例会3回・父親夜の会10回
8. 5 牛窓港祭に作品を出品販売
8. 21 親子合宿（牛窓町内）
10. 21 秋祭りに作品を出品販売
60. 3. 21～22親子研修旅行（鳥取県）
- 4～61. 3 父親夜の会10回
61. 3. 27～28親子研修旅行（島根県）
8. 2 牛窓港祭に作品を出品販売
9. 6 邑行郡育成会，施設見学（神郷の園）
11. 8 光瑛瑠製作所の中村音次郎先生の講話（牛窓福祉センター）
62. 2. 22 海の祭典に作品出品販売
3. 27～28 親子研修旅行（兵庫県）
3. 昭和62年度の状況
- 構成員 8人
- 役員 会長 山本倫生・副会長 山本文子
- 事業計画 6月 邑久郡育成会総会
- 8 親子合宿・港祭で作品を販売
- 9 前牛窓教育長森隆氏の講話
- 10 県内授産所見学
- 10 秋祭で作品販売
- 12 奉仕作業
63. 3 親子研修旅行

予 算 154,476円

収 入 支 出

会 費 8,000 会員8人 会議費 35,000 総会・例会

補助金 50,000 町・県 事業費 90,000 合宿その他

助成金 60,000 町社協 負担金 6,500 県郡負担金

寄付金 10,000 慶弔費 15,000 会員慶弔費

繰越金 26,476 予備費 7,976

## 26. 金光町みどりの会

〒719-01 浅口郡金光町占見新田751  
町住民課内 086542-3121

### 1. 発足当時の状況

町の保健婦が心身障害児の訪問を重ねていく中で、一人の力が結びあって何倍もの力になり、知恵を出し合えば方向が見出せるのではないかと思いついた。

2～3人の母親達や精神薄弱者相談員に働きかけ、該当の保護者に地域親の会結成の呼びかけの手紙を発送した。「一人で悩んでいても幸せな道にはつながらない。皆で手をつなぎあって少しでも前進できることを考えていこう」と。

昭和49年5月28日、若葉の季節と子供たちの心にちなんで「みどりの会」が誕生した。

構成員は16人世話人2人，事務局担当は町保健婦と決定した。当局の理解によって50年度以降町社協から16万円郡育成会から3万円が助成された。

### 2. 経 過

月1回の定例会を開始し、関係機関から講師を招き福祉制度・就学・介護等当面する問題についての学習会をしたり、町長・議員等を囲んで座談会をした。

50年3月養護学校・通所施設のスクールバスの運行とホームヘルパー採用とについて町長・議会へ陳情書を提出する。

スクールバスについてはみどりの会予算から交付金を出し保護者負担軽減という形で解決、ヘルパー採用については52年5月看護婦有資格者採用となった。

51年には更生施設への取り組みを開始した。

議員・民生委員を呼んでびわこ学園療育記録映画会・川崎医大リハビリ科・こだま園の施設研修、浅口郡3町合同研修会等を行う。

52年には寄島・船穂に結成された親の会を加



え郡5町合同研修会を開催し、みのり学園牧野園長・県育成会坂本専務理事を講師に施設づくりについて研修する。

60年にはバザーの製品づくりを週3日公民館を借用して実施する。

61年4月、ミニ作業所を公民館2階に開設する。

62年2月、公民館1階の元調理室を作業所へ改装整備しここへ移る合

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 23人

役員 会長 原田種夫

副会長 相良正史・吉田博史

事業 ・月1回例会

・七夕会(7月)

・研修視察(10月)

・文化祭バザー(11月)

・健康まつり(12月)

・クリスマス会(12月)

・講演会(1月)

・成人式・卒業式・入学式の祝い

(3月)

・奉仕作業(9・3月)

予算 397,600円

助成金 260,000円(町)

〃 80,000 (郡育成会)

会費 27,600 (100円×12月×23人)

寄付金 30,000

### 27. 高梁市手をつなぐ親の会

〒716 高梁市松原通2043

市福祉事務所内 08662-2-7243

#### 1. 発足当時の状況

発足 昭和50年7月12日

発起人 則井雪子・大槻菊枝・斉藤義子

武田文子・安藤正幸

構成員 保護者13人

学校職員2人

事業

・クリスマス会・もちつき大会

学校・社会福祉事務所・民生委員の協同(現物・材料持ちより)

・学習発表会

学校主催で教育委員・福祉事務所・民

生委員を招待

経費 予算8万円

### 2. 経過

(1) 56・12・14,「精神薄弱者更生施設の誘致」に関する請願を高梁市議会議長へ提出する。

60・4・1,「たかはし授産センター」開設

(2) 50・7・1, 51・9・1, 51・7・20の3回にわたり精神薄弱者に関する調査を実施し養護学校の義務化に資する。

(3) 61・11・20,備北地区に養護学校設立について要望書を県教育委員会教育長に提出。

(4) 会長(世話係)は50~54年則井雪子55年丸山深56年~笹田糸之助が就任。

(5) 恒例事業

・海水浴一家族同伴で山陰海岸へ

・ミカンがり一家族同伴で邑久町黒井山へ

・チャリティー基金づくり

・研修事業一養護学校・授産所等の研修視察。

・座談会

・講演会

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 12人

会長 笹田糸之助

事業 ・研修視察

・講演会

・座談会

予算 502,000円

### 28. 加茂町めぐみの会

〒709-39 苫田郡加茂町河井32

石原聡子宅 0868-42-2951

#### 1. 発足当時の状況

発足 昭和49年4月1日

会員数 24人

会長 石原聡子

#### 2. 経過

毎年,懇談(3回)・大会出席(3回)・施設見学などを実施する。

#### 3. 昭和62年度の状況

構成員 15人

会長 石原 聡子

副会長 浮田婦美子(49~59年)

平野阿也子(60年~現在)

事業 ・大会出席と施設見学研修

- ・みのり学園通園バス運行  
(54年から・4人)
- ・63年精神薄弱者作業所開所準備  
(福祉センター内・5人)

予 算 115,000円

## 29. 旭町手をつなぐ親の会

〒709-34 久米郡旭町江与味1348  
藤井達三郎宅 086727-2136

### 1. 発足当時の状況

発起人 県精神薄弱者相談員 藤井達三郎

発 足 昭和55年2月23日

構成人員 25人

事 業 ・総会

・役員会

・療育相談

・施設視察

・土ひねり指導

経 費 予算70,000円

会 費 12,500円

助成金(町) 20,000

歳末募金配分 40,000

補助金(社協) 30,000(別途)

### 2. 経 過

#### ・発足後の施設視察等

55年—旭川荘, 56年—津山市みのり学園,  
57年—慶光園, 58年—吉備の里・かしお園,  
59年—大佐荘, 60年—県総合社会福祉センタ  
ー, 61年—スポーツ大会

#### ・成果

- ・ 毎年実施した施設視察は障害者の理解を深め、入所や通所を円滑にすることができた。
- ・ 55年・56年両年度に年3回ずつ土ひねりを行ったが効果が目立たなかった。
- ・ 61年は新規事業としてスポーツ大会を実施した。身体障害者と協力する形をとった。

### 3. 昭和62年度の状況

構成人員 20人

会 長 藤井達三郎

副 会 長 後藤 俊夫

事 業 ・役員会

・総 会

・療育相談

## ・スポーツ大会

(岡山県知事表彰—藤井達三郎会長  
相談員永年)

予 算 60,000円

## 30. 津山ひまわり会

〒708-03 苫田郡鏡野町円宗寺1406  
小倉照美宅 0868-54-1198

### 1. 発足当時の状況

発 足 昭和53年6月

会員数 24人

会 長 西村浩子

### 2. 経 過

56年から役員改選は毎年行うことにしている。

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 32人

会 長 小倉照美

副会長 杉山利子・皆木康子・矢延貴子

事 業 ・例会(年9回)

・会報発行(年10回)

・親子遠足(年1回)

・プール研修(17日間)

・総会(年1回)

予 算 34万円

## 31. 北房町手をつなぐ親の会

〒716-14 上房郡北房町下啓部225  
町福祉課内 0866-52-2111

### 1. 発足当時の状況

- ・ 昭和57年4月に精神薄弱者相談員研修会に参加して、県内の育成会・親の会等が各地にあって活発に活動されていることが大変うらやましく感じられた。

勇気を出し関係者16人全家庭の訪問にふみきりつながりを深めながら1年2年と過ぎた。

- ・ 59年3月24日、福祉課2人来席のもと発起人会を行い続いて4月4日に準備会、4月17日に北房町手をつなぐ親の会の発会式を行うに至った。

構成員16人という少人数であるが、町の助成と会費と合わせて7万円の予算であった。この人の幸せのために全員一丸となって結成したものである。



## 2. 経 過

- 。 知恵遅れの子供のために、ぜひともこの北房町に特殊学級を設置してほしいということが強く望まれた。

町長・教育長に交渉したり、役員会に町長を招いて話し合ったりするうちに、3年目の61年4月上水田小学校に特殊学級設置が実現した。この月の15日開級式が行われ、町と親の会2人（会長大恵昭一・副会長赤田伸弘）が出席した。

1年がたった頃に授業参観をさせてもらおうと、山縣先生の指導よろしく、明るく・堅実に伸びつつある姿に接し非常に感動した。

- 。 会の事業として施設見学やバザーをしている。61年11月16日に県内4施設の寮生や所生が丹精こめて作った特産品の出店バザーを、ふるさとまつりの会場で行ったところ地域の絶大な協力を得た。
- 。 年1回1日研修旅行をしている。



— 研修旅行(62.9.13)瀬戸大橋見学26人 —

## 3. 昭和62年度の状況

構成員 16人

役員 会長 大恵昭一

(町精神薄弱者相談員)

副会長 森田利治

理事 4人

監事 2人

書記 (事務局福祉課)

予算 240,000円

事業

- (1) 第4回手をつなぐ親の会総会 4.18
- (2) 親の会研修 (たかはし授産センター) 5.19
- (3) 施設見学 (倉敷ひまわりの園) 7.15
- (4) 大会参加 (第9回県育成会井原) 8.30

大会)

- (5) 1日親子研修 (瀬戸大橋見学) 9.13
- (6) 参観日 (特殊学級授業参観) 10.16
- (7) クリスマスプレゼント 12.24

## 32. 寄島町しらなみ会

〒714-01 浅口郡寄島町安倉3982

田中勝彦宅 086554-2315

(町役場内 086554-3111)

### 1. 発足当時の状況

発 足 昭和52年1月19日

会員数 10人

会 長 田中勝彦

### 2. 経 過

作業所建設を考えたこともあったが最近では親睦・援助・指導が主になっている。

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 23人

会 長 田中 敏江・副会長 田中沼太郎

事業

- ・ 会員の親睦と子供達の交流を目ざして新年会・クリスマス会・研修旅行等の実施
- ・ 授産場・施設等の見学

予 算 252,495円

## 33. 井原市心身障害者(児)育成会

〒715 井原市高屋町199-12

川合千恵子宅 08666-7-1642

### 1. 発足当時の状況

- 。 井原市心身障害者(児)育成会は、その前身を「井原市特殊学級父母の会」と称し、昭和37年12月9日に特殊学級の担任教師と父母10人によって結成された。

49年には「井原市精神薄弱児者父母の会」と改名し、53年9月17日に会員68人で新たに「井原市心身障害者(児)育成会」が結成され現在に至っている。

- 。 事業として研修会開催・福祉行事参加・ボランティア団体との交流・療育キャンプ・ミカンがり・相談活動・クリスマス会等を実施している。

### 2. 経 過

57. 9.19 井原市障害者福祉推進スポーツ交歓大会 (90人参加・毎年)

58. 9.19 毎月第3水曜日に障害者の相談事業開始
59. 7.11 西備養護学校・こだま園等へ出かけ生徒園生と交流，経ヶ丸の清掃奉仕等（毎年実施）
- 59.11.11 山陽新開ふれあい基金を受け，ミカンがり実施（毎年実施）
60. 2.14 精神薄弱者児と介添者の交通費割引措置請願（3月25日井原市議会採択）
61. 2.17 育成会だより発行
61. 8. 1 療育キャンプを経ヶ丸で実施（45人参加）



— 経ヶ丸における療育キャンプ —

- 62.12.13 クリスマス会・地域の子供会と交流
3. 昭和62年度の状況
- 構成員 73人
- 役員 会長 山木 豊  
副会長 西江千賀子・妹尾純子
- 予算 48万円
- 事業
- ・例年の行事の実施（奉仕作業・療育キャンプ・スポーツ大会・研修視察・相談活動・クリスマス会等）
  - ・在宅心身障害者のための小規模作業所の開設に向けて準備会で努力している。

34. 勝央町手をつなぐ親の会

〒709-44 勝田郡勝央町黒坂725-2  
芦木早苗宅 086838-3482

1. 発足当時の状況
- 発足 昭和59年10月末
- 会員 10人
- 会長 芦木早苗

2. 経過
- 会員は発足当時保護者と協賛者とであったが現在では保護者だけである。
3. 昭和62年度の状況
- 構成員 5人
- 会長 芦木早苗
- 事業 ミニ作業所の開設を目指し町へ要望中。
- 予算 必要により会員から徴集。

35. 船穂町手をつなぐ親の会

〒710-02 浅口郡船穂町沖  
中原義晴宅 086552-2134

1. 発足当時の状況
- 発足 昭和52年2月23日
- 会員 16人
- 会長 中原義晴
2. 経過
- 毎年，懇談会（年3回）と親子遠足（隔年）を行った。
3. 昭和62年度の状況
- 構成員 16人
- 会長 中原義晴
- 会計 中桐信子
- 事業 日帰りレクリエーション（隔年1回・親子・バス）
- 予算 80,000円

36. 御津町親の会

〒709-21 御津郡御津町伊田1334  
井上 崇宅 08672-4-1209

1. 発足当時の状況
- 発足 昭和60年9月4日
- 会員 6人
- 会長 井上 崇
2. 経過
- 60・61年度は，相談会年3回・バザー年1回・親睦旅行年1回・大会参加年3回を実施する。
3. 昭和62年度の状況
- 構成員 8人
- 会長 井上 崇
- 副会長 海野栄明
- 事業 ・研修相談会（3回）  
・バザー



- ・親睦旅行
- ・大会参加

予 算 130,000円 (会費年 2,000円・バザー収益金・寄付・個人負担)

### 37. 建部町心身障害者(児)親の会

〒709-31 御津郡建部町福渡 804-3  
卯野善四郎宅 08672-2-0309

#### 1. 発足当時の状況

##### ・発 起

卯野善四郎・小坂一江・勝部悦子・大島美佐子・後藤美津子・藤原保之助・矢延貴子の7人で親の会を組織することを話し合い、設立総会期日を定めて会員を集めた。

##### ・設 立

60年12月8日設立総会を中央公民館で行う。会員13人、会費を月100円、会長卯野善四郎・副会長小坂田一江氏を選び、会計・書記・監事を選出した。

役員会と児童と親の会を隔月に開くことを決めた。

#### 2. 経 過

##### 61. 8.31

「たけべの森」に家族と共に1日体験学習会を行った。

波のりプールは障害児にとって有効な体験で、34人参加。(建部町長 御船剛吉郎氏の援助を受ける)

##### 12. 9

午後1時から中央公民館第1会議室で「クリスマス会」を実施した。

親と子の共同作業で飾りつけを行い早めの夕食を共に楽しんだ。

##### 62. 6. 3

新設の閑谷学園(和気町)を有志8人が参観した。

このような施設がわが町に設けられることを強く望んだ。

##### 8.29

第2回「たけべの森」体験学習会を実施した。

土曜日のため24人であったが、食事をバーベキューにしたところ往盛に食欲し大いに喜んだ。

建部町在住の療育手帳所持者約30人(施設入所者)のうち15人が会員で殆んどは養護学校に在学しており、在宅者の参加が望まれている。

#### 3. 昭和62年度の状況

構成員 会員15人・賛助会員1人

役 員 会 長 卯野善四郎

副会長 小坂田一江

会 計 勝部 悦子

書 記 湯川 光枝

事 業 ・施設見学

・体験学習

・各種会合参加実費支給

・クリスマス会

予 算 82,312円 (内町助成金30,000円  
会費・繰越金等)

### 38. 灘崎町手をつなぐ親の会

709-12 児島郡灘崎町片岡207  
町住民課内 08636-2-3140

#### 1. 発足当時の状況

発 足 昭和49年4月1日

会 員 11人

会 長 武田喜美

#### 2. 経 過

毎年、懇談会(年3回)・研修会(年1回)プレゼント(年2回)を実施する。

#### 3. 昭和62年度の状況

構成員 20人

会 長 守田トキ

事 業 ・総会(年1回)

・町外視察研修・懇談

・クリスマスケーキプレゼント

・お手玉プレゼント

予 算 480,000円

### 39. 早島ことばを育てる親の会

〒701-03 都窪郡早島町早島1297-1  
早島小内 0864-82-0063

#### 1. 発足当時の状況

発 足 昭和55年7月1日

会 員 9人

会 長 安部恵美子

2. 昭和62年度の状況  
 構成員 15人  
 会長 浅野ひとみ  
 副会長 森本 典子  
 事業 ・療育キャンプ  
 ・水泳訓練  
 ・バザー（年2回）  
 ・親子遠足  
 ・月1回勉強会  
 予算 181,368円

40. 久米町あすなろ会（地域親の会）  
 〒709-46 久米郡久米町南方中  
 久米町役場住民課 0868-57-3111

1. 発足当時の状況
- 昭和47年7月、町民生委員の佐々木静子・町役場住民課の森次敦士・保護者の山本勝代・実成盛次氏らが発起し、津山振興局福祉係長・町住民課長等が出席し「久米町心身障害者家族会」が町全体の保護者27人で発足した。
  - 色々なことがあり様子もよく判らないまま一応発足した。家族の悩みを話し合える機会になることを願った。
  - 翌48年10月に本人と保護者全員が建部町のみずは荘に集まって、総会と親睦会が開催でき軌道にのり、会長に実成盛次氏が就任した。
2. 経過
- 毎年、役員会・研修会・総会兼親睦会を開催してきてはいるが、大きな向上があったとは言えない。
  - 61年5月に療育手帳を交付された者の保護者で構成することとし、会費をこれまでは負担していなかったが年500円とした。
  - 名称も、久米町心身障害者家族会から久米町あすなろ会と改称、役員も改選し再発足することになった。
  - 障害者の諸会合への出席を願うものの現実には厳しく、特に重度の方をもつ家族では介護を要することもあってむつかしいことである。万障を繰り合わせて「まず出席」を目標にして努め合うことを申し合わせた。
3. 昭和62年度の状況  
 構成員 19人  
 役員 会長 藤木洋子

副会長 石原照将（相談員）  
 書記会計 藪木通夫

- 事業 ・総会・親睦会・研修会  
 ・視察（吉備高原の授産施設・久米南町の小規模作業所）  
 ・育成会県大会・中国大会参加
- 予算 90,500円
- 収入 町助成会 70,000円  
 年会費 9,000  
 雑収入 4,000  
 繰越金 7,000
- 支出 総会費 35,000円  
 会議費 5,000  
 事業費 50,000



—「吉備の里」視察—

41. 久米南町手をつなぐ親の会  
 〒709-36 久米郡久米南町下弓削  
 町社会福祉課 08672-8-2111

1. 発足当時の状況  
 発足 昭和62年4月1日  
 会員 7人  
 会長 磯山芳彰
2. 昭和62年度の状況  
 構成員 7人  
 会長 磯山芳彰  
 副会長 貞岡正和・南 重之・直本純行  
 事業 ・例会（年3回）  
 ・クリスマス会  
 ・新年会
- 予算 14,000円



## (3) 施設親の会

62年度末現在

番号	会 員	〒	所 在 地	電 話	代 表 者	構 成 員	設 置 年 度
1	ももその学園 保護者会	701-14	岡山市粟井2788	0862-99-0621	上田 力	100	44
2	みどり学園 父母の会	703	〃 祇園地先旭川荘内	0862-75-2119	深田 文子	30	49
3	愛育寮 保護者会	703	〃 〃	0862-75-4644	福田 有	86	55
4	わかば青年寮 〃	703	〃 〃	0862-75-1626	坪井 清彦	30	53
5	あかしゃ園 〃	703	〃 〃	0862-75-4645	渡辺 格	20	45
6	旭川児童院 〃	703	〃 〃	0862-75-1951	松本 勲	150	42
7	岡山市仲よし 作業所親の会	700	〃 昭和町6-26	0862-55-1252	石野 好子	46	47
8	井原市こだま園 保護者会	715	井原市高屋町4275-1	08666-7-2940	西江五三男	49	51
9	わかえの園母の会	706	玉野市宇野2-16-26	0863-31-7864	清家由三子	14	50
10	ときわ学園 保護者会	714	笠岡市有田1778	08656-6-3605	大森 申二	50	56
11	玉島保育園 つくしの会	713	倉敷市八軒屋145-7	08652-2-2329	草地 貞夫	22	53
12	総社学園 P T A	719-11	総社市井手999	08669-2-2384	柏野 淑子	25	44
13	津山ひかり学園 親の会	708	津山市川崎1058	0868-26-1091	三木 茂保	133	43
14	津山みのり学園 父母の会	708	〃 二宮999	0868-28-0522	池上 誠治	150	38
15	あおば園保護者会	700	岡山市平田407 社会福祉 センター更生課	0862-43-1711	神迫 明	94	48
16	わかくさ園 〃	700	〃 〃 〃 育成課	0862-43-1711	坪川 信一	48	48
17	弘徳学園保護者会	703	〃 赤坂南新町6-1	0862-73-0625	角南 和子	50	48
18	旭川学園 〃	703	〃 祇園地先旭川荘内	0862-75-4647	津野熊利太	100	35
19	番田同舟の園 親の会	706-04	玉野市番田1103	0863-66-5002	合田 恭子	8	54
20	笠岡学園愛護の会	714	笠岡市金浦746	08656-6-0844	山本智恵子	49	41
21	みどり授産センター 保護者会	703	岡山市祇園地先旭川荘内	0862-75-2119	田淵 守	20	59
22	吉備の里保護者会	709-23	御津郡加茂川町上野2320-10 吉備の里業務第一課内	08673-4-1521	大江 正海	50	59
23	神郷の里 〃	719-36	阿哲郡神郷町下神代1955	08679-2-6311	床 登喜男	45	60
24	玉授産所 〃	706	玉野市玉6-8-4	0863-31-7571	松岡 正博	8	58
25	ほほえみ授産 〃	719-02	浅口郡鴨方町小坂東 5030-424	086544-6257	松田 金蔵	25	61
26	閑谷学園 〃	709-04	和気郡和気町日笠下163-5	0869-92-1155	妹尾 耕作	35	62

### 1. ももその学園保護者会

〒701-14 岡山市栗井2788  
0862-99-0621

#### 1. 発足当時の状況

昭和43年4月ももその学園は定員30人の児童施設として発足した。

44年秋保護者会が結成され中心となって動いたのは故津尾精一氏・則武芳久氏等であった。

始ったばかりの学園だったために土止め・草取りといった環境整備から水田稲作り・野菜作りに至るまでの協力が続けられた。

#### 2. 経 過

- ももその学園の定員増や成人施設の発足にともない保護者会員の増加をみる。45年8月定員は50人、46年2月重度棟定員20人が設けられ計70人となる。

この間は主として施設備品の購入に協力した。大型焼却炉を導入し薪風呂を重油ボイラーに改めた。

- 50年7月授産施設ももその福祉園を設置した。建設期はオイルショックと重なり建設が中断されかけたが、故奥山郷雄園長の熱意を保護者が力強く支えた。チャリティーバザーやショーを数々行っている。

- 体育館の建設・グラウンドの拡張整備が進められ資金・労力の面で協力が行われた。

- この頃から施設内学級に対しても、対象児の保護者より援助が行われるようになった。

- 57年4月更生施設ももその育成園が児童施設の年長・重度児の受皿・在宅の精薄者の受皿として設置され、募金活動も行われた。

- 定員150人（内通所10人）の施設となり会員が増加した。

- 最近では春秋の2回の総会で予算・事業が審議され、年2回の保護者作業日には多人数が参加している。

#### 3. 昭和62年度の状況

構成員 130人

役員 会長（三園輪番にて）1人

副会長（各園1人）計3人

監事（各園3人）計9人

監事（各園1人）計3人

保護者会担当の施設長並びに担当事務をおき、各園には保護者窓口をおい

て連携を図っていく。

#### 事 業

- 創立20周年記念事業への協力
- チャリティーバザーの共催
- 育成会主催各大会・研修会への参加
- 各園行事への参加協力
- 年2回の保護者奉仕作業

予 算 約300万円

### 2. みどり学園父母の会

〒703 岡山市祇園地先旭川荘内  
0862-75-2119

#### 1. 発足当時の状況

発 足 昭和49年4月

会 員 28人

#### 2. 経 過

- 53年度から園児の定員増により会員が増加（定員30人→60人）
- 58年に定員減（60人→30人）

#### 3. 昭和62年度の状況

構成員 30人

会 長 深田文子

副会長 田中和子

- 事 業
- 機関誌の発行
  - 保護者の親睦会
  - 県・市育成会との連携
  - 学校の見学

予 算 40万円

### 3. 愛育寮保護者会

〒703 岡山市祇園地先旭川荘内  
0862-75-4644

#### 1. 発足当時の状況

昭和55年4月1日児童施設の旭川学園から年長児が分離独立する形で成人施設「愛育寮」が誕生し、それと同時に「保護者会」も発足した。

当時、児童施設での加齢化が進む中で、成人施設の設置は切実な願いであった。成人施設開設の準備が進められていると聞いた保護者はチャリティーバザーや社会への訴えなどを積極的に支援した。

開設時の入所は、荘外の施設や自宅からもあったが大半は旭川学園からの編入者で占められた。



保護者会の結成は旭川学園の親を中心に会則の起草など施設開設前に準備できた。

「この子らの幸のために、親として協力を惜まない」ことを誓い愛育寮保護者会はスタートしていた。

## 2. 経 過

保護者会活動を進めるに当っては、寮生の福祉向上・施設支援・保護者の互助・社会啓発に寄与することを基本とした。「我が子のために一緒に汗を流そう」を合言葉にして行動している。

成果の一部は次のとおりである。

(1) 奉仕活動—毎月定例日を定めて実施しており衣類の繕い・ペンキ塗り・ブロック積みなどの作業を行っており、毎回20～50人の参加があり親同士のコミュニケーションの場となっている。

(2) 研修活動—寮長や職員をまじえて施設への要望や福祉の問題について研修を行っている。保養地で一泊したり小集団で開いたりである。

(3) 社会活動—チャリティーバザーが最大のイベントである。昨年で通算5回実施し、売上は1千万円を越え収益は施設整備の資金とし一部は基金としている。社会の多くの理解と支援を得たことは大きな励みと勇気づけになった。

## 3. 昭和62年度の状況

状況

保護者会員 89人（施設の定員90人）

役員構成 会長・副会長・理事・監事  
14人（会長 福田 有）

予 算 240万円（内会費90万円）

事 業 奉仕活動・啓発活動・育成活動・社会活動など

保護者会結成以来7年が経過した。成人施設へ入所したことはこの子らの進む道の終わりではなく、終身の居所でもない。

この子らにとって生きがいのある暮らしとは何か、身辺自立から社会自立への道をどう拓くか、親の高令化と親亡き後の備えはできているかなど難しい課題が山積している。

## 4. わかば青年寮保護者会

〒703 岡山市祇園地先旭川荘内

0862-75-1626

### 1. 発足当時の状況

発 足 昭和53年10月1日

会 員 9人

会 長 今井和民

60年8月1日更迭（坪井清彦）

### 2. 昭和62年度の状況

構成員 30人

会 長 坪井清彦

副会長 今川秋野・磯野敏行

事 事 ・わかば通信の発行

・総会・役員会・定例会

・各種行事への参加

・関係団体との協力

・会員相互の親睦

予 算 38万円

## 5. あかしや園保護者会

〒703 岡山市祇園地先旭川荘内

0862-75-4645

### 1. 発足当時の状況

昭和34年、年令や地域等により旭川学園の入園資格からはずれた精神薄弱児の保護者からの強い要望により、自由契約施設として発足した。建物や設備をはじめ運営費すべては保護者の負担である。

最初2人が入園しその後入園児は年々増加し幼児舎・男子舎・女子舎等を増築し、指導内容等の充実も図り今日に及んでいる。

45年、大部分の生徒が成人に達したので全員個室の現園舎を完成した。この園舎建設を機に保護者会を組織し初代会長は児玉俊夫氏であった。会費は1人月額200円で親睦・慶弔等にあてたが、あかしや園の運営への協力が主な事業の内容であった。

### 2. 経 過

45年当時の会員は24人であった。

34年は3人・8人・13人・22人・26人と増え、40年には33人となり、以後は41・42年に出身県に13人が帰り、あらたに3人が入園して定着した。

あかしや園の保護者会の特色は園の運

営を全面的に支える点である。

- 鉄筋コンクリート2階建の男子寮，平屋建女子寮・ボイラー室，既存建物の改装等を含む現園舎の建築は大事業であった。建設特別委員会を設けて取り組み，総工費2,000万円で完成した。このことを契機に一段と組織は強くなり，職員との信頼関係は深まった。
- 日常活動では，毎月1回面会日を行い情報を交換しており，2年に1回程度親子1泊旅行を実施している。定期行事への参加も積極的に行って療育活動に協力している。
- 2回海外旅行を行った。第1回はハワイ旅行である。56年3月10日から15日まで6日間の旅であった。この旅行は，1981年の国際障害者年に企画された「ふれあいのハワイツアー」に参加したもので，生徒16人の他に保護者・ボランティア・職員・医師など合計54人であった。

第2回は韓国で李方女史及び大邱大学総長の招待に応えたものである。釜山から慶州・ソウルを歴訪し無事帰国した。2度の海外旅行は，入所者の生涯に大きな節目となると同時に親もまた大きな体験となった。

### 3. 昭和62年度の状況

本年度の会員は19人で出発したが，9月に1人が退園し現在18人である。役員は会長渡辺格・副会長万代袋泰・児玉愛子の各氏にお願いしている。

予 算 56,500円(会費月額1,000円)

事 業 総会・役員会・面会・関係団体共催  
会員親睦・育成補助・研修・その他

年金制度が改正され在宅対策がいわれているとき，本園はグループホームとして研究を続け，よりよい生活を築くことを求めて努力したいと考える。

## 6. 旭川児童院保護者会

〒703 岡山市祇園地先旭川荘内  
0862-75-1951

### 1. 発足当時の状況

- 旭川児童院保護者会は，旭川児童院へ入所している児童の保護者全員で構成されている。
- 重複した障害をもつ児童の親達は，施設に入所できない子どもを家庭で介護し苦勞され

ていた。42年4月久しく待望していた重症心身障害児施設旭川児童院が岡山市祇園地先旭川荘内に開設された。中・四国地方ではじめての施設である。

- 開設にあたっては，山陽新聞社が重症児対策の遅れと施設の必要性を大きくキャンペーンし，県愛育委員会・黒住教青年連盟等の各層が，募金活動など多大な支援をされた。
- 待ちかねていた18人が入所し10月1日全保護者59人で保護者会が結成された。会費月額500円ですべてが運営され，会員相互の連絡，施設側との連携が主に実施されていた。次第に会員が増加し，基盤も固まり行事等にも参加協力ができた。

### 2. 経 過

46年4月1日，保護者会と同じ構成で「岡山県重症心身障害児(者)を守る会」を結成し「全国重症心身障害児(者)を守る会」旭川児童院準支部として全国組織に加わる。

47年1月，会報「愛のともしび」を創刊し，以来今年第17号を発行した。

47年9月，最初の「重症児のためのチャリティーバザー」を実施し以来継続実施している。

48年5月10日，会員の強い要望もあって児童院内に特殊学級が設置されて義務教育が行われ，49年4月に県立養護学校派遣学級となり，56年4月から旭川分校となる。

48年夏，職員の不足と過勞から入院児者の長期夏休みに協力し，会として行政に陳情した。

50年7月，全国最初に在宅重症児の療育キャンプを施設と共催で実施，以来毎年数組の親子が数日宿泊し専門医から指導を受け，会員との懇談も好評である。

55年5月24・25日，「第17回重症心身障害児(者)を守る全国大会」を県総合福祉会館で開催した。400余人が参加。

61年12月6・7日，西日本ブロック会議を岡山市で開きその運営にあたった。

61年4月，念願の保護者共済会を発足させ，入会者の会費運用益で共済制度を始めた。

数年前から，年数回の施設側との幹部懇談会・全会員対象の地域別懇談会・個人懇談会・学習会等を行い積極的に協力して参加する。又，在宅の重症児者の福祉向上に努力している。



会員の老齢化による問題が派生している。

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 7月末現在231人

役員 会長 入江紹喜

副会長 佐藤恵美子・友野和夫

大原喜美子・三浦公幸

松本純子・山口郁子

理事 31人

監事 2人 計40人

事業(児童院行事) 子供祭り・夏祭り・クリスマス会・成人式

(旭川荘行事) 学習会・懇談会・奉仕活動

(守る会行事) 療育キャンプ・在宅児クリスマス会・バザー・会報「愛のともしび発行」

予算

ア・保護者会 3,720,601円

(支出内訳)

会議費 20,000円

行事費 600,000

慶弔費 500,000

需要費 500,000

旅費 200,000

負担費 125,000

雑費 275,601

予備費 1,500,000

イ・守る会 893,439円

(支出内訳)

会議費 10,000円

旅費 360,000

事業費 150,000

車輛維持費 200,000

その他 123,439

予備費 50,000

## 7. 岡山市精神薄弱者仲よし作業所親の会

〒700 岡山市昭和町6-26

0862-55-1252

### 1. 発足当時の状況

昭和46年から通所授産所を設けるよう市長を囲む会等で陳情を続けたが、なかなか実現できなかった。

養護学校を卒業したY君が、ある会社に勤めたが半年で解雇されるなど、就職のむずかしい

現実に親たちは立ち上がり、昭和47年3月13日、市福祉文化会館の一室で作業訓練クラブを開始した。現在の仲よし作業所の前身であり、保護者と指導する者とを親の会と言える。

クラブでは洗濯ばさみの組み立てをし、指導した親の会の人々は次のとおりであった。

小若和子・山中佐多子・岡本真理子・田宮静代・津尾英子・土居シズエ・杜 泰子・山本伸江・青江九四子・大森貞子・杉本彰子・吉田智恵子・平井章子・津田美都子・赤松章子・山本清子・中桐昌子・永汐節子・渡辺フサ子・槇野博子(20人)

### 2. 経過

作業所は、親の会のたゆまない協力によって漸次存在が明らかになってきた。

48年、訓練生は7人となり指導員に東山中学校退職の小松先生を迎えた。岡山市からは年額18万円の助成。

49年、訓練生は17人。

50年、指導員が植木先生となる。助成金は28万8,000円。

51年、助成金は31万6,000円。

52・53年は、国の通所援護事業の助成金70万円市助成金70万円で運営。

54年、200万円の助成金。市の予算で昭和町2-26に市精神薄弱者仲よし作業所を新設。

56年、助成金280万円下請工賃を含め532万円余の予算規模となる。通所生は21人となった。

57年4月、福祉文化会館仲よし作業所を開設。

60年5月に清輝橋仲よし作業所、9月に西大寺仲よし作業所が市の助成を受け開設された。

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 51人

昭和町仲よし作業所 16人

福祉文化会館 " 12

清輝橋 " 15

西大寺 " 8

会長 荒木朱美

副会長 宮本晟子・野々口斐子

行事

4月 保護者会(作業)

5 木下サーカス見学

8 納涼大会

10 運動会

- 11月 バス旅行（赤坂町）
  - 12 クリスマス会
  - 1 鏡開き
  - 3 総会・懇談会
- 予 算 183,600円（1人月300円）

## 8. こだま園保護者会

〒715 井原市高屋町4275-1  
08666-7-2940

### 1. 発足当時の状況

昭和50年に開設予定の「こだま園」の開園式は4月6日、落成式は4月22日、定員は入所30人通所20人、園生は10人。

50年度末で園生は21人（入所）となり、51年4月父母の会の発足となった。この時の役員は次のとおり。

会 長 西江五三男  
副会長 梅田福之・蔵内 寿  
幹 事 三宅常春  
監 事 中田輝夫・岡村秀子

保護者相互の連絡調整を図り、園生の福祉の向上に寄与することを目的とした。51年度末には会員28人となる。

### 2. 経 過

54年度から通所を廃止して入所50人に改め、会員もその年度末には46人となる。

57年度以降は園生50人・保護者49人（姉妹入所）の状況が続いている。

会則では、会費等1人36,000円である。

57年度から父母の会の名称を保護者と改め、入所者を園生と改めた。社会復帰・社会自立の合言葉は消えないが、入所の現在を仮住居とするのではなく正真正銘の人生であるから、その生活を充実させることを親として考えた。

54年11月に家庭と施設を結ぶ機関誌「こだま」創刊号を発刊する。

57年10月には市文化祭で不用品持ち寄りのチャリティーバザーを開催する。

家庭との結びつきを濃くするのは、年1回の運動会・春秋2回の行事への参加と盆・正月・5月連休の帰省である。帰省率は100パーセントである。

年に5回保護者園訪問日を設定して、保護者の面会・作業奉仕・懇談会を行う。

60年5月、開設10周年記念事業としてこだま園後援会を設立し会長小寺昌良・会員110人である。

園生は社会の奉仕を保護者は地域福祉の推進をするように努めねばならない。

### 3. 昭和62年度の状況

役 員 会 長 西江五三男  
副会長 梅田盛三・茂原登志子

事 業 ・会員の連携・親睦強化  
・園生の社会参加充実  
・職員の指導援助  
・授産事業・施設設備の助成  
・育成会各大会参加

予 算 2,087,305円

## 9. わかえの園母の会

〒706 玉野市宇野2-16-26  
0863-31-7864

### 1. 発足当時の状況

本園は、昭和45年ごろから心身障害児が週1回集まる訓練所として市社会福祉協議会内に設置されていた。48年10月、玉野市心身障害児通園事業「わかえの園」として正式に誕生した。

県下初の施設とあって試行錯誤が連続、園児が揃う時もまちまち、登園児がいない日もあるという状態であった。

1年過ぎて、毎日通園することが子供達に良い結果をもたらすことを母親に理解され、登園も増した。

50年2月、職員の働きかけもあって「わかえの園母の会」（通称わかえ会）が誕生した。当時会員17人・会長1人・副会長1人・会計2人・監査2人、会費月額300円で発足した。

開園5周年を記念して療育キャンプを企画し、一般市民の協力を呼びかけた大バザールを行うことになった。これを皮切りにして事業が充実している。

### 2. 経 過

#### ○ 療育キャンプ

第1回キャンプを58年5月に浜川海水浴場にて行う。母子分離2時間半、母親は研修会に参加、子供達はボランティアと海水浴を楽しむ。55年8月まで3年間続く。

#### ○ 母と子の1泊体験旅行



療育キャンプに代わり56年から1泊旅行が実施され、現在まで7年間継続中である。園内では見られない一面が母子・職員ともに表れ、交流を深めるのに大きく役立っている。その年の卒園児も参加するので、成長ぶりが伺えて非常に楽しい。

・ 母親学習会

講師による「講演会」は55年から59年まで4回行い、「行政担当者を囲む会」は福祉の身近な諸制度の説明を聞く座談会で60年から現在まで続けている。

・ 同窓会・卒園児母との交流会

58年10月、開園10周年記念式典終了後、はじめての同窓会を行う。借りた部屋が狭かったが逆に良いムードを出し大盛会で終わる。

卒園児母の強い希望で60年12月には自由参加による卒園児母との交流会を昼食をしながら旧交を温める。

その他、恒例の事業として施設・学校の見学、他園との交流会を実施している。

以上の事業を進める運営費用を賄うため、次のようなものがある。

・ ミニバザー（年1回不用品交換会）・婦人雑誌予約販売（年末に新年号の予約販売）・古紙回収（通園時に不用のものを持ち寄る）・味付のり・佃煮・手作り品などの販売。

3. 昭和62年度の状況

4月 総会。会員15人により役員選出（会長1人・副会長1人・会計2人）会費月額1,000円旅行積立1,000円、会長は市手をつなぐ親の会幼児部会の役員となる。

10 母と子の1泊体験旅行

11 行政担当者を囲む会

11～12月 婦人雑誌予約販売

2 ミニバザー

63年は開園15周年を迎えるので園と協力して過去15年間の卒園児(約150人)を招いて大同窓会を予定。

10. ときわ学園保護者会

〒714 笠岡市有田1778

08656-6-3605

1. 発足当時の状況

昭和56年5月1日精神薄弱者更生施設ときわ学園が、社会福祉法人敬業会で笠岡市有田に開設された。

当初は30人の入所者であり、出身地が県南・西北の広い地域に亘っていたため、保護者の意思疎通が十分行われなかった。

大森申二・津下猛・亀岡初士・大島豊紀・鈴木英門・中藤保章7人の保護者が発起人となり保護者会の設立を企画した。

56年8月9日設立総会を開き保護者会を発足させた。当時の構成員は、学園入所者の保護者26人であった。

会の目的は入所者の福祉向上と会員相互の親睦を図り施設に協力することである。毎年のチャリティーバザ収益は入所者の慰安娯楽的行事・処遇向上の資金に充当。

2. 経過

・ 広報事業の開始

設立2年目に入り会員数45人に増加する。この年から広報事業を始めて機関紙「ときわ通信」500部を年3回発行し、広く入所者の生活・訓練の状況を広報することに努めてきた。

・ 施設での生活体験

57年は保護者が学園に1泊して入所者と共に生活して作業の体験を行った。2人の保護者が1組となって平常の日課に従った。

・ 研修への参加

毎年県育成会主催の大会・研修会へは2人ずつ交代で出席する。

・ バザール

毎年11月上旬の3日間市民文化祭に併せて笠岡市民会館で催している。

・ 入所者の慰安

毎年3回の入所者一時帰宅の期間内に、帰宅できない10人前後の者の1日遠足等を行う。

・ 法人後援会設立に協力

62年には敬業会后援会の設立に協力した。

3. 昭和62年度の状況

構成会員 46人

会 長 大森申二

副会長 亀岡初士

- 事 業
- ・ 会員募集
  - ・ 機関紙の発行（年3回）
  - ・ 県育成会の大会・研修会参加（2・3人の派遣）
  - ・ バザールの開催（11月上旬・3日間）
  - ・ 1泊旅行費の助成・帰宅しない人の遠足等経費の助成
  - ・ 施設への協力

予 算 1,465,000円

### 11. 玉島保育園つくしの会

〒713 倉敷市長尾1987-1

08652-2329

#### 1. 発足当時の状況

玉島保育園に障害児保育がはじまって1年が経過した昭和52年8月、親たち（発起人草地貞男）が集まり日頃の悩みを話し合う機会を持った。これを期に親の会結成が進み53年4月「玉島保育園つくしの会」が発足した。当初会員9人で卒園後親子の仲間が手を結び合うことでスタートした。親たちは不安定な日々を送っていたのが、仲間として一層団結を固くした。

発足時は会費1人年1,000円、又毎月の定例会には資金作りのための廃品回収に精を出した。

親の勉強会・夏の親子合宿・冬の雪遊び・ハイキング等親子で楽しめる行事を計画した。

#### 2. 経 過

- 52. 7 親子親睦会
- 53. 4 玉島保育園つくしの会発足
- 7 親子合宿（1泊2日・沙美）
- 11 講演会
- 54. 2 雪遊び（野原）
- 4 第2回つくしの会総会
- 5 ハイキング
- 8 親子合宿（1泊2日・沙美）
- 10 講演会
- 11 ミカンがり・視察（養護学校）
- 55. 2 雪遊び（野原）
- 56～58 前年と同事業
- 59.11 つくし祭（新事業）
- 60～62 前年と同事業
- 62. 8 つくしの会10周年親子合宿（富村野登

呂原キャンプ場）

62.11 つくしの会10周年つくし祭  
＜毎年新聞又は文集を発行し情報交換と親睦を深めてきた。＞



— 親子合宿（海水浴） —

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 22人

役 員 会 長 草地貞男

副会長 白神久栄

事 業 ・ 第10回総会

・ 定例会（勉強会）

・ 10周年親子キャンプ

・ つくし祭・講演会・バザー・ハイキング・雪遊び

予 算 136,400円

（内）会 費 26,400円（1人年1,200円）

助成金 100,000 （地域育成会・ふれあい基金）

雑 入 10,000 （廃品回収・バザー）

### 12. 総社学園 P T A

〒719-11 総社市井手999

08669-2-2384

#### 1. 発足当時の状況

市手をつなぐ親の会や市民の要望により昭和44年4月総社学園開園。当時希望していたが年齢制限によって入園できなかった者もあった。

翌月、岩城良雄氏外14人で総社学園 P T A として発足する。

#### 2. 経 過

当初、中学校卒業後17才までの児童の生活・職業指導が主目的であった。

45年頃から小中学生が急増、教員の派遣及び運動場の拡張を要望する。

48年頃から幼児が増加傾向となり、指導室の



増築も要望する。

54年4月、養護学校の義務制が実施されたが、従来通り福祉と教育両サイドから運営されている。

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 48人

役員 会長 柏野淑子

副会長 上野省三・川西福恵

河野弘光

事業

- ・体育館（集会室）の建設・運動場の拡張等学園の整備充実を促進する。
- ・学園の各種行事に参加協力する。
- ・育成会大会等へ積極的に参加する。

予算 36万円余

## 13. 津山ひかり学園親の会

〒708 津山市川崎1058

0868-26-1091

### 1. 発足当時の状況

昭和36年3月1日に県北最初の施設である精神薄弱児施設「津山ひかり学園」は定員40人で開園した。

県内には県南のみに弘徳学園・県立福祉センター・旭川学園・笠岡学園（通所）があった。

津山市内に31年度に特殊学級が開設されて以来、市社会福祉協議会は県北1市5郡社協に協力を求めて、津山市東部の丘陵に建設されたのが津山ひかり学園である。

保護者会は、施設建設のこともあって、結成できずに数年間が過ぎていた。

39年度定員50人、43年度定員80人となり、43年4月に津山ひかり学園親の会を結成し、会長に床登喜男が就任し、46年4月からは三木茂保が就任する。

事業内容は学園の行事（運動会・遠足・広報）の一部補助である。

予算は会費月額200円総額50万円程度。

### 2. 経過

51年4月から施設内児童の教育は、県立養護学校に移管されて充実が図られた。

県内各所に成人施設が増設されたこともあって、51年7月、保護者が中心に学園職員・地域賛助者の協力を得て、津山ひかり学園育成事業

会（会長・三木茂保）を結成した。この働きがあって更生施設が開所した。

53年 3月 通勤寮の建設（20人）

54・ 3 更生施設の建設（90人）

56・10 学校用地購入（1,600㎡）

59・ 3 児童施設の改築（60人）

61・ 3 作業棟用地購入（5,000㎡）

62・ 8 作業棟建設（170㎡）

〃・ 9 ソーラー設備設置

63・ 1 生活ホーム建設（6人）

### 3. 昭和62年度の状況

会員 140人

役員 会長 三木茂保

副会長 水島佑夫・西野玲子

その他 12人

予算 1,500万円

（内年間施設整備助成額1,200万円）

## 14. 津山みのり学園父母の会

〒708 津山市二宮999

0868-28-0522

### 1. 発足当時の状況

38年 8月 津山市精神薄弱者父母の会結成  
会長山口弥三郎・会員130人

39・ 6 会員により募金活動を始める。

・10 土地購入、会員により土地開墾

40・ 3 本館建築される。

・ 6 開園となる。

・ 7 後援会発足、募金活動を始める。

41・ 9 自動車損害賠償保険の業務を開始。

45・ 2 学園祭に協力。

・ 8 宿舎完成。

47・10 父母の会の機関誌「みのり」発行。

48・ 4 駐車場（桜まつり）運営管理。

51・ 6 父母の家を建設（プレハブ造）。

59・ 8 父母の家解体し作業棟とする。

・11 20周年記念会館を建設。

60・ 2 20周年記念館を学園に寄贈。

### 2. 経過

・ 父母の会活動

開園当時、毎日曜日会員は弁当持参で学園の作業に参加し、土地開墾や豚舎・鶏舎・牛舎等の建築をする。

43年頃から月2回の作業参加。

48年頃から月1回の作業参加。

「園生のできない分を親・家族がする」考え方で積極的に学園の整備に協力。

○ 金堀分場の整備

52年8月から国有林の払い下げを受け、松林の伐採・開墾や畑地造成など(5ヘクタール)約5年間(月2回程度の労力)を費やし分場の竣工をみる。

○ 越畑分場の整備

金堀分場の整備と並行し越畑の雑木林を伐採し、桧の50アール植林管理(下刈り・枝打ち)及びりんご園の整備を行う。

○ 山林の管理

植林の手入を年間計画に基づき行う。鎌などを持ったことのない母親も今は上手に鎌が使えるようになった。

○ 園内作業に協力

毎年5月には農耕班の夏野菜苗出荷手伝い(8万本)、7月にはぶどうの袋かけ・栗園の草刈り等の協力をする。園内の土木工事は素人とは思えぬ作業ぶりである。

○ 事業収入の諸活動

毎年さくら祭りの協賛で駐車場を設営したり、知人から頼まれ古家の解体をしたこともある。年2回バザー・古切手集め。

○ 共済会制度を創設

54年8月から共済制度を設け入所園生の共済と学園整備資金の積立。

3. 昭和62年度の状況

構成員 150人

役員 会長 池上誠治

副会長 綱島義隆・田中頼一

弥元孝行・山口加寿子

谷口昭三

事業

4月 さくらまつり臨時駐車場設営

6 父母の会総会

8・9 県育成会・全国育成会の大会参加

10 運動会参加と協力

11 優良施設見学とみのり祭参加協力

12 クリスマス会

2 研修会

その他。5・7・8・12・1・3月は学園の作業参加

○ 火災保険等の業務・簡易保険料の  
集金

予 算 8,190,107円

(収入) (支出)

会 費 5,610,000円 学園助成 5,000,000円

事業収入 2,378,450 研修福祉 850,000

雑収入他 201,657 職員助成 1,400,000

負担金他 940,000

15. あおば園保護者会

〒700 岡山市平田407

社会福祉センター更生課 0862-43-1771

1. 発足当時の状況

○ 昭和48年4月1日、県立総合社会福祉センター発足に伴い、保護者会も「備南荘保護者会」を継承し「あおば園保護者会」と改めた。

構成員46人でスタート、同年8月1日重度棟設置に伴い構成員104人となる。

初代会長に松田金蔵氏を選任する。

○ 事業

・ 会員学習会(月1回)

・ 保護者研修会への参加

・ センター行事への協力・参加

(運動会・親子遠足など)

○ 予 算

374,000円

2. 経 過

48年8月

会員の増加に伴って組織を改めた。

49・1

専門的知識と療育の実際を習得するため、他施設の見学や保護者会員相互の交流を盛んにする。

57・4

センター管理の農園が増加したので、この管理に積極的に協力し月1回の奉仕作業を実施することになる。

3. 昭和62年度の状況

構成員 94人

役員 顧問1人・会長1人・副会長2人・理事8人・監事2人

事業 春季家庭実習・保護者総会・宿泊訓練・ミニ運動会・盆おどり大会・夏季家庭実習・ガーデンパーティー・



作業奉仕・いも掘・勉強会・短期家庭実習・センター祭(バザー)・もちつき大会・冬季家庭実習・研修親睦旅行・会員研修会

予 算 630,000円

(収入)	(支出)
会 費 564,000円	事務費 165,300円
(1人年6,000円)	事業費 424,000
雑収入 15,175	予備費 40,700
繰越金 50,825	

## 16. わかくさ園保護者会

〒700 岡山市平田407  
社会福祉センター育成課 0862-43-1771

### 1. 発足当時の状況

県立総合社会福祉センター福祉第2部育成課(わかくさ園)が昭和48年に27年設立の県立由加学園を改組し移転するに伴い「由加学園保護者会」を継承し「わかくさ園保護者会」と名称を変更した。

構成員39人でスタートするが同年8月重度棟設置に伴い、構成員49人となる。

初代会長に三宅氏が選任される。

#### ・ 事業

- ・ 総会の開催
- ・ 親子遠足の実施(年2回)
- ・ センター行事への参加
- ・ 学校行事の協力参加

#### ・ 予 算

176,400円

### 2. 経 過

48年8月

会員の増加に伴い組織の強化を図る。  
会員相互の連絡・研修等を計画する。

54年4月

現在の会長坪川氏が選任される。

センター行事への参加に加えてチャリティーバザー実施へと発展させ、毎年11月には福祉センター祭に店を出し、収益金を活動資金の一助にするなどして活動体制がととのってきた。

58年4月

保護者が寮舎内宿泊研修を実施することによって、児童の生活実態を知り施設の指導と



—福祉センター祭—

一貫性をもって週末帰宅の児童を不安なく受け入れることができるようになる。

週末帰宅の児童に公共交通機関を利用させ、単独帰宅を可能にし社会性を育てるのに大きく役立っている。

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 48人

役員 顧問 若干名 会長 1人  
副会長 2名 監事 若干名

事業 総会の開催・親子遠足の実施・盆おどり大会参加・奉仕活動・各種研修会の参加・センター運動会参加・センター祭バザー開設・クリスマス会実施・寮内宿泊研修会

予 算 603,948円

(収入)	(支出)
会 費 270,000円	事務費 65,500円
雑収入 140,000	事業費 409,500
繰越金 193,948	運営費 75,000
	予算費 53,948

## 17. 弘徳学園保護者会

〒703 岡山市赤坂南新町6-1  
0862-72-0625

### 1. 発足当時の状況

弘徳学園保護者会は、現園長の呼び掛けで昭和48年3月26日に発足した。

構成員70人であったが、月1回の面会や会費月300円の納入が思わしくなかったため、年1回の運動会と帰省時には必ず来園するよう呼びかけていた。

54年1月に痛ましい事件があり、これを機に悩みを打ち明ける場を7月に設けることができた。

## 2. 経 過

- 55年3月、重度の子どもをもつ保護者から住みなれた場所に成人施設を設ける要望があった。
- 資金集めは東京浅草のホオズキ市をヒントに、家でホオズキを栽培し、8月に歩行者天国にホオズキ市を出店した。
- 12月には、チャリティーバザーを天満屋で開いた。
- 1年たち2年たつと行事への参加がふえ、家族あげての協力ができた。
- 59年4月、待望の成人施設が開設できた。

## 3. 昭和62年度の状況

構成員 85人

役員 会長 角南和子

副会長 福沢保子(児)・末広輝子(成)

その他 11人

### 事業

4月	参観日	10月	参観日
5	親子旅行	11	文化祭
6	卒業奉仕	12	クリスマス会
7	参観日		チャリティーバザー
8	作業奉仕	1	研修会
	ホオズキ市	2	参観日
9	運動会	3	総会

予 算 100万円

(親子旅行・育成会大会・研修会等の旅費助成)

その他 児童・成人施設ともに課題が山積しているが、保護者会が一つであるので一体としての協力を強めたい。

## 18. 旭川学園保護者会

〒703 岡山市祇園地先旭川荘内  
0862-75-4647

### 1. 発足当時の状況

昭和 35年 5月 発足

初代会長 横田文太郎

### 2. 経 過

- 42年7月 会長交替 正保美子
- 47 組織の再編成
- 48 ペギー葉山ショーを開き成人施設設置のステップとする。
- 49 ・成人施設「いずみ寮」の建設が終わ

り「親なきあとの保障」ができた。

- ・面会日・参観日を設ける。
- ・親子合同行事の実施
- ・奉仕の実施

51 全員就学を陳情

52 チャリティーバザー(天満屋レインボー広場)

53 八代亜紀ショー(岡山市民会館)

55 成人施設「愛育寮」が分離

57 国際障害者年に当り地域交流開始学園祭(11月22日)にバザー実施

58 山本譲二ショー

60 旭川荘保護者会等連絡協議会発足

## 3. 昭和62年度の状況

構成員 100人

役員 会長 松田 基

副会長 福永 正・中野隆賀

理事 10人

監事 2人

顧問 1人

### 事業

- (1) 研修活動 施設研究協議会・育成会大会参加
- (2) 育成活動 旭川荘行事参加
- (3) 奉会活動 奉仕日を年3回(環境整備)
- (4) 社会活動 機関紙年3回発行・「山びこ店」に作品出品

予 算 1,125,000円

(収入)

(支出)

会 費 850,000円 負 担 55,000円

寄 付 15,000 会 議 10,000

事業収入 100,000 育 成 600,000

雑 収 入 4,239 印 刷 20,000

繰 越 155,761 通 信 20,000

慶 弔 150,000

研 修 80,000

活 動 20,000

事 務 10,000

雑 費 60,000

予 備 100,000



## 19. 番田同舟の園保護者会

〒706-04 玉野市番田1103  
08636-6-5179

### 1. 発足当時の状況

- 目的 特殊学級・養護学校を終えた在宅精神薄弱者の健全育成を図ることを目ざす同舟の園に協力する。

(同舟の園は合田佳三郎氏が、自宅66㎡を開放し農園2,310㎡を提供し開設する。)

- 発起人 合田恭子(精神薄弱者相談員)
- 発 足 昭和54年4月1日
- 構成員 会 長 合田佳三郎  
副会長 東郷禎子(園長)  
合田恭子(指導員)

- 事 業 重度・中軽度障害者(8人)を対象とし、ピンチホルダー組み立て・農耕・調理・生花・手芸等を課程としている。

### 2. 経 過

- 55年 4月 県育成会・玉野市社会福祉事務所から助成金20万円  
県育成会坂本専務理事を招き発会式
- 56・ 4 通所援護事業助成金70万円  
11 園生送迎用車輜を購入し遠隔地からの入園者の送迎を開始
- 57・ 1 玉野市玉5町目、立石強氏宅へ分室を設置
- 58・ 3 プレハブ作業所(66㎡)増設  
4 玉野市立玉授産所の開設に伴い分室の園生はそれに移る。  
8 設立者合田佳三郎氏死去
- 60・ 4 市から助成金71万3千円
- 62・ 4 市から助成金142万5千円  
作業場をプレハブへ移す



— 誕 生 日 会 —

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 10人

役 員 会 長 合田 恭子

副会長 土手都美子

- 事 業 ◦ 園の作業であるピンチホルダー組立て・箱折り・木の葉のブローチ・牛乳パックの再生などに協力する。  
◦ 春秋の親子遠足を行ったり、秋の運動会に参加する。

予 算 必要によっては集金

## 20. 笠岡学園愛護の会

〒714 笠岡市金浦746  
08656-6-0844

### 1. 発足当時の状況

昭和34年8月、精神薄弱児通園施設笠岡学園が設置された。療育が行われる中で施設と保護者が連携する必要が生じ、41年6月から準備委員で協議を重ね、7月9日に愛護の会結成総会が開かれた。

会 長 山本 惟

副会長 居山十治郎

構成員 28人

予 算 会費月200円

年間予算 22,084円

### 事 業

- 学園と家庭との連絡に関する事業
- 会員の研修・親睦に関する事業
- 児童福祉の増進に関する事業
- 学園の施設整備充実に関する事業
- 保護者の特技・特能の提供に関する事業

### 2. 経 過

- 43年、園舎移転のため元病院の改造が行われる。移転作業に保護者全員で労力奉仕。
- 45年～49年、授産場設置のため先進地視察。陳情活動を展開。50年11月、通所授産場が開設。
- 57年6月、クリーニング工場が設置され、この作業に保護者全員が輪番で奉仕。
- 保護者の参加する行事
  - ア 親子遠足(海水浴)への参加(7月)
  - イ 親子合宿訓練への参加(9月)
  - ウ 学園祭りへの参加、模擬店・バザーの実

施(10月)

- オ 餅つき大会の実施(2月)
- カ 生活発表会への保護者出演
- キ 保護者研修の実施(施設見学・講演参加)
- ク 授産場親子作業への参加
- 施設整備のための活動
  - ア 草刈り奉仕・環境整備作業
  - イ 施設整備資金活動(硬貨募金・積立金の実施)



— 作業参加<園生とともに> —

### 3. 昭和62年度の状況

- 構成員 園児15人・訓練生32人の保護者計47人
- 役員 会長 山本智恵子  
副会長 高田峯子・森 時子
- 事業
- 4月 役員会
  - 5 総会・野外生活指導大会
  - 6 役員会・施設見学(あかつき授産所)  
笠岡手をつなぐ親の会総会
  - 7 臨時保護者会・白石島親子海水浴
  - 8 県大会(井原)参加
  - 9 親子合宿訓練・保護者会・全国大会参加
  - 10 学園まつり・バザー・仲良し運動会
  - 11 笠岡市文化祭協賛作品展出品
  - 1 保護者会・餅つき大会
  - 2 生活指導発表大会
  - 3 生活発表会・役員会

### 21. みどり授産センター

〒703 岡山市祇園地先旭川荘内  
0862-75-2119

#### 1. 発足当時の状況

発 足 昭和59年4月1日

会 員 15人

会 長 田 潤 守

#### 2. 昭和62年度の状況

構成員 20人

会 長 田 潤 守

副会長 殿畑勝子

- 事業
- ・ 関係団体へ協力(育成会・愛護)
  - ・ 行事参加と奉仕(センター)
  - ・ 各種バザーへの協力
  - ・ 会員の研修と親睦
  - ・ 慶弔

予 算 380,000円

### 22. 吉備の里保護者会

709-23 御津郡加茂川町上野2320-10

吉備の里業務第一課内 08673-4-1521

#### 1. 発足当時の状況

- 社会福祉法人吉備の里は、吉備高原都市に心身に障害のある者が社会復帰をめざすことを目的として57年3月19日身体障害者授産施設及び精神薄弱者授産施設を設立、58年4月1日から事業を開始する。
- 吉備の里保護者会は、精神薄弱者授産施設の保護者又は身元引受人を正会員、会の趣旨に賛同するものを特別会員として発足した。

発起人 庭田立一・野山忠男・平田勉  
山下正己・浦上有二・大塚亨

発 足 59年4月1日

- 事業
- ・ 所生の育成指導上の研究
  - ・ 所生の慰安激励上必要な援護
  - ・ 会員相互の研修及び退所後における必要な援助

構成員 正会員50人・特別会員12人

会 費 正会員月1,000円

#### 2. 経 費

59年4月 7日 保護者総会(吉備の里)

6・3 吉備の里むら祭(吉備の里)

9・2 育成会岡山大会参加(津山市)

〃・7 育成会中国大会参加(宇部市)

10・11 育成会全国大会参加(盛岡市)

60・3・24 保護者総会(吉備の里)

6・2 吉備の里むら祭(吉備の里)

9・20 育成会県大会・中国大会参加(岡山市)



- 60年11月14日 育成会全国大会参加(神戸市)
- 61・3・31 保護者総会(吉備の里)
- 6・1 吉備の里むら祭(吉備の里)
- 8・30 育成会県大会参加(倉敷市)
- 9・26 コロニー雲仙視察(長崎県)
- 10・3 育成会中国大会参加(広島市)
- 11・24 施設職員との懇親会(岡山市)
- 〃・25 育成会全国大会参加(東京都)
- 62・3・15 保護者総会(吉備の里)
- 6・7 吉備の里むら祭(吉備の里)
- 8・2 施設職員との懇親会(岡山市)

- 61年2月2日から福祉工場設立のため10数会の会合を行う。
- 第3日曜日を面会の日定め、作業奉仕と入所生・施設職員との親睦を計っている。

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 正会員(保護者) 49人  
特別会員(施設職員) 14人

役員 会長 大江正海  
副会長 森本 勇

- 事業
- ・吉備の里むら祭参加
  - ・育成会岡山大会参加
  - ・育成会中国大会参加
  - ・育成会全国大会参加
  - ・吉備の里運動会
  - ・施設職員との懇親会
  - ・所生との野外パーティー
  - ・先進施設視察
  - ・福祉工場設立研修
  - ・保護者総会

予算 601,725円

(収入)	(支出)
会費 588,000円	事務費 52,000円
雑収入 7,659	事業費 540,500
繰越金 6,066	予備費 9,225

### 23. 神郷の園保護者会

〒719-36 阿哲郡神郷町下神代1955  
08679-2-6311

#### 1. 発足当時の状況

発足 昭和60年4月10日  
構成員 33人(現在43人)  
事業 毎月1回施設整備のための作業  
経費 予算額792,000円

発起人及び会長 床登喜男

#### 2. 経過

- 61年度、農地5反を開墾  
父母の家(父母の休憩所・園生の作業・喫茶室・講堂等に使用)を建設。  
施設周辺の整備はほとんど保護者が行う。
- 62年度、施設林3町歩を営林署から借り受けて杉・松・桧・きはだ・楡等を植樹。

#### 3. 昭和62年度の状況

会員 46人

役員 会長 床登喜男  
副会長 小松友市

事業 作業日(毎月第3日曜日)

見学旅行・盆踊(地域と連携)・県・全国大会参加・講演会・親子旅行

予算 1,384,196円

(支出内訳)

園生指導助成費	300,000円
研修費	450,000
運動会費	120,000
職員研修補助費	150,000
事務費	50,000
会議費	10,000
負担金	154,000
慶弔費	50,000
予備費	100,196

### 24. 玉野市立玉授産所保護者会

〒706 玉野市玉6-8-4  
0863-31-7571

#### 1. 発足当時の状況

玉野市立玉授産所は、昭和58年4月定員10人、年間予算240万円で数少ない公立精神薄弱者通所施設として開所した。市が福祉都市の指定を受けた記念事業として作られたが、「総論賛成、各論反対」があり町内会長・市議会議員有志・市当局の努力のすえ建設され親達の喜びは一しおであった。

入所生8人(18歳~45歳)は長年特殊学級担任をされた指導員T先生の指導により流れ作業のピンチホルダー製作とT工業の厚意で学生服手加工に挑戦した。

初めのうちは先生と教職経験豊かなボランティアの応援を得て、親子で学ぶ日が続いた。

月1回の参観日には喜んで出席したが、会費を集め親の会で行事計画をするまでに至らなかった。(保護者会は開所と共に発足。)

## 2. 経 過

常時8人以上の所生に養護学校実習生が親子で加わり箱折りも始め所内は活気と笑い声で一ぱい。

T先生は授産所の理解とピンチホルダー頒布に努めて多大の協力を得たが、品質がよいとは言え市価より高い頒布は親として心苦しい。

60年、T先生退任、Y先生続いて現在のI先生就任。

紙粘土のかわいらしいブローチを作り所生自身で販売をしたことは、新しい励みとなり作業意欲が高められた。

社会福祉協議会から依頼される市民行事(こども祭り・餅つき等)の手伝いをさせてもらったことは、日常の作業とは異なる楽しみになったようで大変嬉しかった。

一方、月1回の参観は軌道にのった安心感と家庭事情で流会になることが多かったが、親子研修の時に、県育成会や市手親会の活動状況を話したうえ、おくれればながら61年県育成会に入会し会費拠出を申し合わせた。



— 学生服加工 —

## 3. 昭和62年度の状況

構成員 9人

会 長 松岡正博

予 算 会費1万・山陽新聞ふれあい基金8万・授産所会計15万・一般寄付3万計27万。

事 業 作業一箸袋入れ・ミシン技術習得を追加。

所外指導—社会見学・食事マナー実習・同舟の園と交歓遠足・市及び手

親会行事への参加手伝い。

## 今後の課題

作業内容の選択、製作した品の販売等これからも先生に苦勞をおかけするだろう。

「他力本願ではいけない」とは、どの親の大会でも諭されることだが、親の高令化と生活に追われることが現実にあると、親だけでできないこともあるだろう。心技共に所生を鍛えてくださる愛情豊かなボランティアの協力は授産所運営に欠かせない。

## 25. ほほえみ授産センター保護者会

〒719-02 浅口郡鴨方町小坂東5030-424  
086544-6257

### 1. 発足当時の状況

昭和61年4月3日、13人の保護者を対象に代表松田金蔵氏の主唱で保護者懇談会を開催し、保護者会の設立準備について打合わせる。

5月18日保護者会総会を開催、会則の制定・役員を選出をした。理事3人・監事2人で暫定的に1年任期で発足、初代会長に松田金蔵氏が選出される。

事業は・敬業会事業の支援と広報に協力・通所生の慰安激励・畑作業の労働奉仕による農作物の生産と販売・会員の親睦。

経費は収入として会費1人月2,000円、寄付金・事業収入等合計480,000円を見込んだ。

### 2. 経 過

・ 保護者の参観・懇談会によって会員相互の結束をはかってきた。

・ 作業奉仕によってさつま芋の管理・収穫にあたってきた。

### 3. 昭和62年度の状況

25人の入所者の保護者25人で構成し、理事5人監事2人で運営する。会長に松田金蔵氏が再選される。

本年度の事業計画は昨年度と同じであるが、今年度新しい事業としてチャリティーバザーを実施する予定である。

予算は会費収入増で709,846円(遠足・通所自動車燃料費助成増額)



26. 閑谷学園保護者会

〒709-04 和気郡和気町日笠下1613-5  
0869-92-1155

1. 発足当時の状況

発 足 昭和62年4月1日

会 員 27人

会 長 妹尾耕作

2. 昭和62年度の状況

構成員 40人

会 長 妹尾耕作

副会長 川手辰夫・広瀬 等

事 業 ・各種大会・研修会への参加  
・育成活動（園事業の後援・助成）  
・奉仕活動（園の環境整備）

予 算 966,000円

#### (4) 養護学校 P T A

(62年度末現在)

番号	会 員	〒	所 在 地	電 話	代 表 者	構 成 員	設 置 年 度
1	誕生寺養護学校 P T A	709-36	久米郡久米南町山ノ城 110-2	08672-8-2321	草地 貞男	168	46
2	岡山西養護学校 "	700	岡山市田中579	0862-43-4535	坪川 信一	165	54
3	西備養護学校 "	714	笠岡市東大戸5075-1	08656-3-1603	藤原寿美恵	75	56
4	岡山大学教育学部 附属養護学校 P T A	703	岡山市平井3丁目914	0862-77-7431	太田ミドリ	85	40
5	倉敷養護学校 "	710	倉敷市玉島1-1-39 藤井敬子宅	0865-2-6050	藤井 敬子	(140) 再掲	39
6	東備養護学校 "	705	備前市福田637	0869-64-8502	平松 温子	85	60

##### 1. 誕生寺養護学校 P T A

〒709-36 久米郡久米南町山ノ城110-2  
08672-8-2322

##### 1. 発足当時の状況

- 46.4.1 岡山県立誕生寺養護学校開校
- 6.21 P T A 結成準備委員会開催
- 7.4 P T A 結成総会、初代会長に神谷明佳氏を選任、会員数122人(保護者90人・教職員32人)

##### 2. 経 過

- 47.2.22 保護者会で、中学部を卒業してもあとが不安で専攻科か補習科が望まれて高等部設置運動へと発展する。  
P T A 臨時総会を開催。高等部設置運動特別委員会を設ける。
- 6.2 大阪府立高槻養護学校を見学。
- 7.15 高等部設置について県議会・県教育委員会・県知事等へ陳情する。

- 。現在までに県教委へ施設設備の要望を次のとおり行う。

- ア 工作室・木工室の施設
- イ 粘土工芸室・作業室・乾燥場
- ウ 縫製実習室
- エ 編物実習室
- オ 音楽室
- カ 温室・園芸コース用の温室
- キ 園芸用倉庫の設置
- ク 寄宿舎(高等部生徒用)の完備

##### 3. 昭和62年度の状況

構成員 276人(保護者164人教職員112人)

会 長 草地貞男

副会長 万代邦子・林 恒子・小倉照美

##### 事 業

- 4月 P T A 役員会
  - 5 P T A 総会・地域交流
  - 6 研修会・役員会
  - 8 親子の集い・環境整備作業
  - 9 P T A 役員会
  - 10 運動会・研修視察・育成会大会参加  
(全国・中国・県)
  - 11 同和研修会
  - 12 役員会
  - 2 バザー
  - 3 役員会
- 予 算 2,250,000円

##### 2. 岡山西養護学校本校教室 P T A

〒700 岡山市田中579  
0862-43-4535

##### 1. 発足当時の状況

- 。初代校長本多信玄氏の呼びかけにより昭和54年5月7日に結成し、構成員は保護者120人及び教職員55人が会員となった。
- 。会費は月額200円。事業は事業部を3部会に分け、会員はそれぞれの部に所属し活動した。



- 総務部 関係団体との協調  
 会員相互の研修・親睦の計画実施
- 文化部 会員相互のための機関紙等の発行  
 学校諸行事への協力
- 厚生部 児童・生徒の生活指導  
 教育環境の改善・整備・充実

## 2. 経過

- 57年、総務部を広報部に改め機関紙を発行することにし、会員相互の研修や親睦については文化部が行うことになった。
- 57年、会費を月額300円とする。  
 機関紙「にしよう」は学期ごとに発行し、号外等を含めて21号を数え次第に内容を充実させた。
- 文化部は趣味の会・研修会・学習会等を開き、保護者は喜んで参加している。
- 厚生部は活動資金作りのため友愛バザー・廃品回収等を行う。
- 秋に親子・教師全員でバス1日旅行をする。
- 61年、開校10周年記念として総合遊具設置に協力する。

## 3. 昭和62年度の状況

会 員 299人(保護者216人・教職員83人)

役 員 会 長 田中敏子

副会長 馬場和子・藤原愛子

木村愛子

### 事業

- 広報部—「にしよう新聞」発行
- 文化部—研修視察・学習会・趣味の会・親子遠足
- 厚生部—廃品回収・バザー・物品販売

予 算 1,667,036円

(収入)

会 費 1,076,400円 雑収入 30,000円

繰越金 290,636

(支出)

会議費 30,000円 研修費 25,000円

旅 費 50,000 渉外費 110,000

行事費 450,000 需要費 250,000

通信費 60,000 負担費 100,000

慶弔費 230,000 部会費 45,000

予備費 92,036

## 3. 西備養護学校PTA

〒714 笠岡市東大戸5075-1

08656-4-1603

### 1. 発足当時の状況

本校PTAは、初代校長吉田三郎氏の要請により、昭和56年5月20日開校式当日、第1回PTA総会に西備養護学校保護者と先生の会会則の決定がなされ、初代PTA会長に小山晃氏が選出される。

構成員は教職員及び保護者を合わせて86人で、PTA会費は1人月300円によって運営される。

### 2. 経過

- 開校と同時に発足したPTAは、当面、学校の環境作りに重点を置いて出発した。地域社会に根ざした学校・地域社会に理解される学校・地域社会に愛される学校をスローガンに、学校内の設備補充・整地等を重点に、教職員・保護者の作業が活動の中心となった。
- 開校から3年間は学校環境の整備作業が中心であった。57年度における校内周辺の植樹作業、なお58年度における山地開拓及び養護・訓練コースの完成等が主な内容である。
- 環境作りに一段落がついたので59年度以降から、会の目的である会員相互の団結と文化的向上を、次のとおり事業計画に盛り込んで来た。

59年度 5.29 春の親子遠足

3.15 「西備だより」発行

60 " 6.23 PTAスポーツ大会

8.25 親子奉仕作業

61 " 2.10 創立5周年記念誌発刊

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 117人(保護者75人・教職員42人)

(62年度から高等部設置)

役 員 会 長 藤原寿美恵

副会長 中新智賀子・轟 雅子

妹尾千恵・山本 稔

### 事業

- 総務部
- 「西備だより」7号発行
  - 通学バス添乗補導
  - 研究・研修会への参加
  - 仲よし運動会(笠岡・井原)
  - PTA交流
  - 職場施設見学・講演会(2回)

- 事業部 ・親子遠足  
 ・奉仕作業・秋の運動会  
 ・友愛セール

予 算 545,310円  
 繰越金 123,110円  
 会 費 421,200  
 利 息 1,000

#### 4. 附属養護学校 P T A

〒703 岡山市平井3丁目914  
 0862-77-7431

##### 1. 発足当時の状況

本校の P T A は、昭和40年4月1日に附属養護学校が創立された時に結成されたものである。

36年に附属小中学校特殊学級が併わせて5学級になり、独自の活動が多くなっており、現在の母体と考えてよい。

会員51人でスタートし、会費1人月300円、決算額は251,544円であった。

##### 2. 経 過

- ・ 41年には独立校にふさわしい校舎を求める声が大きくなり、新校舎建築促進の陳情が岡山大学長になされた。
- ・ P T A 活動も3年目を迎えると一段と充実したものとなり対外的にも様々な組織に関する活動が増してきた。県立精神薄弱養護学校期成会をバックアップする街頭募金活動もその一つであった。
- ・ 43年4月から新校舎での教育・スクールバスの運行などが始まり、附属学園 P T A の協力に負うところが大きかった。
- ・ 44年には高等部設置に伴う会員増もあって、組織的な活動が望まれ、総務部・文化部・進路指導部を設けている。総務部は研修親善旅行・夏の除草作業・中高生徒の登下校、文化部はバレーを楽しむ会や運動会への出場と機関紙「あおぎり」の発行、進路指導部は卒業生保護者を囲む会・校外実習の参観・職場の開拓である。
- ・ 機関紙「あおぎり」は、すべて保護者の手で作成されており、第1号は44年7月に出され、現在に続いて49号を数えている。
- ・ 47年には友愛セールが開始され、会員手作りの品や不用品を持ち寄ったり、喫茶席をも

うけるなど、収入増を図るとともに会員相互の協力を強める有意義な行事として定着し、福祉厚生部へ発展する。

- ・ 昭和51年度に補導を開始した。当初は天満屋バスセンターに出没する痴漢から子供達を守るために始められたが、現在は登下校の状況査察を通して危険を未然に防止しマナーを育てることを目的としている。小学部はスクールバスで、中・高はバスセンターで年間を通して輪番で行っている。

##### 3. 昭和62年度の状況

構成員 60人

役員 会長 太田ミドリ

副会長 細川百合子・山田富子

##### 事 業

総務部 交通安全対策・研修旅行・親子遠足・研修会・歓送迎会懇親会・なかよし作業所研修

文化部 あおぎり発刊・運動会保護者出場種目決定・趣味の会・コーラス

福祉厚生部 除草作業・友愛セール・校外補導・添乗補導

その他 附属学校 P T A 諸協議会出席

予 算 969,962円

#### 5. 東備養護学校 P T A

〒705 備前市福田637  
 0869-64-8502

##### 1. 発足当時の状況

発起人 校長 守時靖春

発 足 昭和60年4月15日

構成員 101人(小学部40人・中学部23人・教職員38人)

##### 事 業

教養文化部—P T A 研修会(精神科医等の講演会)・広報紙「あかまつ」発行

福祉厚生部—運動会・バザー・ベルマーク収集

予 算 315,000円

##### 2. 経 過

60年度

##### ・研修会

校医有木先生による「精神科医から見た精神薄弱児の教育」の講演(11月)



。PTA広報紙「あかまつ」発行(12・3月)  
61年度

- 。奉仕作業(校庭・農園の草取り)(9月)
- 。研修旅行(光桜路・森下美術館見学)(10月)
- 。くつ加工販売

ナースシューズを染め、飾りをつけて  
販売した。(10月)

- 。土ひねりの会(10月)
- 。もちつき大会(12月)
- 。バザー

学習発表会の日には保護者が手づくりの  
手芸品・クッキー等を持ち寄り、児童・  
生徒に買い物学習の場を提供した。

(12月)

- 。調理講習会(山菜おこわ他)(2月)
- 。PTA広報紙「あかまつ」発行(3回)



—バザーで買物—

### 3. 昭和62年度の状況

構成員 128人(小学部41人・中学部34人・  
高等部10人・教職員43人)

会 長 平松温子(中)

副会長 山本恵美子(小)・服部清子(中)  
田内純子(高)・守時靖春(学)

監 事 歳森節子(小)・太田敬子(中)  
村上 毅(学)

#### 事 業

##### 文化部

- 研修会(陶芸・調理・手芸)
- 講演会(子どもの社会自立をねがって)
- 研修旅行(施設・養護学校訪問)

##### 広報部

広報紙「あかまつ」発行(3回)

##### 厚生部

ベルマーク収集・運動会バザー・くつ加

工・奉仕作業・もちつき大会・学習発表  
会・バザー

予 算 668,445円

おわりに

## 編集を終えて

100を超える地域育成会・親の会の歩みをまとめることができましたことは、それぞれの会から多大な御援助を得たたまものであり、謹んで感謝申し上げます。

歩みの内容は、それぞれの会から届けられたものを、編集上の都合で縮めさせていただき、お考えにそわない点が多いことを深くお詫びいたします。内容にふそろいがあったり、長短があったりするのには、会に事情があること、当事者が異動していることなどによります。

編集に当っては、日ごろ本会に御支援をいただいている方々に、原稿の整理を分担していただき、あらためて御礼申し上げます。

地域の歩みの前に、県育成会の30年史概説や会の設置年度一覧を載せていますので、併せて活用くださるようお願いいたします。

(昭和63年8月28日)

編集を終えて

編集委員 市川 浩一

編集委員 山崎 隆夫

編集委員 山崎 隆夫

編集委員 山崎 隆夫

編集委員 山崎 隆夫

編集委員 山崎 隆夫

編集委員 山崎 隆夫

編集委員 山崎 隆夫



